

デジタルカメラ

EXILIM^{エクシム} EX-ZR3200

取扱説明書 (保証書付き)

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 本機をご使用になる前に、必ず「安全上のご注意」(17ページ)をよくお読みの上、取扱説明書の記載に従って正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト (<http://casio.jp/dc/>)またはカシオホームページ (<http://casio.jp/>)でご覧になることができます。

カシオメンバーズ会員サイト登録のおすすめ

カシオメンバーズは、カシオ製品にご興味をお持ちの方向けに提供するカシオの会員サイトです。

ご入会されますと以下のサービスをご利用いただけます。

1. 様々なカシオ製品のユーザー登録ができます。
2. キャンペーンの応募などに便利です。
3. 情報満載のメールマガジンをご登録いただけます。

<https://members.casio.jp/jp/>



CASIO®

JA

▶ はじめにご覧ください (基本的な操作)

静止画を撮影する (応用)

動画を撮影する

撮りたいシーンを選んで撮影する
(ベストショット)

よりよい撮影のための設定(REC MENU)

静止画や動画を再生する

再生時のその他の機能 (PLAY MENU)

カメラとスマートフォンを接続する
(無線接続)

プリント (印刷) する

パソコンを利用する

その他の設定について (SETTING)

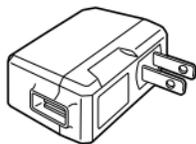
付録

付属品を確認する

箱を開けたら、以下の付属品がそろっているか確認してください。そろっていないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。



リチウムイオン充電電池
(NP-130A)



USB-ACアダプター
(AD-C54UJ)



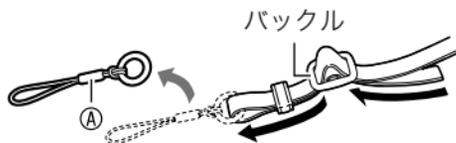
マイクロUSBケーブル



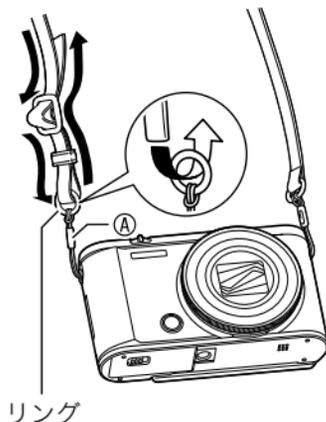
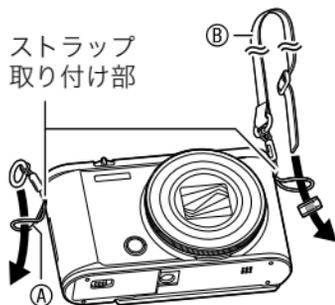
ネックストラップ

ネックストラップを取り付ける

1. ネックストラップをバックル部分から抜いて、リング部分①を取り外す
3. リング部分①のリングに、ネックストラップの先端を通して取り付ける



2. 取り外したネックストラップのリング部分①とネックストラップ②を、それぞれカメラの両端にあるストラップ取り付け部に取り付ける



■ ネックストラップの長さを調整する

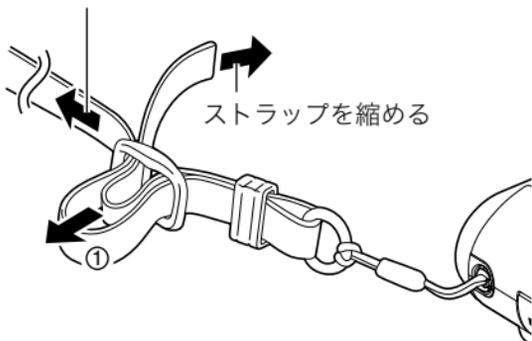
ネックストラップの長さを調整して、ネックストラップ・ショルダーストラップとして使用できます。



1. バックルから、ストラップの①の部分を引き出す

2. ストラップを図のように動かし、長さを調整する

ストラップを伸ばす



あらかじめご承知ください

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 万一、EXILIM Connect(アプリケーションソフト)の使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えません。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、高精度な技術で作られており、有効画素は99.99%以上です。点灯しない画素や常時点灯する画素が存在することがありますが、液晶パネルの特性で、故障ではありません。

撮影前は試し撮りを

必ず事前に試し撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

目次

付属品を確認する.....	2
■ ネックストラップを取り付ける.....	3
あらかじめご承知ください.....	5

■ 安全上のご注意 17

■ 各部の名称 28

■ 液晶モニターの表示内容と切り替えかた 31

■ はじめにご覧ください(基本的な操作) 36

このカメラでできること.....	36
液晶モニターを開閉する.....	39
箱を開けたら、電池を充電する.....	43
■ 電池を入れる.....	43
■ 充電する.....	45
最初に電源を入れたらメッセージの言語を選び時計を合わせる.....	52
電源を入れる/切る.....	54
メモリーカードを準備する.....	56
■ 使用できるメモリーカード.....	56
■ メモリーカードを入れる.....	57
■ 新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する.....	60

メニュー画面を使って設定を変更する	61
カメラの正しい構えかた	63
静止画を撮影する	64
■ プレミアムオート PROに設定する	64
■ 撮影する	66
撮影した静止画を見る	70
撮影した静止画や動画を消去する	71
静止画撮影時のご注意	74

■ 静止画を撮影する(応用) 76

撮影モードを設定する	76
操作パネルを使って撮影設定を変更する	79
■ セルフタイマーを使う	(セルフタイマー) 80
■ 色合いを調整する	(ホワイトバランス) 82
■ ピントの合わせ方を変える	(フォーカス方式) 85
■ ISO感度を変える	(ISO感度) 88
■ 人物の顔を美しく撮影する	(メイクアップ) 89
■ 明るさを補正する	(露出補正) 90
■ フラッシュを使う	(フラッシュ) 92
■ 光の測りかたを変える	(測光方式) 95
ズーム撮影する	96
■ ズーム時の画面表示について	99
■ 静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる	(超解像ズーム) 102
■ 解像感のある高品位な画質のままズームの範囲を広げる	(プレミアムズーム) 103

何枚も連続して撮影する..... (連写モード)	104
■ 高速連写で撮影する	104
■ パスト連写で撮影する.....	106
■ オートフォーカスしながら連写撮影する	(AF連写) 108
被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす.... (モーションシャッター)	110
■ モーションシャッターの設定を変更する	(モーションシャッター) 113
いろいろな作風で撮影する..... (アートショット)	114
■ HDRアート撮影時、効果なし画像も保存する	(ダブル保存(HDRアート)) 118
自分撮りで個性的な画像を撮影する..... (セルフイーアート)	119
一定間隔で複数の静止画を撮影する..... (インターバル撮影)	120
タイマーを使って自分撮りをする..... (セルフイータイマー)	123
■ フロントシャッターにセルフイータイマーの機能を割り当てる.....	123
■ セルフイータイマーを使って自分撮りをする.....	124

■ 動画を撮影する

125

動画を撮影する	125
■ 音声について.....	129
ハイスピード動画を撮影する	131
撮影開始前のシーンも動画に記録する	(パストムービー) 134
タイムラプス動画を撮影する	(タイムラプス) 137
動画撮影中に静止画を撮影する	(スチルインムービー) 142
撮りたい瞬間をスロー記録する動画撮影.....	(ドラマチックスロー) 144
■ ドラマチックスローの設定を変更する	145

ベストショットで撮影する.....	150
自分好みの設定を登録して撮影する..... (カスタムショット) ..	153
人物の顔を美しく撮影する..... (人物) ..	155
撮りたい瞬間を逃さず撮影する..... (トリプルショット) ..	156
デジタル処理で白とびや黒つぶれのない写真を撮影する..... (HDR) ..	157
背景をぼかした写真を撮影する..... (背景ぼかし) ..	158
パノラマ画像を撮影する..... (スライドパノラマ) ..	160
超広角画像を撮影する..... (ワイドショット) ..	163
RAW画像を撮影する..... (RAW撮影) ..	167
テレビに映しながら静止画を撮影する..... (HDMIテレビ出力) ..	168

メニュー画面を使って撮影設定を変更する	171
■ 何枚も連続して撮影する	(連写モード) .. 173
■ 被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす	(モーションシャッター) .. 173
■ フロントシャッターを使用した撮影方法を設定する	(フロントシャッター) .. 173
■ ファンクションリングやコントロールダイヤルに 機能を割り当てる	(キーカスタマイズ) .. 175
■ セルフタイマーを使う	(セルフタイマー) .. 177
■ 明るさを補正する	(露出補正) .. 177
■ 色合いを調整する	(ホワイトバランス) .. 178
■ ISO感度を変える	(ISO感度) .. 178
■ ISO感度の上限を設定する	(ISO感度上限) .. 179
■ ピントの合わせ方を変える	(フォーカス方式) .. 180
■ オートフォーカスの測定範囲を変更する	(AFエリア) .. 181
■ 人物の顔にピントと明るさを合わせて撮影する	(顔検出) .. 183
■ 人物の顔を美しく撮影する	(メイクアップ) .. 185
■ 常にオートフォーカスを動作させる	(コンティニューAF) .. 185
■ 光の測りかたを変える	(測光方式) .. 185
■ 手ブレや被写体ブレを軽減する	(手ブレ関連機能) .. 186
■ 静止画の画像サイズを設定する	(静止画サイズ) .. 188
■ 静止画の画質を設定する	(静止画画質) .. 190
■ 動画の画質を設定する	(動画画質) .. 191
■ 画像の明るさを最適化する	(ライティング) .. 193
■ 鮮鋭さを変える	(シャープネス) .. 193
■ 色の鮮やかさを変える	(彩度) .. 193
■ 明暗の差を変える	(コントラスト) .. 194

■ フラッシュの明るさを変える.....(フラッシュ光量)...	194
■ 静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる.....(超解像ズーム)...	194
■ デジタルズームを設定する.....(デジタルズーム)...	195
■ ピント合わせを補助するライト.....(AF補助光)...	195
■ HDRアート撮影時、効果なし画像も保存する.....(ダブル保存(HDRアート))...	196
■ 動画撮影時の風の音を低減する.....(風音低減)...	196
■ 撮影直後の画像を表示する.....(撮影レビュー)...	196
■ 画面上のアイコンの意味を確認する.....(アイコンガイド)...	197
■ 撮影時の液晶モニター表示を変更する.....(アシスト表示)...	198
■ 各種設定を記憶させる.....(モードメモリー)...	201

■ 静止画や動画を再生する

202

撮影した静止画を見る.....	202
撮影した動画を見る.....	202
撮影したパノラマ画像を見る.....	204
連写した静止画を見る.....	205
■ 連写画像を消去する.....	206
■ 画像のグループ化を解除する.....	208
■ グループ内の画像をコピーする.....(コピー)...	209
画像を拡大して表示する.....	210
画像を一覧表示する.....	211
テレビで静止画や動画を見る.....	211

メニュー画面を使って再生操作や設定を変更する.....	214
■ フロントシャッターに機能を割り当てる..... (フロントシャッター) ..	215
■ 画像を早送りしたり撮影日付ごとに表示する..... (ファンクションリング) ..	216
■ おすすめの画像を1つの静止画や動画にする..... (ハイライト機能) ..	217
■ 自動的にページ送りして楽しむ..... (スライドショー) ..	222
■ 静止画から動画を作成する..... (ムービー作成) ..	226
■ 動画の一部をカットする..... (ムービーカット) ..	227
■ 2つの動画をつなぎ合わせて1つの動画にする..... (ムービー結合) ..	229
■ 動画から静止画を作成する..... (モーションプリント) ..	230
■ 画像の明るさを最適化する..... (ライティング) ..	230
■ 画像の色味を変える..... (ホワイトバランス) ..	231
■ 画像の明るさを変える..... (明るさ編集) ..	232
■ 印刷する画像を選ぶ..... (プリント設定) ..	232
■ ファイルを消去できないようにする..... (プロテクト) ..	233
■ グループ内の画像を消去できないようにする..... (プロテクト) ..	234
■ 撮影画像の日時を修正する..... (日時編集) ..	235
■ 画像を回転させる..... (回転表示) ..	236
■ 画像サイズを小さくする..... (リサイズ) ..	237
■ 静止画の一部を切り抜く..... (トリミング) ..	237
■ ファイルをコピーする..... (コピー) ..	238
■ 連写画像を1枚の静止画にまとめる..... (連写マルチプリント) ..	239
■ 画像のグループ化を解除する..... (グループ解除) ..	239
■ グループ化された画像を編集する..... (グループ編集) ..	240

■ カメラとスマートフォンを接続する(無線接続)

241

スマートフォンでできること	241
無線モードについて	246
スマートフォンをカメラに接続するための準備	248
■ スマートフォンにEXILIM Connectをインストールする	249
■ 最初に無線接続設定をする	250
スマートフォンをカメラのリモコンとして使う	255 (スマートフォンで撮影)
知人と静止画を共有する	257 (ワンタイムシェア)
カメラで撮影した画像を選んでスマートフォンに送る	260 (選択して送る)
カメラで撮影した画像をスマートフォンで見る	261 (スマートフォンから見る)
無線接続の設定をする	263
■ 本機を機内モードにする	263 (機内モード)
■ 撮影ごとに画像をスマートフォンに送信する	264 (自動送信)
■ 自動送信で送信する画像を選ぶ	266 (自動送信ファイル設定)
■ 静止画をリサイズしてスマートフォンに送信する	267 (送信時リサイズ)
■ 静止画に位置情報を付け加える	267 (位置情報)
■ 無線LAN接続時のカメラのパスワードを変更する	269 (無線LANパスワード)
■ ペ어링を解除する	270 (ペ어링解除)

■ プリント(印刷)する

271

静止画のプリント方法	271
プリントする画像や枚数を指定しておく	272 (プリント設定(DPOF))

パソコンを使ってできること	277
Windowsパソコンを利用する	278
■ 画像をパソコンに保存する／パソコンで見る	279
Macintoshを利用する	286
■ 画像をパソコンに保存する／パソコンで見る	287
ファイルとフォルダーについて	291
メモリー内のデータについて	292

メニュー画面を使って、その他の設定を変更する	295
■ 省電力状態にして、撮影可能枚数を増やす	(エコモード) 296
■ 液晶モニターの明るさを変える	(液晶設定) 297
■ カメラの音を設定する	(操作音) 298
■ 画像保存用のフォルダーを作成する	(フォルダー作成) 298
■ 日付や時刻を写し込む	(タイムスタンプ) 299
■ 撮影時のカメラの向きに合わせて画像を表示する	(縦画像回転再生) 299
■ 画像の連番のカウント方法を切り替える	(ファイルNo.) 300
■ 電池の消耗を抑える	(スリープ) 301
■ 電池の消耗を抑える	(オートパワーオフ) 301
■ 液晶モニター開閉時の動作を設定する	(液晶開閉) 302
■  の動作を設定する	(PLAY) 302
■ 画像の消去操作ができないようにする	(消去キー) 303
■ 海外旅行先での時刻を設定する	(ワールドタイム) 303
■ カメラの日時を設定し直す	(日時設定) 304
■ 日付の表示の並びを変える	(表示スタイル) 305
■ 表示言語を切り替える	(Language) 305
■ HDMI端子の出力方法を変える	(HDMI出力) 306
■ メモリーをフォーマットする	(フォーマット) 306
■ 各種設定を購入直後の設定に戻す	(リセット) 307
■ カメラのファームウェアのバージョンを確認する	(バージョン情報) 307

使用上のご注意	308
電源について	335
■ 充電について	335
■ 電池に関するご注意	336
■ 海外で使うときは	337
メモリーカードについて	338
リセット操作でリセットされる内容	340
故障かな？と思ったら	344
■ 現象と対処方法	344
■ 画面に表示されるメッセージ	353
撮影可能枚数／撮影可能時間	357
主な仕様／別売品	360
索引	365
保証・アフターサービスについて	371
アフターサービス窓口について	373
保証規定	379

安全上のご注意



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり財産が損害を受ける危険の恐れがある内容を示しています。

絵表示の例



○記号は「してはいけないこと」を意味しています(左の例は分解禁止)。



●記号は「しなければならないこと」を意味しています(左の例は電源プラグをコンセントから抜く)。

⚠ 危険

充電式電池について

- 電池の充電は指定以外の方法で充電しないでください。その他の充電条件で充電すると、電池を発熱・発火・破裂させる恐れがあります。 
- 電池を水や海水などにつけたり、濡らしたりしないでください。電池の破損や性能・寿命を低下させる原因となります。 
- 電池は、カシオデジタルカメラ専用です。指定機器以外の用途に使用すると、電池の破損や性能・寿命を低下させる原因となります。 
- 電池を使用する場合、次のことを必ずお守りください。電池を発熱・発火・破裂させる原因となります。
 - － 電池を火の側で使用したり、放置したりしないでください。 
 - － 火の中に投入したり、加熱しないでください。
 - － 誤った向きにして充電しないでください。
 - － 導電性異物(ネックレス・鉛筆の芯等)などと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
 - － 分解・改造をしたり針を刺したり、強い衝撃(ハンマーで叩く、踏みつけるなど)を与えたり、直接ハンダ付けしないでください。電池を電子レンジ・乾燥機・高圧容器などに入れたりしないでください。
 - － 外装シールをはがさないでください。
- 電池の使用・充電中・保管時に、漏液・異臭・発熱・変色・変形・外傷・その他異常と思われるときは、機器や充電器からただちに取り出し、火気から遠ざけてください。また、その電池は使用しないでください。 
- 電池を直射日光の強い所や炎天下の車内などの高温の場所で使用したり、放置しないでください。発熱・発火や性能・寿命を低下させる原因となることがあります。また、電池の膨れにより電池が取り出せなくなる恐れがあります。 

危険

- 液が目に入ったときは、障害を起こす恐れがあるので、きれいな水で洗いすぐに医師の治療を受けてください。



警告

煙、臭い、発熱などの異常について

- 煙が出ている、へんな臭いがする、発熱しているなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。
1. 電源を切る。
 2. USB-ACアダプター使用時は、電源プラグをコンセントから抜く。また、やけどに注意してカメラから電池を取り出す。
 3. 「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店に連絡する。



火中に投入しない

- 本機を火中に投入しないでください。破裂による火災・けがの原因となります。



移動しながら撮影しない

- 自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、モニターを見ないでください。転倒、交通事故の原因となります。



フラッシュなど光を発する機能について

- 可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在する恐れがある場所では使用しないでください。引火・爆発の原因となります。
- 運転者に向けてフラッシュなど光を発する機能を使用しないでください。目がくらんで運転不可能になり、事故を起こす原因となります。



⚠ 警告

USB-ACアダプターについて

- USB-ACアダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となります。次のことを必ずお守りください。
 - 指定のUSB-AC アダプター以外は絶対に使用しない
 - 指定の機器以外には絶対に使用しない
 - 電源は、AC100V(50/60Hz)以外のコンセントは使用しない
 - 1つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐ、いわゆるタコ足配線をしない
 - ストープなどの熱器具に近づけない
- USB-ACアダプターは使いかたを誤ると、傷ついたり破損して、火災、感電の原因となります。次のことを必ずお守りください。
 - 重いものを乗せたり、加熱しない
 - 加工したり、傷つけたり、無理に曲げない
 - ケーブルをねじったり、引っ張ったりしない
 - ケーブルに足を引っ掛けない、ケーブルを蹴らない
- 濡れた手で電源プラグに触れないでください。
感電の原因となります。
- 電源プラグは傷んだら、「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店に連絡してください。
- USB-ACアダプターは液体※のかからない状態で使用してください。液体がかかると火災・感電の原因となります。
※ 液体：水やスポーツドリンク、海水、動物・ペットの尿など
- USB-ACアダプターの上に花瓶などの液体の入ったものを置かないでください。水がかかると火災や感電の原因となります。



警告

● 雷が鳴ったら本機やUSB-ACアダプターに触れないでください。



● 外出時は、動物・ペットが本機に近づけないようにして、USB-ACアダプターはコンセントから抜いてください。
ペットがケーブルに噛みつくと、ショート(短絡)による火災の原因となります。



水、異物はさける

● 水、液体、異物(金属片など)が本機内部に入ると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。雨天、降雪中、海岸、水辺、風呂場での使用は特にご注意ください。



1. 電源を切る。
2. USB-ACアダプター使用時は、電源プラグをコンセントから抜く。また、カメラから電池を取り出す。
3. 「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店に連絡する。

分解・改造しない

● 本機を分解・改造しないでください。感電・やけど・けがをする原因となります。内部の点検・調整・修理は「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にご依頼ください。



警告

落とさない、ぶつけない

- 本機を落としたときなど、破損したまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。 
- 1. 電源を切る。
- 2. USB-ACアダプター使用時は、電源プラグをコンセントから抜く。また、カメラから電池を取り出す。
- 3. 「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店に連絡する。

メモリーカードについて

- メモリーカードは小さいため、乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。 

通電中のカメラについて

- 通電中のカメラに長時間直接接触しないでください。使用中に温度の高くなる部分があり、低温やけどの原因となります。 

警告

他の電子機器への干渉について

- 本機を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、無線通信機能を使用しないようにするか、本機の電源を切ってください。電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となります。 
- 病院内や航空機内では、病院や航空会社の指示に従ってください。本機からの電磁波などが計器類に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。 
- 高精度な電子機器または微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、使用しないでください。電子機器が誤作動するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。 
- ペースメーカーなどをご使用の方は、本機を胸部から離してご使用ください。ペースメーカーなどに磁力の影響を与えることがあります。万一異常を感じたら直ちに本機を体より離し、医師に相談してください。 
- 満員電車の中など混雑した場所では、付近に心臓ペースメーカーを装着している方がいる可能性があるため、無線通信機能を使用しないようにするか、本機の電源を切ってください。電波によりペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。 

⚠ 注意

USB-ACアダプターについて

- USB-ACアダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。
- － 布団、毛布等をかぶせての使用や、熱器具のそばで使用しない(放熱を妨げ、周辺温度が上昇します) 
- － USB-ACアダプター(特にプラグやジャック部分)、USBケーブル(特にプラグ部分)の清掃には、洗剤を使用しない
- － 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む 
- － 旅行などの長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く
- － 電源プラグは年1回以上電源プラグの刃と刃の周辺部分にほこりがたまらないように乾いた布や掃除機で清掃する

充電式電池について

- 充電時に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。電池を発熱・発火・破裂させる原因となることがあります。 
- 電池を使用・充電する前に必ず、カメラ・専用充電器の取扱説明書をお読みください。 
- 電池は乳幼児の手の届かない所へ保管し、使用する時も、乳幼児が充電器や機器から電池を取り出さないよう注意してください。 
- ベットの近くに電池を置かないでください。電池に噛みついた場合、電池の液もれや発熱、破裂により、故障の原因となることがあります。 
- 電池からもれた液が皮膚や衣服に付着した場合、皮膚がかぶれる恐れがあるので、すぐにきれいな水で洗い流してください。 

⚠ 注意

コネクタ部への接続

- コネクタ部には、指定品以外は接続しないでください。火災・感電の原因となることがあります。



不安定な場所に置かない

- ぐらついた台の上や高い棚の上など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。



置き場所について

- 本機を次のような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
 - － 湿気やほこりの多い場所
 - － 調理台のそばなど油煙が当たるような場所
 - － 暖房器具の近く、ホットカーペットの上、直射日光が当たる場所、炎天下の車中など本機が高温になる場所



表示画面について

- 液晶表示画面を強く押ししたり、強い衝撃を与えないでください。液晶表示画面のガラスが割れてけがの原因となることがあります。
- 液晶表示画面が割れた場合、表示画面内部の液体には絶対に触れないでください。皮膚の炎症の原因となることがあります。
- 万一、口に入った場合は、すぐにうがいをして医師に相談してください。
- 目に入ったり、皮膚に付着した場合は、清浄な流水で最低15分以上洗浄したあと、医師に相談してください。



⚠ 注意

ネックストラップ

- ストラップを首にかけた状態で使うときは、手を添えておくなど、十分に注意してください。
ストラップを持ってカメラを振り回さないでください。
衝突、落下などでけがの原因となることがあります。
- 小さなお子様の手の届かない所へ保管してください。
誤ってストラップが首に巻きつくなど、事故発生の恐れがあります。
- ご使用中に肌に異常が現れた場合は、直ちに使用を中止してください。



大切なデータは控えをとる

- 本機に記憶させた内容は、パソコンなどに転送してバックアップとして保管してください。本機の故障、修理などにより、記憶内容が消えることがあります。



メモリー保護

- 電池交換やメモリーカード交換を行う際は、取扱説明書をよくお読みになり、正しく行ってください。交換のしかたを誤ると、データが消えたり、変化したりすることがあります。



注意

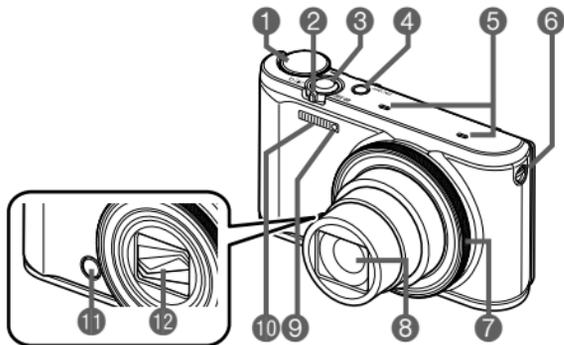
フラッシュなど光を発する機能について

- フラッシュなど光を発する機能を人(特に顔)に向けて至近距離で使用しないでください。視力の低下などの障害を起こす原因となることがあります。特に、乳幼児を撮影するときには、1m以上はなれてください。 
- フラッシュ発光部を指、手袋、その他のもので触れないでください。やけど、発煙、変色、故障の原因となることがあります。 
- フラッシュの発光部が汚れていたり、ゴミなどの異物がついた状態で、フラッシュを発光しないでください。発煙や変色の原因となることがあります。 

各部の名称

各部の説明が記載されている主なページを()内に示します。

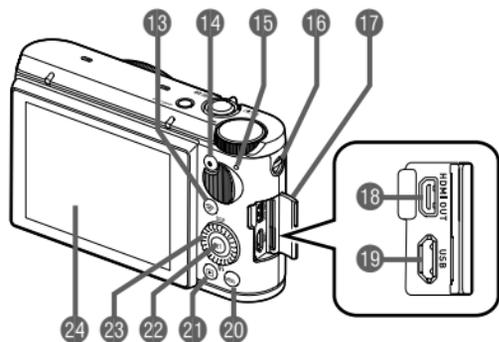
前面



- ① モードダイヤル(65、76、125ページ)
- ② ズームレバー(66、97、210ページ)
- ③ シャッター(54、65ページ)
- ④ 【ON/OFF】(電源)(52、54ページ)
- ⑤ マイク(129ページ)
- ⑥ ストラップ取り付け部(3ページ)
- ⑦ ファンクションリング(216ページ)

- ⑧ レンズ
- ⑨ 前面ランプ(81、195ページ)
- ⑩ フラッシュ(92ページ)
- ⑪ フロントシャッター(173、215ページ)
- ⑫ レンズバリア(311ページ)

後面

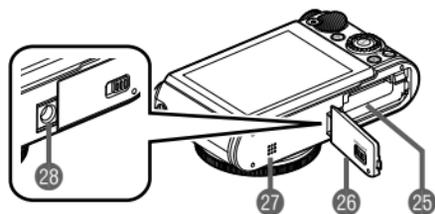


- 13 【Wi-Fi】(無線) ボタン
(113、246ページ)
- 14 【●】(ムービー) ボタン
(125ページ)
- 15 後面ランプ(47、49、54、
67、93ページ)

- 16 ストラップ取り付け部
(3ページ)
- 17 端子カバー
- 18 【HDMI OUT】
HDMI output(マイクロ)
端子(169ページ)

- 19 【USB】 端子
(46、48ページ)
- 20 【MENU】 ボタン
(125、171ページ)
- 21 【▶】(再生) ボタン
(54、70ページ)
- 22 【SET】 ボタン
(79、125、171ページ)
- 23 コントロールダイヤル
(【▲】【▼】【◀】【▶】)
- 24 液晶モニター
(31、65ページ)

底面

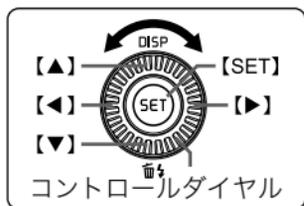


- 25 電池／メモリーカード挿入部
(43、57ページ)
- 26 電池カバー
- 27 スピーカー
- 28 三脚穴
三脚に取り付けるときに使用します。

■ コントロールダイヤルについて

コントロールダイヤルは、ダイヤルの上下左右部分を押し以外に、ダイヤルを回して操作することもできます。

- 機能によっては、コントロールダイヤルで操作できない場合もあります。



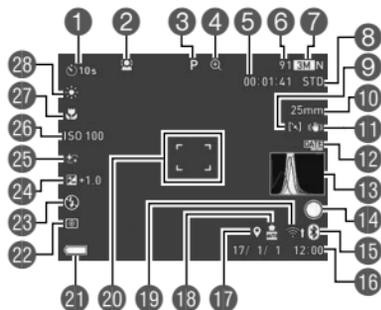
- 本書では、コントロールダイヤルの上下左右部分を押し、【▲】【▼】【◀】【▶】を押す、と表記します。

液晶モニターの表示内容と切り替えかた

液晶モニターには、さまざまな情報がアイコンや数字などで表示されます。

- 下の画面は、情報が表示される位置を示すためのものです。液晶モニターが実際にこの画面のようになることはありません。

■ 静止画撮影時(1枚撮影時)



- 1 セルフタイマー(80ページ)
- 2 顔検出(183ページ)
- 3 撮影モード(76ページ)
- 4 デジタルズーム/超解像ズーム(99ページ)
- 5 動画撮影可能時間(127ページ)
- 6 静止画撮影可能枚数(357ページ)
- 7 静止画の画像サイズ/画質(188、190ページ)
- 8 動画画質(FHD/STD動画)(125、191ページ)/撮影速度(ハイスピード動画)(131ページ)
- 9 AFエリア(181ページ)
- 10 焦点距離(35mmフィルム換算)(98ページ)
- 11 手ブレ関連機能(186ページ)
- 12 タイムスタンプ(299ページ)
- 13 ヒストグラム(198ページ)
- 14 フロントシャッターの動作(173ページ)
- 15 Bluetoothの通信状況(250ページ)/機内モード(263ページ)
- 16 日付/時刻(52、304ページ)
- 17 位置情報(267ページ)
- 18 自動送信(264ページ)

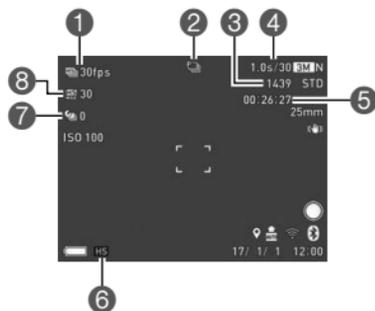
- 19 無線LANの通信状況(250ページ)
- 20 フォーカスフレーム(67、182ページ)
- 21 電池残量表示(51ページ)
- 22 測光方式(95ページ)
- 23 フラッシュ(92ページ)

- 24 露出補正(90ページ)
- 25 メイクアップ(89ページ)
- 26 ISO感度(88ページ)
- 27 フォーカス方式(85ページ)
- 28 ホワイトバランス(82ページ)

参考

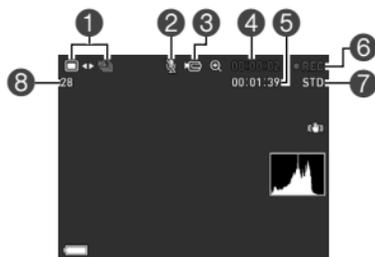
- 撮影時の設定によっては、絞り値、シャッター速度、ISO感度が表示されない場合があります。AE(自動露出)が適正でないときは赤色に表示されます。

■ 静止画撮影時(連写時)



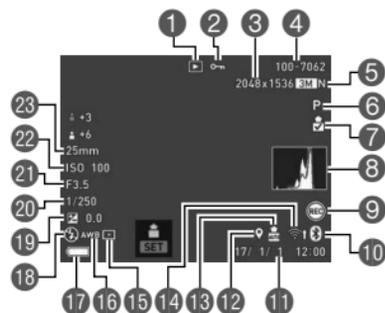
- 1 連写撮影速度(104ページ)
- 2 撮影モード(76ページ)
- 3 静止画撮影可能枚数(357ページ)
- 4 連続撮影可能時間※/連続撮影可能枚数(104ページ)
※パスト連写時は表示されません。
- 5 動画撮影可能時間(358ページ)
- 6 連写モード(104ページ)
- 7 パスト連写枚数(106ページ)
- 8 最大連写枚数(104ページ)

■ 動画撮影時



- ① 静止画撮影モード(スチルインムービー)
(142ページ)
- ② 録音オフ(131ページ)
- ③ 動画アイコン(127ページ)
- ④ 動画の撮影時間(127ページ)
- ⑤ 動画の残り撮影時間(127ページ)
- ⑥ 動画撮影中(127ページ)
- ⑦ 動画画質(FHD/STD動画)(125、191ページ) /
撮影速度(ハイスピード動画)(131ページ)
- ⑧ 静止画撮影可能枚数(357ページ)

■ 静止画再生時



- 1 ファイル形態
- 2 プロテクト表示(233ページ)
- 3 静止画の画像サイズ(188ページ)
- 4 フォルダー名-ファイル名(291ページ)
- 5 静止画の画質(190ページ)
- 6 撮影モード(76ページ)
- 7 送信済みアイコン(260、264ページ)
- 8 ヒストグラム(198ページ)
- 9 フロントシャッターの動作(215ページ)
- 10 Bluetoothの通信状況(250ページ) / 機内モード(263ページ)
- 11 日付/時刻(304ページ)
- 12 位置情報(267ページ)
- 13 自動送信(264ページ)
- 14 無線LANの通信状況(250ページ)
- 15 測光方式(95ページ)
- 16 ホワイトバランス(231ページ)
- 17 電池残量表示(51ページ)
- 18 フラッシュ(92ページ)
- 19 露出補正(90ページ)
- 20 シャッター速度
- 21 絞り値
- 22 ISO感度(88ページ)
- 23 焦点距離(35mmフィルム換算)

参考

- 画面の右上に表示されるフォルダー名-ファイル名は下記のような意味となります(291ページ)。
例) 100-0023:"100CASIO"というフォルダー内の23番目の画像ファイル

■ 動画再生時



- ① 音声なし
 - ② 動画の撮影時間(202ページ)
 - ③ 動画画質(FHD/STD動画)(125、191ページ) / 撮影速度(ハイスピード動画)(131ページ)
 - ④ 撮影間隔(139ページ)
- タイムラプスで撮影した動画に表示されます。

■ 液晶モニターの表示内容を切り替える

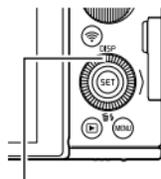
【▲】(DISP)を押すごとに、画面に表示される情報表示の有無が選べます。撮影モード、再生モードでそれぞれ設定できます。

撮影モード

情報表示あり	設定内容などの情報を表示します。
情報表示なし	設定内容などの情報を表示しません。

再生モード

情報表示あり	撮影時の情報とヒストグラム(198ページ)が表示されます。
情報表示なし	撮影時の情報が表示されません。

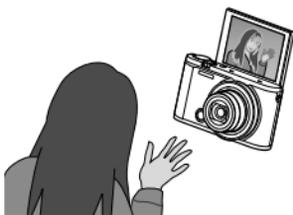


【▲】(DISP)

はじめにご覧ください(基本的な操作)

このカメラでできること

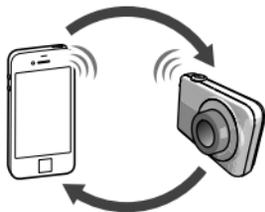
このカメラに搭載されているさまざまな機能から、代表的な機能を紹介します。



自分撮り

液晶モニターが最大で180度開きますので、液晶モニターで確認しながら自分撮りができます。また、「フロントシャッター」や「モーションシャッター」を使って、手軽に撮影ができます。

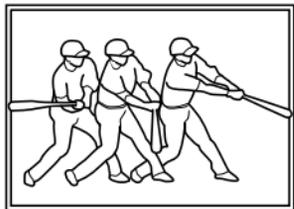
→40、110、173ページ



無線接続

スマートフォンをカメラのリモコンとして使ったり、撮影した画像をスマートフォンに送信できます。

→241ページ



ドラマチックスロー

被写体が生き活きと動いている瞬間をスローで記録し、ドラマチックな動画を撮影します。

- イラストは、効果や効能を説明するためのイメージです。

→144ページ

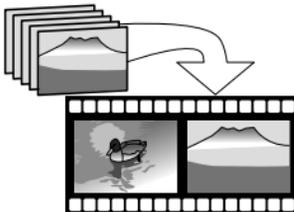


ワンタイムシェア

カメラで選んだ静止画を、ペアリングしていない知人のスマートフォンで見ることができます。

ワンタイムシェアを使用するには、スマートフォンに“Scene”アプリのインストールが必要です。

→257ページ



ハイライトムービー

おすすめの静止画や動画が自動で複数選択され、1つのムービー(動画)に編集できます。

→217ページ



プレミアムオート PRO

被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、一般的なオート撮影よりも高画質で撮影できます。

→64ページ



ハイスピード動画

最高1秒間に1000コマ(1000fps)の動画が撮影できます。通常目では見えない瞬間をスロー再生で見ることができます。

→131ページ



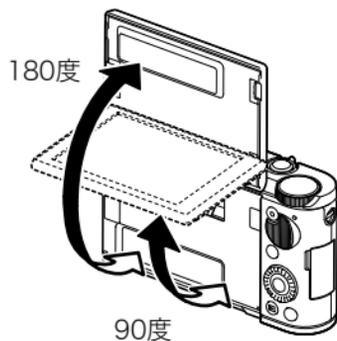
セルフィーアート

自分撮りに最適な効果がかかった写真に仕上げることができます。

→119ページ

液晶モニターを開閉する

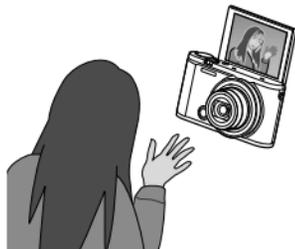
本機の液晶モニターは、上部を軸に180度開きます。液晶モニターを180度開くと、液晶モニターで確認しながら自分撮りができます。また、90度開くとカメラを低い位置にしても楽な姿勢で撮影できます。



■ こんな使い方ができます

自分撮り

液晶モニターを180度開くと、液晶モニターで確認しながら撮影できます。



低い位置からの撮影

液晶モニターの角度を調整すると、楽な姿勢で撮影できます。



高い位置からの撮影

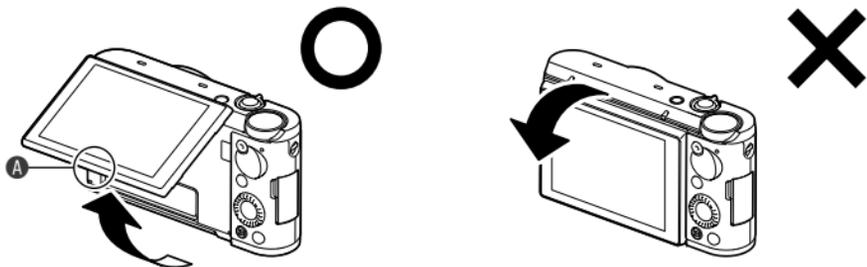
カメラを上下逆に構えて液晶モニターの角度を調整すると、高い位置(ハイアングル)からの撮影ができます。液晶モニターに表示される情報表示や撮影画像は自動で180度回転します。



■ 液晶モニターを開ける

図のように液晶モニター下部の中央部 **A** に指をかけて上に持ち上げ、回転させるように開いてください。

- 液晶モニターの上部からは開きません。必ず図のように下部から開いてください。



★ 重要

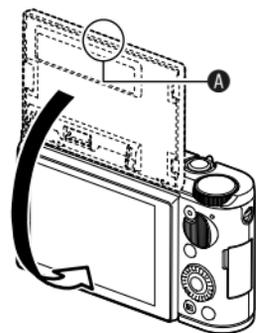
- お買い上げ直後は、液晶モニターを開くとカメラの電源が入ります。電源が入らないように設定を変更することもできます。詳しくは、302ページをご覧ください。
- 液晶モニターを閉じるときは、液晶モニターの上部または下部に指などはさまないようにご注意ください。
- 液晶モニターを強く押さないでください。液晶モニターが破損することがあります。

参考

- カメラを使用しないときは、液晶モニターを閉じてください。

■ 液晶モニターを閉じる

図のように液晶モニター下部の中央部 **A** を持って、回転させるように閉じてください。



箱を開いたら、電池を充電する

お買い上げ直後は、電池はフル充電されていません。次の手順でカメラに電池を入れたあとに充電してください。

- 本機は、当社の専用リチウムイオン充電電池(NP-130A)を電源として使用します(NP-130A以外の電池は使用できません)。

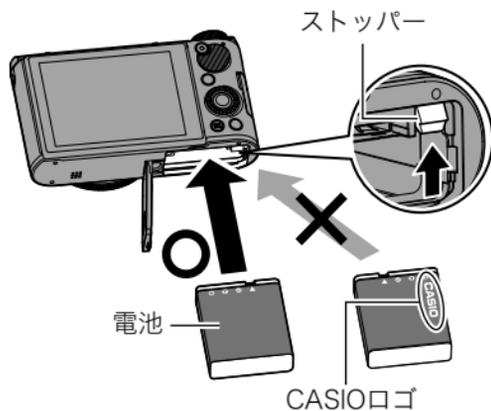
電池を入れる

1. 電池カバーを開ける

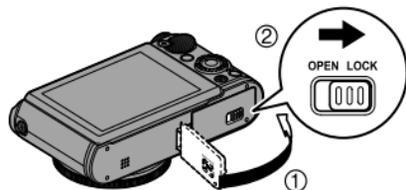


2. 電池を入れる

電池のCASIOのロゴのある面を下(レンズ側)にして、電池の側面でストッパーを矢印の方向にずらしながら電池を入れます。ストッパーが電池にかかるまでしっかり押し込んでください。



3. 電池カバーを閉める

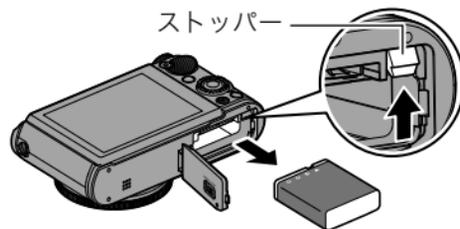


電池を交換する

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を切り、電池カバーを開ける
2. 電池を取り出し、新しい電池を入れる
3. 電池カバーを閉める

重要

- ・ 【ON/OFF】(電源)を押して電源を切ったとき、後面ランプ(29ページ)が緑色に点滅している間は電池を取り出さないでください。データが消えたり、変化したりすることがあります。



充電する

本製品は、以下の3つの方法で充電できます。

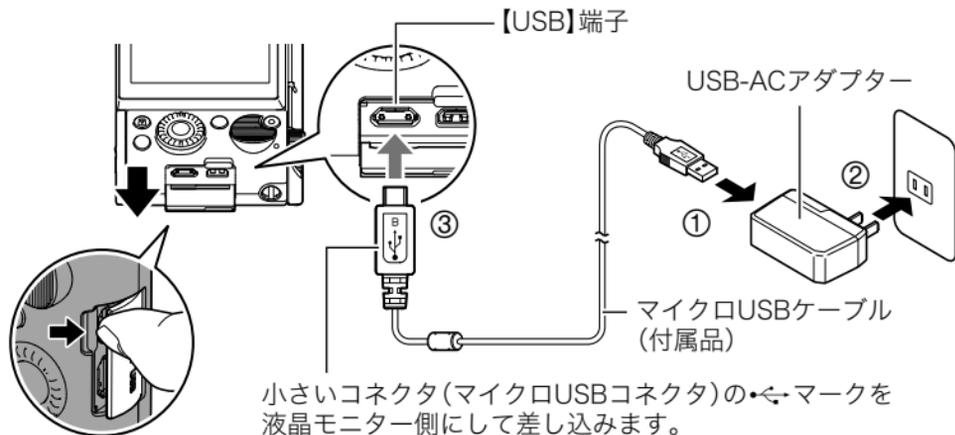
- ① USB-ACアダプター(AD-C54UJ)で充電する(46ページ)
- ② パソコンのUSB端子から充電する(付属のマイクロUSBケーブルを使用)(48ページ)
- ③ 専用充電器(BC-130L(別売品))で充電する(50ページ)

■ USB-ACアダプターで充電する

電池をカメラに装着したまま充電します。

カメラの電源が切れた状態で、①、②、③の順に接続します。

充電時間：約4時間

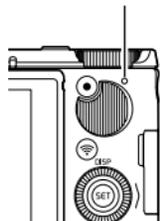


- カメラからアダプターを外す場合は、必ずカメラ側(上の図の③)から先に外してください。

後面ランプの動作

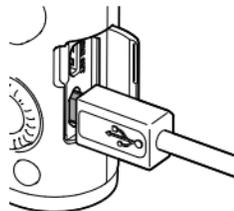
動作	内容
赤点灯	充電中
赤点滅	周辺温度の異常／USB-ACアダプターの異常／ 電池の異常(335ページ)
消灯	充電完了

後面ランプ



重要

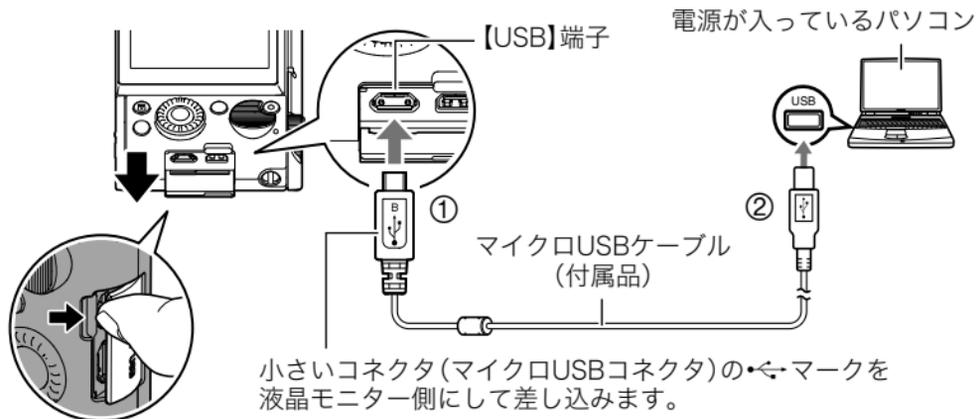
- 長期間電池を使わなかった場合や周囲の温度によっては、充電時間がさらに延びることがあります。また、後面ランプが赤く点滅することがあります。そのときは、335ページをご覧ください。
- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USB-ACアダプターがカメラと接続された状態で【ON/OFF】(電源)ボタンを押すと、電池からの電源供給によってカメラが起動します。このとき、充電は停止します。
- 充電中、USB-ACアダプターは若干熱を持ちますが、故障ではありません。



■ パソコンのUSB端子から充電する

電池をカメラに装着したまま充電します。

カメラの電源が切れた状態で、①と②の接続をします。

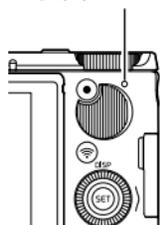


- パソコンに接続する前にカメラの電源が入っているときは、【ON/OFF】(電源)を押して電源を切ってください。

後面ランプの動作

動作	内容
赤点灯(オレンジ点灯/点滅)	充電中
赤点滅	周辺温度の異常/充電時間の異常/ 電池の異常(335ページ)
消灯(緑点灯)	充電完了

後面ランプ



- ・〔 〕内は、パソコンのUSB端子から充電しているときに、カメラの電源を入れた場合の動作です。

重要

- ・初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。
- ・長期間電池を使わなかった場合や、パソコンの種類や接続環境によっては、充電時間がさらに延びる場合があります。また、後面ランプが赤く点滅することがあります。その場合は、335ページをご覧ください。
- ・より早く充電を完了するためには、付属のUSB-ACアダプターで充電することをおすすめします。
- ・パソコンでカメラを充電している最中は、撮影できません。撮影するときはUSBケーブルを抜いてください。
- ・パソコンでカメラを充電している最中に、カメラの電源を入れると充電を継続したまま、パソコンとのUSB通信状態に移行します。ただし、パソコンの種類や接続環境により給電能力が低い場合は、充電のみ停止します。このとき後面ランプは緑色に点灯します。

■ 専用充電器(BC-130L(別売品))で充電する

充電池(NP-130A)を直接充電できます。充電方法については、BC-130Lに付属の取扱説明書を参照ください。

約4時間でフル充電されます。

その他充電についてのご注意

- 本機はUSB2.0準拠のUSB端子からのみ充電できます。
- USB充電に対応する機器や電源機器には、一定の規格があります。粗悪なもの、規格から外れるもののご使用は、機器の誤動作、故障の原因になることがあります。
- 自作のパソコンや改造したパソコンでの動作は保証できません。市販のパソコンでもUSBポートの仕様によっては、USBケーブルを接続しても充電されない場合があります。
- 使用直後の熱くなった電池は、十分に充電されない場合があります。電池が冷めるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用しない場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。その場合、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。
- USB-ACアダプター(AD-C54UJ)は本機以外には使用しないでください。
- 充電は、本書で指定したUSB-ACアダプター、USBケーブルをご使用ください。指定以外のもので充電した場合は、正しく充電できないことがあります。

電池の残量を確認するには

電池が消耗すると、液晶モニターに表示される電池残量表示が下記のように変化します。

電池の残量	多い	←	→	少ない			
電池残量表示		→		→		→	
残量表示の色	白色	→	白色	→	赤色	→	赤色

“”は電池残量が少ないことを表しています。早めに充電してください。

“”の状態では撮影できません。すぐに充電してください。

- 撮影モードと再生モードを切り替えた場合、電池残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池が入っていない、または消耗している状態でカメラを約20日放置すると、日時の設定がリセットされます。新たに電源を入れたとき、日付の設定をお知らせする画面が表示されますので、日付を設定してください(304ページ)。
- 電池寿命と撮影枚数に関しては362ページをご覧ください。

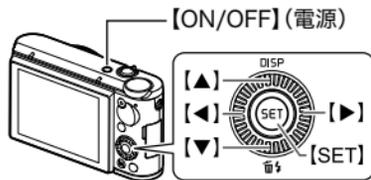
電池を長持ちさせるために

- エコモード(296ページ)に設定することで、省電力状態になります。ただし、液晶モニターが少し暗くなります。
- オートパワーオフ機能(301ページ)やスリープ機能(301ページ)を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます。
- コンティニューアスAF(185ページ)を“切”にしてください。

最初に電源を入れたらメッセージの言語を選び時計を合わせる

お買い上げ後、最初に電源を入れたときは、画面に表示されるメッセージなどの言語および時計を設定する画面が表示されます。時計を設定しないと、撮影した画像に正しい日時が記録されません。

- 日本で使う場合の操作例です。



1. **[ON/OFF]** (電源) を押して電源を入れる

2. **[▲]****[▼]** を押して“日本語”を選び、**[SET]** を押す

3. **[▲]****[▼]** を押して日付の表示スタイルを選び、**[SET]** を押す

例) 2017年7月10日

“年/月/日” → “17/7/10” と表示

“日/月/年” → “10/7/17” と表示

“月/日/年” → “7/10/17” と表示

4. 日付と時刻を合わせる

【◀】【▶】で年、月、日、時、分を選び、【▲】【▼】で数字を合わせます。

12時間/24時間表示を切り替えるには、“24h”を選び、【▲】【▼】で切り替えます。



5. 日付/時刻合わせが終了したら、【◀】【▶】を押して“決定”を選び、【SET】を押す

表示言語や日付/時刻を間違えて設定した場合、上記の手順では直せません。下記のページをご覧ください。

- 表示言語: 305ページ
- 日付/時刻: 304ページ

参考

- 時計を設定しても、すぐに電池を抜くと、設定した時刻がリセットされる場合があります。時計を設定後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。

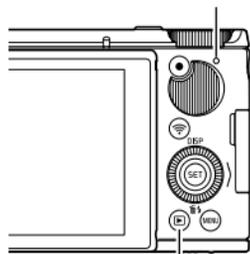
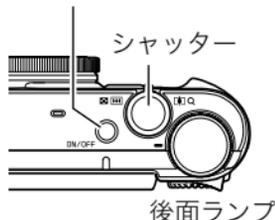
電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

撮影モードで電源を入れる	<p>【ON/OFF】(電源)を押す</p> <ul style="list-style-type: none">後面ランプが緑色に一時点灯し、レンズが出てきます(64ページ)。撮影モード中に【▶】(再生)を押すと、再生モードになります。
再生モードで電源を入れる	<p>【▶】(再生)を押す</p> <ul style="list-style-type: none">後面ランプが緑色に一時点灯し、撮影した画像が再生されます(70ページ)。再生モード中にシャッターを押すと、撮影モードになります。

- レンズを押さえたりぶつかけたりしないようにしてください。レンズを手で押さえ込んでレンズの動きを妨げると、故障の原因になります。
- 【▶】(再生)を押して再生モードに切り替えると、約10秒後にレンズが収納されます。
- スリープ機能(301ページ)、オートパワーオフ機能(301ページ)により、一定時間操作しないと、自動的に液晶モニターが消灯したり電源が切れたりします。
- パソコンでカメラを充電している最中に、【ON/OFF】(電源)や【▶】(再生)を押しても、カメラは起動しません(48ページ)。

【ON/OFF】(電源)



【▶】(再生)

■ 電源を切る

【ON/OFF】(電源)を押します。

参考

- 液晶モニターを開くことで、電源を入れることもできます(302ページ)。
- 【▶】(再生)を押して、電源が切れるように設定することもできます(302ページ)。

メモリーカードを準備する

本機はメモリーを内蔵していますが、記録容量が小さいので、多くの静止画や長時間の動画を保存するために、市販のメモリーカードをご用意ください。メモリーカードを入れているときはメモリーカードに、入れていないときは内蔵メモリーに記録されます。

- 保存できる映像の数量については357ページをご覧ください。

使用できるメモリーカード

本機はSD規格に準拠したメモリーカードが使用できます。

- SDメモリーカード(2GB以下)
- SDHCメモリーカード(2GB超~32GB以下)
- SDXCメモリーカード(32GB超~2TB以下)



- 使用できるメモリーカードの種類は2017年1月現在のものです。
- ()内は規格上の容量です。
- 上記のメモリーカードであっても容量をはじめ、すべてのカードで動作を保証するものではありません。

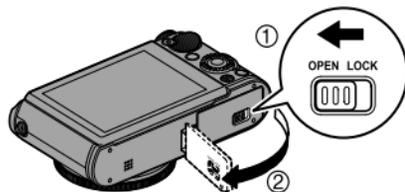
当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。具体的なメーカー名や対応容量などの詳細は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」(<http://casio.jp/support/dc/>)をご覧ください。か、「お客様相談窓口」(373ページ)にお問い合わせください。

■ メモリーカードのご使用上の注意

メモリーカードの種類によっては、処理速度が遅くなる場合があります。特に高品位の動画は正常に記録できない場合があります。また、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、「●REC」が黄色になります。

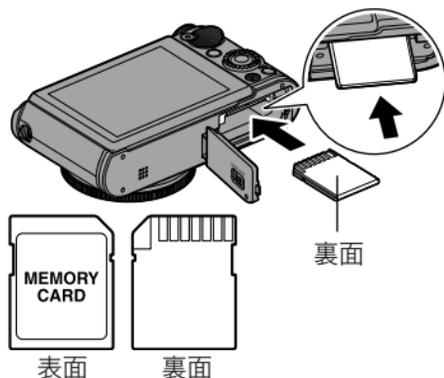
メモリーカードを入れる

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を切り、電池カバーを開ける

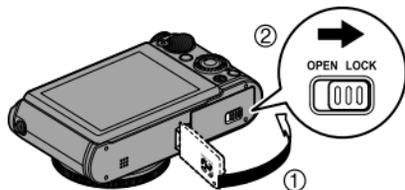


2. メモリーカードを入れる

メモリーカードの裏面を上(液晶モニター側)にして、メモリーカード挿入口にカチッと音がするまで押し込みます。



3. 電池カバーを閉める



重要

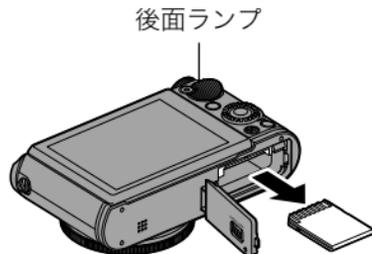
- メモリーカード挿入口には指定のメモリーカード(56ページ)以外のものは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、「修理に関するお問い合わせ窓口」(373ページ)またはお買い上げの販売店にご連絡ください。

メモリーカードを交換する

メモリーカードを押すとカードが少し出てきますので、引き抜いて別のメモリーカードを入れます。

重要

- メモリーカードの交換は、カメラ本体の電源を切ったから行ってください。
- **【ON/OFF】**(電源)を押して電源を切ったとき、後面ランプが緑色に点滅している間はメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像が記録されなかったり、メモリーカードを破壊する恐れがあります。



新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する

本機で初めて使用するメモリーカードはカメラでフォーマットしてください。

重要

- すでに静止画などが保存されているメモリーカードをフォーマットすると、その内容がすべて消去されます。フォーマットは普段する必要はありませんが、画像の記録速度が遅くなったなどの異常が見られる場合にフォーマットしてください。
- メモリーカードをフォーマットするときは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットするとSD規格非準拠となり、処理速度が著しく遅くなるなど、互換性や性能等で問題が生じる場合があります。

1. 電源を入れて【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ SETTING”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押す

5. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

“ SETTING”タブ



メニュー画面を使って設定を変更する

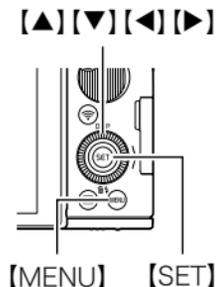
本機では、メニューを操作していろいろな設定ができます。ここでは例としてRECモードでの代表的な操作を説明します。

- メニュー画面で操作できる機能の一部は、操作パネル(79ページ)からも設定できます。両方で設定できる機能については、操作パネルからの操作方法を別途記載していますので、該当するページをご覧ください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

メニュー画面(📷 REC MENU)が表示されます。

- メニューの内容は、撮影モード(📷 REC MENU)と再生モード(▶ PLAY MENU)で異なります。



2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“📷 REC MENU”タブを選んで【▶】または【SET】を押す

- 再生メニューの項目を設定する場合は“▶ PLAY MENU”タブ(再生モード時のみ表示)を、その他の設定項目を設定する場合は“⚙️ SETTING”タブを選んでください(214、295ページ)。

例：“📷 REC MENU”タブ、“セルフタイマー”選択時

タブ



設定項目

3. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】または【SET】を押す

- ズームレバーをスライドすると、前後のページが表示されます。

4. 【▲】【▼】で設定したい内容を選ぶ

5. 【SET】を押して決定する

- 【MENU】を押すと、選んだ内容がキャンセルされ、メニュー画面に戻ります。
- 続けて別の項目を設定する場合は、【SET】の代わりに【◀】を押して青枠を設定項目に移動してから【▲】【▼】で設定したい項目を選んだあと、【▶】を押します。
- シャッターまたは【▶】(再生)を押すと、メニュー操作を中断し、メニューを消します。

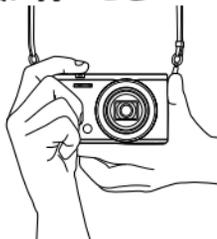
参考

- 撮影モードによっては、使用できないメニューがあります。その場合、設定項目がグレーで表示され、メニューを選ぶことができなくなります。プレミアムオート PROでは、設定できる機能のみがメニュー画面に表示されます。

カメラの正しい構えかた

- シャッターを押すときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。図のように持ち、脇をしっかり締めて正しく構えてください。
- シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間とその直後はカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

横に持つとき



縦に持つとき



レンズよりフラッシュが上にくるように持ちます。

参考

- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。
- 落下防止のため、ストラップを首や肩にかけるか、または腕に通して撮影してください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途には使用しないでください。
- “縦画像回転再生”の設定を“入”にして画像を撮影すると、撮影時のカメラの向きに合わせて画像が回転して再生されます(299ページ)。

フラッシュ

前面ランプ



レンズ

重要

- フラッシュに指がかかったり、近づきすぎないでください。フラッシュ撮影時、影が写り込んだりする原因になります。

静止画を撮影する

プレミアムオート PROに設定する

撮影モード	撮影画面のアイコン表示	設定内容
 プレミアムオート PRO		<p>さまざまな撮影環境で最適な設定と画像処理を高速で行い、よりきれいな画像が撮影できます。また、逆光や夜景、ズーム撮影時などの難しいシーンでは、カメラが状況に応じて自動で高速連写合成をします。</p> <ul style="list-style-type: none">一般的な撮影モードのプログラムオート(76ページ)と比べ、下記ようになります。<ul style="list-style-type: none">撮影に関する設定の変更が制限されます。電池寿命が、やや短くなります。

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を入れる

撮影モードになり、カメラが撮影できる状態になります。

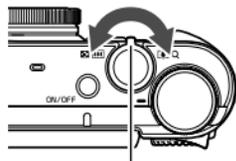
- 再生モードになっているときは、シャッターを押してください。

撮影する

1. カメラを被写体に向ける

ピントを合わせる部分をカメラが自動的に判断し、その部分にフォーカスフレームを表示します。

- プレミアムオート PROで撮影しようとする時、カメラが検出した撮影環境が画面の下に表示されます。
- ズームの倍率を変更できます。



ズームレバー



📐 広角



📷 望遠



カメラが三脚に乗って静止していることを検出すると表示されます

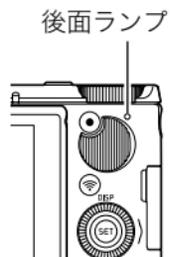
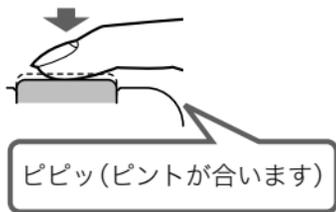


プレミアムオート PROで撮影時に、連写撮影が必要とカメラが判断した場合は、自動的にHSシーン撮影に切り替わり、「HS」が表示されます。HSシーン撮影では連写撮影した画像を合成するので、手ブレや被写体ブレに気をつけて、撮影が完了するまでカメラを動かさないでください。

2. シャッターを半押ししてピントを合わせる

ピントが合うと“ピピッ”と音がして、フォーカスフレームと後面ランプが緑色になります。

半押し 軽く押して止まる
ところまで



フォーカスフレーム



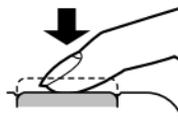
シャッターを半押しすると、カメラを向けている被写体に対して自動的に露出やピントを合わせます。どのくらいの力で押し込むと半押しになるかを覚えるのが、きれいな静止画を撮影するコツです。

3. カメラを固定したままシャッターを最後まで押し込む

静止画が撮影されます。

- フロントシャッター(28ページ)を押しても、撮影できます。あらかじめ、メニュー画面の“フロントシャッター”で、フロントシャッターを押した場合の撮影方法を設定してください(173ページ)。

全押し 最後まで



カシャッ(撮影されます)

動画を撮影するには

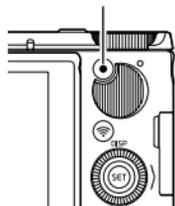
【●】(ムービー)を押すと、動画の撮影が開始されます。
もう一度【●】(ムービー)を押すと、撮影が終了します。
詳しくは下記をご覧ください。

標準的な動画(STD動画) → 125ページ

高精細な動画(FHD動画) → 125ページ

ハイスピード動画(HS動画) → 131ページ

【●】(ムービー)



■ ピントが合っていないとき

フォーカスフレームが赤のまま、後面ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合いません(被写体との距離が近すぎるときなど)。カメラを被写体に向け直して、ピントを合わせてみてください。

■ プレミアムオート PROで撮影するとき

- プレミアムオート PROでは使用できないメニューがあります。設定できる機能のみがメニュー画面に表示されます。
- シャッター速度、絞り値、ISO感度のほか、次の機能も適切な状態で撮影します。
 - コンティニューアスAF(185ページ)
 - 顔検出(183ページ)
 - HSシーン撮影(66ページ)
- 撮影中はレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- 撮影中に“プレミアムオート高画質化の処理中です”と表示される場合があります。画像処理時間が気になる場合は、プログラムオート(76ページ)に切り替えて撮影することをおすすめします。
- 撮影中に“プレミアムオート高画質化の処理中です”とメッセージが表示されている間は、シャッターを押しても撮影できません。
なお、撮影レビュー(196ページ)を“タイプ2/タイプ3”または“切”にすると、このメッセージは表示されなくなります。
- 撮影環境の検出が適切にできない場合があります。その場合は、プログラムオート(76ページ)に切り替えて撮影してください。

- “HS”が表示されたときは連写撮影によって1枚の画像が撮影されます。連写撮影をやめたい場合は、操作パネル(79ページ)の“HSシーン撮影”を“切”に設定してください。
- フラッシュ(92ページ)の設定状態によっては、検出できる撮影環境が限定されます。

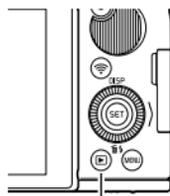
撮影した静止画を見る

撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

- 動画の再生方法については202ページをご覧ください。
- 連写で撮影した画像については205ページをご覧ください。

1. 電源を入れ、【▶】(再生)を押して再生モードにする

- 液晶モニターに画像が表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(34ページ)。
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(35ページ)。
- ズームレバーを【▲】側にスライドさせると画像を拡大して表示します(210ページ)。大切な写真を撮影したときは、撮影した画像を拡大表示して画像を確認することをおすすめします。



【▶】(再生)



2. 【◀】【▶】で前後の静止画に切り替える

- ・押し続けると、早送りができます。



参考

- ・再生モード時やメニュー画面を表示している最中にシャッターを半押しすると、すぐに撮影モードに切り替わります。

撮影した静止画や動画を消去する

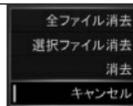
メモリー残量が足りなくなっても、撮影した静止画や動画を消去することによりメモリーの残り容量を確保して、また新しい写真撮影ができるようになります。

重要

- ・消去したファイルは元に戻せません。
- ・連写で撮影した画像については206ページをご覧ください。
- ・誤って画像の消去操作をしてしまわないように設定できます(303ページ)。

■ 1ファイルずつ消去する

1. **[▶]**(再生)を押して再生モードにしたあと、**[▼]**( )を押す



2. **[◀]****[▶]**で消去したいファイルを表示させる

3. **[▲]****[▼]**で“消去”を選び、**[SET]**を押す

- 続けて別のファイルを消去する場合は手順2～3を繰り返します。
- 消去をやめるには、**[MENU]**を押してください。
- 連写グループ(205ページ)またはインターバルグループ(205ページ)を表示しているときは、表示中のグループ内にある全画像が消去されます。

■ 選択したファイルを消去する

1. **[▶]**(再生)を押して再生モードにしたあと、**[▼]**( )を押す

2. **[▲]****[▼]**で“選択ファイル消去”を選び、**[SET]**を押す

消去ファイル選択用の一覧画面が表示されます。

3. **[▲]****[▼]****[◀]****[▶]**で消去したいファイルに青枠を移動し、**[SET]**を押す

選択したファイル左下の□にチェックが入り、青枠が次の画像に移動します。

- □のチェックを外すときは、チェックを外したいファイルに青枠を移動し、**[SET]**を押してください。
- ズームレバーを**[Q]**()側にスライドさせると画像を拡大して表示します。

4. 手順3を繰り返して、消去したいファイルをすべて選択したら、【MENU】を押す

5. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

- 選択したファイルが消去されます。
- 消去をやめるには、手順5で“いいえ”を選び、【SET】を押してください。

■ すべてのファイルを消去する

1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑️⚡)を押す

2. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

静止画撮影時のご注意

操作について

- 後面ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けないでください。撮影した画像が正しく保存されない、記録されている画像が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆うなど、光をさえぎって撮影してください。

撮影時の画面について

- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出ることがあります。
- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質(190ページ)で撮影されます。

蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

その他のご注意

- CMOS撮像素子の特性上、シャッター速度が遅くなるほど、撮影した画像にノイズが目立って発生するようになります。そのため、シャッター速度が遅くなると自動的にノイズ低減処理を行います。このノイズ低減処理により、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。ノイズ低減処理が行われるシャッター速度は、設定や環境によって異なります。

- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
- CMOS撮像素子の原理上、撮影モードによっては、動きの速い被写体が歪むことがあります。

■ オートフォーカスの制限事項

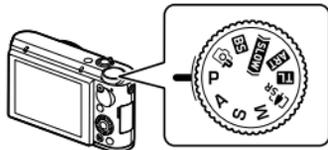
- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
 - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
 - 強い逆光のもとにある被写体
 - 明るく光っている被写体
 - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
 - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
 - 暗い場所にある被写体
 - AF補助光が届かないほど遠くにある被写体
 - 手ブレをしているとき
 - 動きの速い被写体
 - 撮影範囲外の被写体

静止画を撮影する(応用)

撮影モードを設定する

本機にはさまざまな撮影モードがあります。撮影する前に、モードダイヤルを回して被写体に合った撮影モードに設定してください。

モードダイヤル



P プログラムオート

一般的なオート撮影モードです。

📷 プレミアムオート PRO

被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、プログラムオートよりも高画質で撮影します(64ページ)。

BS ベストショット

あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、選んだシーンに合わせてカメラの設定が切り替わります(150ページ)。

📶(SLOW) ドラマチックスロー

被写体が活き活きと動いている瞬間をスローで記録し、ドラマチックな動画を撮影します(144ページ)。

ART アートショット

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に仕上げることができます(114ページ)。

TL タイムラプス/インターバル撮影

自然の移り変わりや街の流れをまるで早送りしているかのように見える動画(137ページ)や、一定間隔で複数の静止画(120ページ)を撮影できます。

[SR] プレミアムズーム

マルチ超解像技術の応用と連写した複数枚の画像を用いることにより、ズーム領域を拡大し、画像全体の解像感をさらに高めた画像を撮影できます(プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム))(103ページ)。

M M(マニュアル露出)モード

絞り値、シャッター速度を自由に設定して撮影できます。

- ① **[SET]** を押して操作パネルを開く(79ページ)
- ② **[▲][▼]** で操作パネルの“**A**”(絞り)を選び、**[SET]** を押す
- ③ **[▲][▼]** で希望の絞り値に設定し、**[◀]** を押す
- ④ **[▲][▼]** で操作パネルの“**S**”(シャッタースピード)を選び、**[SET]** を押す
- ⑤ **[▲][▼]** で希望のシャッター速度に設定し、**[SET]** を押す

S S(シャッター速度優先)モード

任意のシャッター速度に固定して撮影できます。

- ①【SET】を押して操作パネルを開く(79ページ)
- ②【▲】【▼】で操作パネルの“S”(シャッタースピード)を選び、【SET】を押す
- ③【▲】【▼】で希望のシャッター速度に設定し、【SET】を押す
 - ・シャッター速度の下の段に表示されている露出補正を選び、露出値(EV値)を設定することもできます。

A A(絞り優先)モード

任意の絞りに固定して撮影できます。

- ①【SET】を押して操作パネルを開く(79ページ)
- ②【▲】【▼】で操作パネルの“A”(絞り)を選び、【SET】を押す
- ③【▲】【▼】で希望の絞り値に設定し、【SET】を押す
 - ・絞り値の下の段に表示されている露出補正を選び、露出値(EV値)を設定することもできます。

重要

- ・プログラムオート撮影時にピントが合わない場合は、フォーカスロック(87ページ)やマニュアルフォーカス(86ページ)で撮影してみてください。
- ・Sモードでは“ISO感度”(88ページ)は常に“Auto(オート)”で動作し、設定を変更できません。

- 撮影モードがA、S、Mモードのフラッシュの設定では、“**⚡A**”（フラッシュオート）と“**👁**”（赤目軽減）に設定できません。フラッシュを発光させるときは、フラッシュの設定を“**⚡**”（強制発光）にしてください。
- 露出オーバー、露出アンダー時は、シャッターの半押し時にISO感度とシャッター速度と絞り値が赤色に表示されます。

操作パネルを使って撮影設定を変更する

操作パネルを使って、撮影に関しての設定を変更できます。

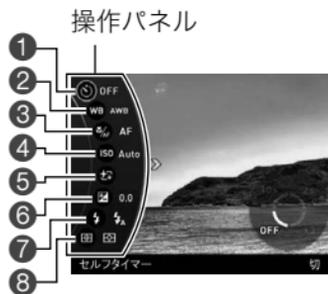
1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【SET】または【▶】を押す

操作パネルのアイコン部分の設定が可能になります。*

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ① セルフタイマー
(80ページ) | ④ ISO感度(88ページ) |
| ② ホワイトバランス
(82ページ) | ⑤ メイクアップ
(89ページ) |
| ③ フォーカス方式
(85ページ) | ⑥ 露出補正(90ページ) |
| | ⑦ フラッシュ(92ページ) |
| | ⑧ 測光方式(95ページ) |

※撮影モードによって、項目が変わります。



例：プログラムオート設定時

3. 【▲】【▼】で設定したい内容を選ぶ

4. 【SET】を押して決定する

選んだ内容に決定され、撮影モードの画面に戻ります。



参考

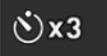
- 前記以外に、撮影に関してさまざまな内容の設定を変更できます(171ページ)。

セルフタイマーを使う(セルフタイマー)

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる(撮影される)ようにできます。

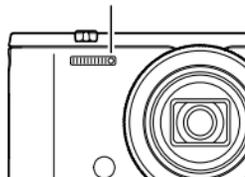
1. 操作パネルの“”(セルフタイマー)を選ぶ

2. 設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
10s 10秒		10秒後に撮影されます。
2s 2秒		2秒後に撮影されます。シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
x3x3 (トリプル セルフタイマー)		10秒後に1枚、その後撮影準備完了ごとに2枚の合計3枚撮影されます。撮影準備ができるまでの時間は、画像サイズ、画質の設定やメモリーカードの有無、フラッシュの充電状態によって異なります。
OFF 切	なし	セルフタイマー撮影は行いません。

- 設定した時間をカウントしている最中は前面ランプが点滅します。
- カウントダウン中に【SET】を押すと、セルフタイマーを解除できます。

前面ランプ



参考

- セルフタイマーが使用できない撮影機能
高速連写でパスト連写を行っているとき、パストムービー、スライドパノラマ、ワイドショット、トリプルショット
- トリプルセルフタイマーのみが使用できない撮影機能
動画撮影、タイムラプス、高速連写、プレミアムズーム、HSナイトショット、いち押しショット、背景ぼかし、全焦点マクロ、インターバル撮影
- 操作パネルからセルフタイマーを起動すると、モーションシャッター(110ページ)での撮影はできません。通常の撮影になります。

色合いを調整する(ホワイトバランス)

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写る、または白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写るなどの現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整します。

1. 操作パネルの“WB” (ホワイトバランス) を選ぶ

2. 撮影条件を選び、【SET】を押す

- ・ ファンクションリングでも操作できます。

設定項目	撮影画面の アイコン表示	設定内容
AWB オートWB	なし	自動的にホワイトバランスを調整
 太陽光		晴天時の野外での撮影用
 曇天		薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用
 日陰		晴天時のビルや木の陰などの撮影用
 昼白色 蛍光灯		白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
 昼光色 蛍光灯		昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
 電球		電球の雰囲気を消した撮影用

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
<p>MWB マニュアル WB</p>		<p>さまざまな光源下で適正な色に手動で調整できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① “マニュアルWB”を選ぶ ② 撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す ③ 【SET】を押す <p>設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されます。</p> 

- “**AWB** オートWB”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。この場合は、太陽光、曇天などの撮影条件を指定してください。

ピントの合わせ方を変える(フォーカス方式)

- ・メイクアップ(89ページ)および顔検出機能(183ページ)を“切”にしないと、オートフォーカス以外のフォーカス方式に設定することはできません。

1. 操作パネルの“”(フォーカス方式)を選ぶ

2. 設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	用途	ピントの合わせかた		ピントが合う距離※1	
			静止画	動画	静止画	動画
 AF (オートフォーカス)	なし	一般的な撮影	自動	自動※3	約6cm~∞(無限遠) (W端)※2	
 マクロ		近くのを撮影			約6cm~約50cm (W端)※2	
 MF (マニュアルフォーカス)		手でピントを合わせたい場合		手動	約6cm~∞(無限遠) (W端)※2	

※1 ピントが合う距離はレンズ表面からの距離です。

※2 ピントが合う距離は光学ズームの位置で変わります。

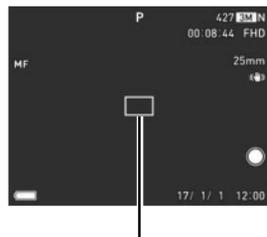
※3 ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、“MF”(マニュアルフォーカス)でピントを合わせてから撮影してください。

マニュアルフォーカス時のピント合わせ方法

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

2. 液晶モニターを見ながら【◀】(近く)【▶】(遠く)でピントを合わせる

- このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。【SET】を押すと、手順1の画面に戻ります。
- “キーカスタマイズ”の“ファンクションリング”設定(175ページ)で“MF”(マニュアルフォーカス)に設定している場合は、ファンクションリングでピントを合わせることもできます。



ピント合わせの黄色枠

参考

- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。
- AF(オートフォーカス)/マクロ/MF(マニュアルフォーカス)撮影時に光学ズームすると、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。オートフォーカスのときのみオートマクロの範囲を含んだ距離の範囲を表示します。

例:○○*cm - ∞

※ ○○には数字が入ります。

- ・マニュアルフォーカスを選択しているとき、“左右キー”で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(175ページ)。

フォーカスロックについて

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックを使います。

- ・AFエリアは、“ スポット”または“ 追尾”にしておきます(181ページ)。

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図にカメラを動かす

- ・AFエリアを“ 追尾”にした場合は、被写体と一緒にフォーカスフレームが動きます。

3. シャッターを最後まで押し込む

参考

- ・フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

ピントを合わせたい被写体



フォーカスフレーム



参考

- “Auto(オート)”設定時のみ被写体ブレ補正(186ページ)が働きます。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
- S(シャッター速度優先)モードでは、常に“Auto(オート)”になります。
- M(マニュアル露出)モードでは、“Auto(オート)”に設定できません。

人物の顔を美しく撮影する(メイクアップ)

人物の肌の色味や肌質を調整したり、日差しによる顔の影をやわらげたりして、人物の顔を美しく撮影できます。メイクアップ機能は、以下の撮影モードで使用できます。

- プログラムオート
- プレミアムオート PRO
- セルフィーアート
- 一部のベストショットシーン

1. 操作パネルの“”(メイクアップ)を選ぶ

2. 設定項目を選び、値を変更する

肌の色	肌の色味を褐色+6~0(切)~美白+6で調整できます。
肌のなめらかさ	肌質を0(切)~+12(強)で調整できます。

参考

- “肌の色”または“肌のなめらかさ”のレベルを“0(切)”以外にすると、以下の設定になります。
 - 顔検出: “入”
 - フォーカス方式: “AF”(オートフォーカス)
- 下記の機能では、メイクアップを使用できません。
ベストショット撮影の一部、アートショット、プレミアムズーム、高速連写、タイムラプス、
インターバル撮影

明るさを補正する(露出補正)

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正できます。

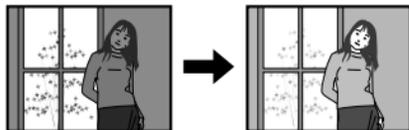
- 露出補正值: $-2.0\text{EV} \sim +2.0\text{EV}$
- 補正単位: $1/3\text{EV}$

1. 操作パネルの“”(露出補正)を選ぶ

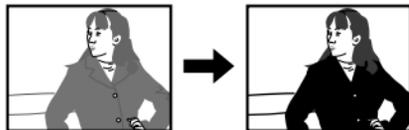
2. 露出補正值を選ぶ

- ・ ファンクションリングでも操作できます。

【▲】、右回し：+方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。



【▼】、左回し：-方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。



露出補正值を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

3. 【SET】を押す

露出値が補正されます。次に露出補正を変えるまで、設定した露出補正值で撮影できます。ただし、電源を切ると設定は“0.0”に戻ります。



露出補正值

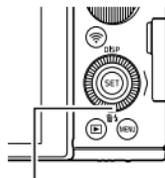
参考

- ・ 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

フラッシュを使う(フラッシュ)

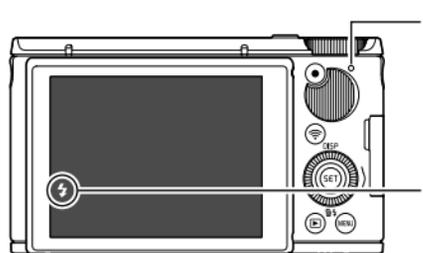
1. 撮影モードにして【▼】(🗑️⚡)で発光方法を選ぶ

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
🔦A フラッシュ オート	なし	露出(光の量や明るさ)に応じて自動的に発光します。
🚫 発光禁止		発光しません。
⚡ 強制発光		常に発光します。日中、逆光で被写体が暗く写るときに設定すると、明るく撮影できます(日中シンクロ撮影)。
👁️ 赤目軽減		自動的に発光します。人の目が赤く写る現象を軽減できます。



【▼】(🗑️⚡)

2. シャッターを押して撮影する



後面ランプ

フラッシュ充電中はオレンジ色に点滅します。
• 充電が完了してオレンジ色の点滅が消えるまでは、次のフラッシュ撮影はできません。

フラッシュ発光時は“⚡”を表示

- フラッシュが届く範囲については、362ページをご覧ください。

重要

- フラッシュの発光面が汚れている場合、汚れがフラッシュの光に反応し、多少、煙や異臭が発生する場合がありますが故障ではありません。フラッシュの発光面に手の脂などの汚れが残ると落としにくくなりますので、こまめに乾いた柔らかい布などで、軽く拭き取ってください。

- フラッシュが指やストラップで隠れないようにしてください。
- 被写体までの距離が遠すぎたり近すぎたりすると、適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間(362ページ)は、使用条件(電池の状態や周囲の温度など)により異なります。
- 暗い場所でフラッシュを発光禁止にして撮影すると、シャッター速度が遅くなり、手ブレの原因になります。この場合、カメラを三脚などで固定してください。
- 赤目軽減機能では、フラッシュは露出に合わせて自動的に発光します。明るい場所では発光しません。
- 外光や蛍光灯など他の光源があると、色味が変わることがあります。
- フラッシュ撮影が禁止されている場所では指示に従い、フラッシュを""(発光禁止)に設定してください。
- 撮影モードがA、S、Mモードのフラッシュの設定では、""(フラッシュオート)と""(赤目軽減)に設定できません。フラッシュを発光させるときは、フラッシュの設定を""(強制発光)にしてください。

赤目軽減について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するため起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写される人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)をすることにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。

- 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。
- 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

光の測りかたを変える(測光方式)

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決める方式のことです。

1. 操作パネルの“”(測光方式)を選ぶ

2. 測光方式を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
 マルチ	なし	画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出で撮影できます。
 中央重点		中央部を重点的に測光します。自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。
 スポット		センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。

ズーム撮影する

下記のズーム撮影ができます。

光学ズーム	レンズの焦点距離を変える方式で、画質の劣化はありません。
HDズーム	切り出した画像を拡大することなくズームアップ効果を得る方式で、画質の劣化はありません。
超解像ズーム (シングル超解像 ズーム)	シングル超解像技術により画質の劣化を抑える方式(102ページ)です。
プレミアムズーム (マルチ超解像 ズーム)	高速連写撮影を行い、画像を合成することで、画質の劣化を抑える方式です。撮影モードを“プレミアムズーム”に切り替えたときのみ、プレミアムズームが有効になります(103ページ)。
デジタルズーム	画像中央をデジタル処理で拡大する方式で、画質の劣化が起こりません。

- 最大倍率は画像サイズ、デジタルズーム入/切の設定によって異なります。

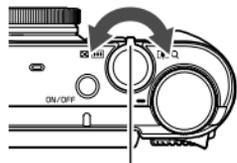
1. ズームレバーをスライドさせる



 広角



 望遠



ズームレバー

【】(望遠) : 被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。

【】(広角) : 被写体が小さくなり、写る範囲が広がります。

2. シャッターを押して撮影する

参考

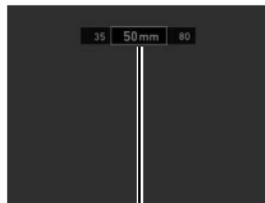
- ・ 望遠で撮影するときは、手ブレがおきやすくなるため三脚の使用をおすすめします。
- ・ 光学ズームを動かせると、レンズの絞り値が変わります。
- ・ 動画撮影中もズームの操作ができます。ただし、ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。ズームを使いたいときは、【】(ムービー)を押す前にズーム操作をしてください。
- ・ 下記のベストショット撮影では、ズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。スライドパノラマ、ワイドショット、全焦点マクロ

■ ファンクションリングでズーム操作をする(ステップズーム)

ファンクションリングに“ステップズーム”を割り当てると、光学ズームの範囲内でのみ、ファンクションリングでズーム操作ができます(175ページ)。

ステップズームは下記の焦点距離で調節ができます。微調整をしたい場合はズームレバーを使用してください。

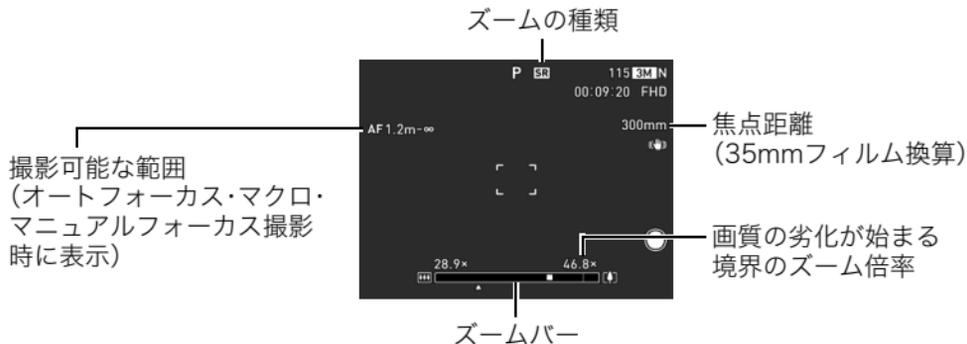
- 調節可能な焦点距離
25、28、35、50、80、105、140、192、300(単位:mm 35mmフィルム換算)
- ファンクションリングでステップズームを調整中は、画面に焦点距離が表示されます。



現在の焦点距離

ズーム時の画面表示について

ズーム操作時にはズームについてさまざまな情報が表示されます。



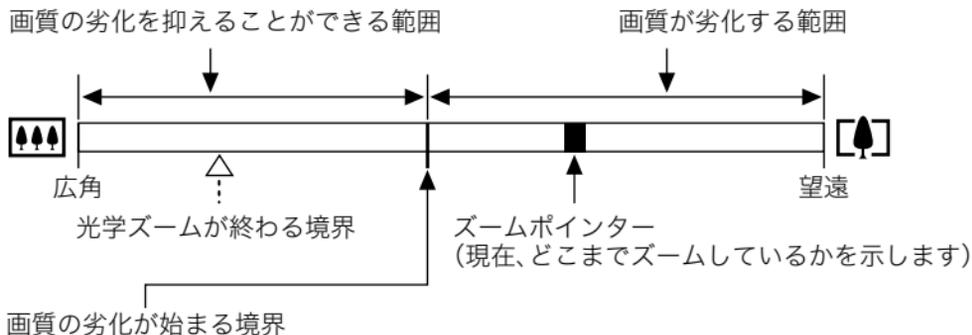
■ ズームの種類を示すアイコン

ズーム倍率によって画面上に表示されるズームの種類を示すアイコンが変化します。

ズームの種類	画面上に表示されるアイコン
光学ズーム/HDズーム	なし
超解像ズーム(シングル超解像ズーム)	SR (白)
プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム)	SR (黒)
デジタルズーム	⊕

■ ズームバーの見かた

ズーム中は、ズームバーでおおよその倍率が確認できます。



- 画像サイズ、超解像ズームの設定やプレミアムズームの使用の有無によって境界の位置が変わります。

■ ズーム倍率について

デジタルズームの倍率は画像サイズ(188ページ)、超解像ズームの設定、“プレミアムズーム”の使用の有無(103ページ)によって異なります。

- 撮影モードを“プレミアムズーム”に切り替えた場合のみ、プレミアムズームが有効になります。

画像サイズ	光学ズーム	画質の劣化を抑えることができる最大倍率		総合最大倍率 (デジタルズーム併用時)
		超解像ズーム:切 (HDズーム)	プレミアムズーム 超解像ズーム:シングル	
12M	12.0倍	12.0倍	24.0倍	48.0倍
3:2				
16:9				
8M		14.8倍	29.4倍	58.8倍
3M	23.4倍	46.8倍	93.6倍	

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる(超解像ズーム)

超解像ズームには“シングル超解像ズーム”と“プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム)”があります。シングル超解像ズームは、超解像技術により、画質の劣化を最小限に抑えながらズームの範囲を広げることができます。

ここでは、シングル超解像ズームの設定方法を説明します。プレミアムズームについては103ページをご覧ください。

- 超解像ズームが有効な倍率の範囲については101ページをご覧ください。

1. **【MENU】**を押す

2. **【◀】**を押し、**【▲】【▼】**で“ REC MENU”タブを選んで**【▶】**を押す

3. **【▲】【▼】**で“超解像ズーム”を選び、**【▶】**を押す

4. **【▲】【▼】**で“シングル”(シングル超解像ズーム)を選び、**【SET】**を押す

参考

- この機能はきめ細かい模様などを撮影するときに効果があります。
- 動画撮影時は機能しません。
- 下記の機能では、超解像ズーム(シングル超解像ズーム)は使用できません。
トリプルセルフタイマー、アートショット、セルフイーアート、プレミアムズーム、タイムラプス、トリプルショット、ベストショット撮影の一部

解像感のある高品位な画質のままズームの範囲を広げる (プレミアムズーム)

プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム)は、高速連写撮影を行い、画像を合成することで、解像感のある高品位な画質のままズームの範囲を広げることができます。

1. モードダイヤルを【SR】(プレミアムズーム)に合わせる

参考

- この機能はきめ細かい模様などを撮影するときに効果があります。
- この機能での撮影では、下記の機能は使用できません。
超解像ズーム、トリプルセルフタイマー、シャープネス、コントラスト
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に""(発光禁止)になります。
- この機能での撮影では、手ブレ関連機能(186ページ)が自動的に"標準"になりますが、手ブレや被写体ブレが大きい場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

何枚も連続して撮影する(連写モード)

高速連写で撮影する



シャッターを押している間、連続撮影されます。
設定できる撮影速度と1回の撮影で記録できる画像枚数は、
以下のとおりです。

撮影速度 (高速連写fps)	3枚/秒(3fps)、5枚/秒(5fps)、 10枚/秒(10fps)、15枚/秒(15fps)、 30枚/秒(30fps)
最大連写枚数	5枚、10枚、20枚、30枚

撮影速度



最大連写枚数

1. モードダイヤルを【P】(プログラムオート)に合わせる
2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押し

4. 【▲】【▼】で“連写モード”を選び、【▶】を押し

5. 【▲】【▼】で“高速連写”を選び、【SET】を押し

撮影画面の撮影モードのアイコン表示が“”になります。

6. 【SET】を押し

7. 【▲】【▼】で操作パネルの“” (高速連写fps) を選び、【SET】を押し

8. 【▲】【▼】で連写の速度を選び、【◀】を押し

・ 被写体の動きが速いときは、“高速連写fps”を上げてください。

9. 【▲】【▼】で操作パネルの“” (最大連写枚数) を選び、【SET】を押し

10. 【▲】【▼】で記録する最大枚数を選び、【SET】を押し

11. シャッターを全押しし続ける

シャッターを押し続けている間、または“高速連写fps”で設定した枚数が撮影されるまで連続撮影されます。

1. 「高速連写で撮影する」(104ページ)の手順1~10と同様に操作して、連写の速度と記録する最大枚数を選ぶ

- 記録する最大枚数を選び終わったら【SET】の代わりに【◀】を押してください。

2. 【▲】【▼】で操作パネルの“” (パスト連写枚数)を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】でシャッター全押し前の連写枚数を選び、【SET】を押す

- 0枚、3枚、5枚、10枚、15枚、20枚、25枚から選ぶことができます。
- 0枚を選ぶと、シャッター半押し中の画像は保存されません。

4. シャッターを半押しして、パスト連写を開始する

シャッターを半押し中は、一時的にシャッター全押し前までの画像を設定枚数分繰り返し記憶します。

- シャッター半押し中は、シャッター音は出ません。
- シャッターの半押しをやめると、それまでに記録した画像は消去されます。

5. シャッターを全押しし続ける

シャッターを全押しすると、全押しする直前からの画像とシャッターを全押ししていたときの画像を記録します。シャッターを押し続けている間、または“高速連写fps”で設定した枚数が撮影されるまで連続撮影されます。

参考

- パスト連写は、P(プログラムオート)モード以外に、A(絞り優先)モード、S(シャッター速度優先)モード、M(マニュアル露出)モードでも撮影できます。
- 連写枚数が多いほど、撮影後の保存に時間がかかります。
- 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないでください。
- 連写中はズーム操作はできません。
- 静止画の画質は自動的に“標準-N”となります。
- 露出/フォーカス位置は1枚目を撮影した際に固定されます。
- フラッシュは自動的に“” (発光禁止)となります。
- 画像サイズを“3:2”、“16:9”に設定できません。他のモードですでに設定していた場合は、“12M”で撮影されます。
- 以下の機能は使用できません。
モーションシャッター、トリプルセルフタイマー、超解像ズーム
- 連写撮影時は、一部の機能の設定項目がグレーで表示され、選ぶことができなくなります。
- パスト連写ではセルフタイマー機能が使用できません。
- キーカスタマイズ(175ページ)の“左右キー”に“連写モード”を割り当てると、【◀▶】を押すだけで、高速連写モードに切り替えることができます。

オートフォーカスしながら連写撮影する(AF連写)

被写体に常にピントを合わせながら、最大30枚連写します。動きの速い子どもを撮影するときなどに便利です。連写速度は、撮影環境に合わせて自動で1秒間に3~6枚に設定されます。

1. モードダイヤルを【P】(プログラムオート)に合わせる

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“連写モード”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“AF連写”を選び、【SET】を押す

撮影画面の撮影モードのアイコン表示が“”になります。

6. シャッターを全押しし続ける

シャッターを押し続けている間、最大で30枚連続撮影されます。

参考

- AF連写は、P(プログラムオート)モード以外に、A(絞り優先)モード、S(シャッター速度優先)モード、M(マニュアル露出)モードでも撮影できます。
- 連写中は、ズーム操作はできません。
- 画像サイズを“3:2”、“16:9”に設定できません。他のモードですでに設定していた場合は、“12M”で撮影されます。
- 以下の機能は使用できません。
モーションシャッター、トリプルセルフタイマー、超解像ズーム
- AF連写撮影時は、以下の設定に固定されます。
 - 静止画画質:標準-N
 - フラッシュ:発光禁止
 - フォーカス方式:AF
 - AFエリア:スポット

被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす (モーションシャッター)

液晶モニターで設定したアイコン付近でカメラが動きを感知すると、自動でセルフタイマーのカウントが始まり撮影できます。離れた場所から手を振ったりしてセルフタイマーを操作することができるので、自分撮りをするときに便利です。



1. 撮影モードをプログラムオート、プレミアムオート PRO、ベストショットの“人物”または“いち押しショット”に設定する
 - “いち押しショット”の場合は、動画撮影はできません。

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“📷 REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“モーションシャッター”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“モーション設定”を選び、【▶】を押す

6. 【▲】【▼】で“常時”または“180度のみ”を選び、【SET】を押す

- “180度のみ”を選んだ場合は手順7に進んでください。“常時”を選んだ場合は、モーションシャッターが起動します。手順8に進んでください。

7. 手順6で“180度のみ”を選んだ場合は、カメラの液晶モニターを180度開く(39ページ)

モーションシャッターが起動します。

8. 静止画を撮影する場合はシャッターを、動画の場合は【●】(ムービー)を押す

- シャッターまたは【●】(ムービー)を押してから約3秒後に撮影待機状態になります。撮影待機状態になると、セルフタイマー起動アイコン“”が点滅から青表示に変わります。

9. カメラに向かって手を振るなどして、セルフタイマー起動アイコン“”付近で動く

設定したアイコン付近で被写体の動きを感知すると、設定したタイミングで撮影されます。

- 動画の撮影をやめるには、再度【●】(ムービー)を押してください。

参考

- 静止画撮影後は、撮影待機状態に戻ります。以下のいずれかを操作すると、撮影が終了します。
 - モーションシャッターでの静止画撮影を30回繰り返す
 - 撮影待機状態のときにシャッターを押す
 - 液晶モニターを開閉する
 - カメラを回転する
- 撮影待機状態では、スリープ機能やオートパワーオフ機能は動作しません。
- アイコン付近の背景と被写体の色の差が少ないときや、被写体が離れすぎて小さいときは、正常に撮影できない場合があります。
- 静止画を撮影すると、撮影レビューアイコン“”が表示されます。“”アイコン付近で動きを感知すると、撮影した画像が3秒間表示されます。
- この機能での撮影では、AFエリアを“追尾”に設定できません。他のモードですでに設定していた場合は、“スポット”で撮影されます。(181ページ)
- モーションシャッターで動画撮影中に、シャッターを押して静止画を撮影する(スチルインムービー)ことはできません。

モーションシャッターの設定を変更する(モーションシャッター)

モーションシャッターの設定を変更できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“モーションシャッター”を選び、【▶】を押す
4. モーションシャッターの設定を変更する

設定項目	設定内容
モーション設定	モーションシャッターを起動する動作を設定します。 常時：液晶モニターの開閉状態に関係なく、常にモーションシャッターが起動します。 180度のみ：液晶モニターを180度開いた状態のとき、モーションシャッターが起動します。 切：モーションシャッターは動作しません。
タイマー設定	カメラが動きを感知してから撮影されるまでの時間を設定します。 0.5秒、1秒、2秒、10秒から選ぶことができます。
モーション位置	セルフタイマー起動アイコン“  ”と撮影レビューアイコン“  ”の位置を変更します。 【▲】【▼】【◀】【▶】：アイコンを移動します。 【  】(無線)：移動するアイコンを切り替えます。

いろいろな作風で撮影する(アートショット)

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に仕上げることができます。

シーン	内容
ハイキー	明るい雰囲気での撮影ができます。
フォギー	やわらかい雰囲気での撮影ができます。
フェアリー	上品で落ち着いた雰囲気での撮影ができます。
ノスタルジー	トーンを落とし、懐かしい雰囲気での撮影ができます。
ビビッド	鮮やかで、個性的な雰囲気での撮影ができます。
HDRアート	HDR合成(157ページ)を応用し、従来の写真表現を超えた作品が作れます。
トイカメラ	周辺を暗くして、色合いを変えてトイカメラ風に仕上げます。
ソフトフォーカス	全体をぼかし、やわらかく幻想的に仕上げます。
ライトトーン	コントラストを弱めに、上品で落ち着いた雰囲気に仕上げます。
ポップ	彩度を強調し、色彩豊かに仕上げます。
セピア	セピアカラーにして、レトロ風に仕上げます。
モノクロ	コントラストを強調し、粒状感をつけ、印象的に仕上げます。
ミニチュア	一部をぼかし、ミニチュアの模型のように仕上げます。
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような、ユーモラスな作風に仕上げます。

シーン	内容
トゥインクルショット	やわらかい雰囲気にして、光の点をキラキラ輝かせます。
宙玉(そらたま)	宙に浮かぶ玉に写り込ませた様な、幻想的な作風に仕上げます。
アートショット ブラケットング	1回のシャッターでHDRアート、トイカメラ、モノクロ、宙玉の撮影をします。また同時に、先頭にアート効果がない状態(プログラムオートで撮影)の画像も保存します。

1. モードダイヤルを **[ART]** (アートショット) に合わせる
2. **[SET]** を押す
3. **[▲]****[▼]** で操作パネルの “**ART**” を選び、**[SET]** を押す
アートショットのシーン一覧が表示されます。
4. 用途に合ったシーンを選び、**[SET]** を押す
5. **[SET]** を押し、**[▲]****[▼]** で操作パネルの上から5番目の項目を選び、**[SET]** を押す
選んだシーンの効果の強弱等が設定できます。

シーン	調節内容
ハイキー	効果の設定はできません
フォギー	効果の設定はできません

シーン	調節内容
フェアリー	効果の設定はできません
ノスタルジー	効果の設定はできません
ビビッド	効果の設定はできません
HDRアート	効果の強さ
トイカメラ	色合い
ソフトフォーカス	効果の強さ
ライトトーン	色合い
ポップ	効果の強さ
セピア	効果の強さ
モノクロ	効果の強さ
ミニチュア	ピントが合う位置
フィッシュアイ	効果の強さ
トゥインクルショット	効果の種類
宙玉(そらたま)	効果の種類

- アートショットブラケティングを選んだ場合、4種類のシーンの効果はシーンごとに現在設定されているレベルで撮影されます。効果の強弱を変えたい場合は、変更したいシーンを選んで、手順5の操作で効果を変更してください。

6. 【▲】【▼】で効果を設定し、【SET】を押す

7. シャッターを押して撮影する

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る→ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する→【◀】【▶】
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る→【SET】

参考

- アートショットのシーンによっては、使用できないメニュー項目があります。
- フラッシュは自動的に「」(発光禁止)になります。
- アートショットのシーンによっては、動画撮影はできません。
- “アートショットブラケティング”で撮影すると、画像の保存が終了するまで、次の撮影はできません。
- “動画画質”の設定は“HD”または“STD”のみとなります(191ページ)。他のモードで“STD”以外に設定されていた場合は、“HD”で撮影されます。
- “HDRアート”で動画を撮影する場合、アート効果の強さは動画用の設定に固定されます。
- アートショットのシーンで撮影した画像は、アート効果がない状態の画像に変換できません。



HDRアート撮影時、効果なし画像も保存する (ダブル保存(HDRアート))

HDRアートで撮影したとき、HDRアート画像と同時に、アート効果がない状態(プログラムオートで撮影)の画像も保存できます。

1. モードダイヤルを **[ART]** にして、**[MENU]** を押す

2. **[◀]** を押し、**[▲][▼]** で “ REC MENU” タブを選んで **[▶]** を押す

3. **[▲][▼]** で “ダブル保存(HDRアート)” を選び、**[▶]** を押す

4. **[▲][▼]** で “入” を選び、**[SET]** を押す
“切” を選ぶと、HDRアート画像のみが保存されます。

5. シャッターを押して撮影する

参考

- HDRアート以外のアートショットのシーンで撮影したとき、アート効果がない状態の画像を同時に保存することはできません。

自分撮りで個性的な画像を撮影する(セルフィーアート)

メイクアップ機能(89ページ)で調整した「肌の色」や「肌のなめらかさ」を保ちながら、印象的な写真に仕上げます。

撮影の種類には、ハイキー、フォギー、フェアリー、ノスタルジー、ビビッドがあります。

1. モードダイヤルを【ART】(アートショット)に合わせる
2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“”を選んで【SET】を押す
セルフィーアートとアートショットのシーン一覧が表示されます。
 - セルフィーアートのシーンには“”アイコンが表示されます。
3. 用途に合ったセルフィーアートのシーンを選び、【SET】を押す
4. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能での撮影では、以下の設定に固定されます。

ISO感度	Auto
フォーカス方式	AF
AFエリア	スポット
顔検出	入
超解像ズーム	切

一定間隔で複数の静止画を撮影する(インターバル撮影)

一定撮影間隔で、指定した枚数を撮影(インターバル撮影)できます。花が咲く様子などを記録したいときに便利です。

- 最大20日間(60分間隔で500枚撮影)のインターバル撮影ができます。
- カメラを三脚に固定して撮影することをおすすめします。
- 撮影中の電池切れを防ぐため、十分に充電された電池を使用してください。
- 撮影時は、空き容量が十分にあるメモリーカードを使用してください。
- ピントは撮影開始時に固定されます。

1. モードダイヤルを【TL】(タイムラプス)に合わせる

2. 【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で操作パネルの“”を選び、【SET】を押す
タイムラプスのシーン一覧が表示されます(137ページ)。

4. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ インターバル撮影”を選び、【SET】を押す

5. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“” (インターバル設定)を選んで【SET】を押す

6. 【▲】【▼】で“間隔”または“撮影枚数”を選んで【▶】を押したあと、【▲】【▼】で値を設定する

 間隔	撮影する間隔を決めます。
 撮影枚数	撮影する枚数を決めます。

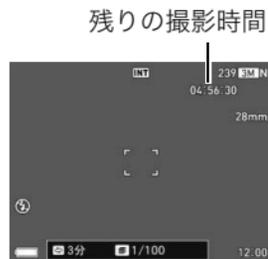
7. 【SET】を押す

- ・ インターバル撮影の設定内容は画面下部に表示されます。



8. シャッターを押し、撮影を開始する

- ・ 手順6で設定した撮影間隔ごとに撮影を繰り返します。
- ・ 手順6で設定した撮影枚数を撮影する、または再度シャッターを押すと、撮影が終了します。



参考

- ・ この機能での撮影では、撮影中に液晶モニターが消えますが、撮影は続いています。このとき、後面ランプが点灯します。液晶モニターの表示が消えているときにカメラを操作すると、表示が元に戻ります。ただし、モードダイヤルを操作すると撮影が中止されます。

- “ 間隔”を1分以上にすると、撮影が続いている状態でも、レンズが収納し、液晶モニターや後面ランプが消灯します。【ON/OFF】(電源)を押すとインターバル撮影中を示すメッセージが画面に表示されます。
なお、レンズが収納されているときは、付属のUSBケーブルを使ってカメラを充電できます。撮影しながら充電したい場合は、USBケーブルをカメラに接続し、充電の準備をしてから撮影を開始してください。レンズが出ているときにUSBケーブルを接続すると電源が切れてしまいます。
- この機能での撮影では、“絞り”または“シャッタースピード”を“Auto”以外に設定すると、フラッシュを“フラッシュオート”および“赤目軽減”に設定できません。他のモードですでに設定していた場合は、“発光禁止”で撮影されます。
- この機能での撮影では、以下の機能は使用できません。
スマートフォンで撮影、高速連写、モーションシャッター、手ブレ関連機能、超解像ズーム、コンティニュアスAF、顔検出、MF(マニュアルフォーカス)
- インターバル撮影待機中(液晶モニター点灯中)にシャッターを押すと、「インターバル撮影を中止しました」と表示され、インターバル撮影を中断します。
- この機能での撮影中は、オートパワーオフ機能は無効となります(301ページ)。

タイマーを使って自分撮りをする(セルフタイマー)

自分撮りに便利なタイマー(セルフタイマー)を起動して、静止画を撮影します。セルフタイマーは、2秒～5秒で設定できます。

- セルフタイマーを使うには、フロントシャッターにセルフタイマーの機能を割り当てる必要があります。

フロントシャッターにセルフタイマーの機能を割り当てる

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“フロントシャッター”を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画像 アイコン表示	設定内容
セルフタイマー		カウントダウン後、1回撮影します。
×3セルフタイマー		カウントダウン後に1枚、その後2秒ごとに2枚の合計3枚撮影します。

セルフィータイマーを使って自分撮りをする

1. カメラの液晶モニターを180度開く (39ページ)
2. フロントシャッターを押し続けて、セルフィータイマーの時間を設定する

- セルフィータイマーは2秒～5秒に設定できます。フロントシャッターを押し続けている時間が長いほど、セルフィータイマーの時間は長くなります。



3. フロントシャッターから指を離す

セルフィータイマーのカウントダウンが始まり、カウントダウンが0になると撮影します。

参考

- 一部のシーン撮影では、この機能は使用できません。
- 動画撮影時は、セルフィータイマーを使用できません。
- モーションシャッターが起動しているときは、セルフィータイマーで撮影できません。フロントシャッターを押すとモーションシャッターで撮影されます。

動画を撮影する

動画を撮影する

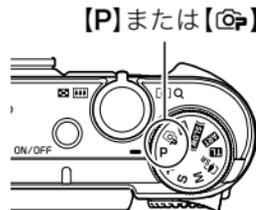
ここでは通常の動画(STD動画、FHD動画)の撮影方法を説明します。
他の動画撮影(ハイスピード動画)については131ページをご覧ください。

1. モードダイヤルを【P】(プログラムオート)または【】(プレミアムオート PRO)に合わせる

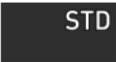
2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す



5. 【▲】【▼】で撮影したい動画画質を選び、【SET】を押す

動画画質	撮影画面の アイコン表示	撮影速度 (フレームレート)	画像サイズ (pixels)
STD		30fps	640×480
FHD		30fps	1920×1080

- fps(frame per second)は1秒間あたりの画像の数を示す単位です。
- 画像サイズは変更できません。
- 高精細な動画(FHD動画)を選ぶと、画像アスペクト比は16:9で撮影されます。
- FHD動画で撮影した動画の走査方式は、プログレッシブ方式となります。
- 動画で撮影できる範囲は、静止画よりも狭くなります。動画の撮影範囲は、“アシスト表示”(198ページ)で表示させることができます。

6. 【●】(ムービー)を押す

撮影が開始され、液晶モニターに“●REC”が表示されます。

撮影中は音声(ステレオ)も録音されます。

- 動画撮影中に【SET】を押すと、再度コンティニユアス AF(185ページ)が動作します。

7. もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する

- 撮影可能な動画は、1ファイル最大4GBまでです。これを越えると自動的に撮影は終了します。
- 撮影した動画の形式は、MOV形式となります(293ページ)。なお、カメラで動画の形式は変換できません。



プレミアムオート PROを利用した動画撮影

プレミアムオート PROに設定した状態(64ページ)で撮影すると、被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、プログラムオートよりも高画質で撮影できます。撮影時には、カメラが検出した撮影環境が画面の下に表示されます。

- FHD動画とSTD動画の撮影のみで有効です。
- プログラムオートでの動画撮影よりも電池寿命はやや短くなります。



ベストショットを利用した動画撮影

ベストショット(147ページ)を利用して、カメラが提案するシーンを選ぶだけできれいな動画を撮影できます(一部のシーンでは動画撮影できません)。

動画撮影時の手ブレ軽減

FHD動画、STD動画(HDRアート動画を除く)では、手ブレを軽減しながら動画撮影できます(186ページ)。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。

音声について

撮影中は音声(ステレオ)もマイクで録音されます。

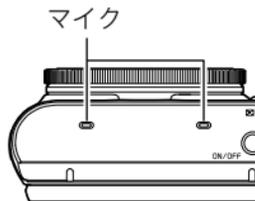
- 本機では、動画撮影時の風の音を低減する機能(風音低減)を搭載しています(196ページ)。

■ 録音時のご注意

- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
 - 指などでマイクをふさがないようにください。
 - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
 - 撮影中にズーム操作すると、ズームやオートフォーカスの動作音が録音されることがあります。
 - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。
- 動画画質が“HS”の場合は、フレームレートが“30-120fps”または“30-240fps”の場合に限り、30fpsでの撮影中のみ音声録音されます。これ以外のフレームレートでは録音されません(191ページ)。

★ 重要

- 動画を長時間撮影した場合、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 高い気温など高温の環境で動画を長時間撮影した場合、撮影画像にノイズ(輝点)が入ることがあります。また、内部温度の上昇により動画撮影の途中で強制的に動画撮影が終了する場合があります。その場合は本機の温度が下がってから動画撮影するようにしてください。



- 静止画と動画では露出の追従範囲が異なるため、同じ場所で静止画と動画を撮影したとき、明るさが異なる場合があります。
- 内蔵メモリー使用時やメモリーカードの種類によっては、処理速度が遅くなる場合があります。特に高品位の動画は正常に記録できない場合があります。また、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、「REC」が黄色になります。

参考

- 動画撮影中もズームの操作ができます(96ページ)。ただし、ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。ハイスピード動画撮影でズームを使いたいときは、**【●】**(ムービー)を押す前にズーム操作をしてください。
- 動画撮影時は超解像ズーム、プレミアムズームは無効です(102、103ページ)。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。
- “フォーカス方式”を“AF”(オートフォーカス)または“マクロ”にした場合、動画撮影中(ハイスピード動画を除く)は常時“コンティニュアスAF”が動作します(185ページ)。
- 動画(FHD、STD、ハイスピード)撮影中は、顔検出機能は無効となります。ただし、プレミアムオートPROの動画(FHD、STD)撮影中は、顔検出機能は動作します。
- 下記の機能では動画撮影はできません。
セルフィーアート、プレミアムズーム、ベストショット撮影の一部
- 動画撮影、バストムービーでは、Aモード、Sモード、Mモードでの撮影はできません。“P”(プログラムオート)での撮影になります。

ハイスピード動画を撮影する

最高1000コマ/秒のハイスピード動画が撮影できます。動画のアスペクト比はフレームレート(動画の撮影速度)によって異なります。



- フレームレートが“30-120fps”または“30-240fps”の場合に限り、30fpsでの撮影中のみ音声録音されます。これ以外のフレームレートでは録音されません。

1. モードダイヤルを【P】(プログラムオート)に合わせる

- プレミアムオート PROでは、ハイスピード動画撮影はできません。

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“📷 REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で撮影速度(フレームレート)を選び、【SET】を押す

フレームレートを速く(1000fpsなど)すると画像サイズが小さくなります。

動画画質	撮影画面の アイコン表示	撮影速度 (フレームレート)	画像サイズ (pixels)
HS1000		1000fps	224×64
HS480		480fps	224×160
HS240		240fps	512×384
HS120		120fps	640×480
HS30-240		30-240fps	512×384
HS30-120		30-120fps	640×480

- fps(frame per second)は1秒間あたりの画像の数を示す単位です。

6. 通常の動画撮影と同様に撮影する(125ページ)

【●】(ムービー)を押すと撮影が開始し、再度押すと終了します。

- ハイスピード動画(HS120、HS240、HS480、HS1000時)の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影を始める前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
- “HS30-120”または“HS30-240”の30fpsでの撮影時はコンティニュアスAFが動作しますが、120fpsまたは240fpsに切り替わったときはその時点でフォーカス位置が固定されます。
- “HS30-120”または“HS30-240”の撮影では、撮影前は30fpsに固定されます。撮影中のみ30fpsと120fps、または30fpsと240fpsのスピードに切り替えが可能です。スピードの調節は、【◀】【▶】または【SET】を押して切り替えてください。30fpsでの撮影中のみ音声録音されます。

参考

- 撮影速度(フレームレート)が高くなるほど、撮影時の周囲の明るさが必要になります。ハイスピード動画撮影時は明るい環境で撮影してください。
- 動画の種類によっては、撮影中の画面が狭くなります。ハイスピード動画の撮影時は画面の上下左右に黒い帯が入ります。
- ハイスピード動画では光源フリッカ(ちらつき)が横帯として写ることがあります。
- ハイスピード動画撮影時は、液晶モニターの表示内容の切り替えはできません。

■ パストムービーの準備をする

1. モードダイヤルを【BS】(ベストショット)に合わせる

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で撮影したい動画画質を選び、【SET】を押す

6. 【SET】を押す

7. 【▲】【▼】で操作パネルの“ ”を選び、【SET】を押す

8. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“パストムービー”のシーンを選び、【SET】を押す
液晶モニターに“ ”(パストムービー)が表示されます。

■ パストムービーを撮影する

1. カメラを被写体に向け、【●】(ムービー)を押して撮影を開始する

【●】(ムービー)を押す約5秒前(ハイスピード動画撮影時は約2秒前)から動画の撮影が始まっています。

2. もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する

- パストムービー撮影をやめ、静止画撮影状態に戻るには、モードダイヤルを【P】(プログラムオート)または【】(プレミアムオート PRO)に合わせます。
- ハイスピード動画撮影の“HS30-120”または“HS30-240”でのパストムービー撮影では、過去の動画撮影記録時は、fpsの切り替えができません。【●】(ムービー)を押したあとは、fpsの切り替えができます。

参考

- パストムービーで動画撮影を開始する前は、シャッターを押しても、静止画撮影はできません。動画撮影中は静止画の撮影ができます(FHD動画/STD動画の場合のみ)。
- パストムービーでハイスピード動画を撮影するときは、“ダイヤル”を“露出補正”や“ホワイトバランス”に設定していても、コントロールダイヤルを回して“露出補正”や“ホワイトバランス”の設定を変更することはできません。これらの設定を変更する場合は、操作パネルから変更してください。

タイムラプス動画を撮影する(タイムラプス)

自然の移り変わりや街の流れをまるで早送りしているかのように見える動画を作成できます。タイムラプスにはさまざまな撮影シーンが収録されています。各シーンには被写体や撮影条件に合った最適なカメラの設定が記録されていますので、撮影したい条件に合ったシーンを選んでください。

シーン	内容
インターバル撮影	一定間隔ごとに自動で撮影します。撮影間隔と枚数を自由に設定できます。→ 120ページ
スタンダード	長時間撮影したムービーを短時間で楽しめます。撮影間隔や時間を設定できます。
雲	雲が流れていく様子をいきいきと撮影できます。
夜景	夜の車のヘッドライトやビルの明かりなどがドラマチックに撮影できます。
夕暮れ	太陽が沈んでいく様子を感動的に撮影できます。
乗り物	電車や飛行機等の動く様子がリズムカルに撮影できます。
街並み	街の様子が絶え間なく流れ、生活の営みを実感できます。
HDRアート	HDR合成(157ページ)を応用し、従来の写真表現を超えた作品が作れます。
トイカメラ	周辺を暗くして、色合いを変えてトイカメラ風に仕上げます。
モノクロ	コントラストを強調し、粒状感をつけ、印象的に仕上げます。

シーン	内容
ミニチュア	一部をぼかし、ミニチュアの模型のように仕上げます。
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような、ユーモラスな作風に仕上げます

- 通常は“**[TL]** スタンダード”のシーンを選んでください。
- カメラを三脚に固定して撮影することをおすすめします。
- 撮影中の電池切れを防ぐため、十分に充電された電池を使用してください。
- 撮影時は、空き容量が十分にあるメモリーカードを使用してください。
- ピントは撮影開始時に固定されます。
- 明るさ、ホワイトバランスはシーンによっては撮影開始時に固定されます。

1. モードダイヤルを**[TL]**(タイムラプス)に合わせる

2. **[SET]**を押す

3. **[▲]****[▼]**で操作パネルの“**[TL]**”を選び、**[SET]**を押す

タイムラプスのシーン一覧が表示されます。

4. 用途に合ったシーンを選び、**[SET]**を押す

- “**[TL]**”が付いているシーンがタイムラプス用のシーンです。
-

5. **[SET]**を押し、**[▲]****[▼]**で操作パネルの“**[⊕]**”(タイムラプス設定)を選んで**[SET]**を押す

6. 【▲】【▼】で“間隔”または“トータル時間”を選んで【▶】を押したあと、【▲】【▼】で値を設定する

各シーンには“ 間隔”と“ トータル時間”があらかじめ設定されています。必要に応じて設定を変更してください。

 間隔	何秒ごとに撮影するかを決めます。
 トータル時間	撮影時間を決めます。“OFF”を選んだ場合は、撮影中に再度シャッターを押すまで撮影が続きます。

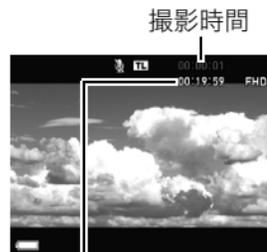
7. 【SET】を押す

- タイムラプスの設定内容は画面下部に表示されます。



8. シャッターを押し、撮影を開始する

- 手順6で設定した撮影間隔ごとに撮影を繰り返します。
- 手順6で設定した撮影時間が経過する、または再度シャッターを押すと、撮影が終了します。
- 残りの撮影時間は、“ トータル時間”が“OFF”の場合は表示されません。



残りの撮影時間

参考

- タイムラプスでの撮影中は“スリープ”(301ページ)の設定に従って液晶モニターが消えますが、消したくない場合は“スリープ”を“切”に設定してください。ただし電池寿命は短くなります。
- “スリープ”(301ページ)を設定した場合は、撮影中に一定時間操作しないと液晶モニターの表示が消えますが、撮影は継続しています。このとき、後面ランプが点滅します。液晶モニターの表示が消えているときにカメラを操作すると、表示が元に戻ります。ただし、以下の操作ではカメラの表示は元に戻りません。
 - 【ON/OFF】(電源)を押す
 - シャッターを全押しする
 - モードダイヤルを操作する
- タイムラプスでの撮影中は、オートパワーオフ機能は無効となります(301ページ)。
- この機能での撮影では、以下の機能は使用できません。
超解像ズーム、手ブレ関連機能、ライティング、コンティニューアスAF、トリプルセルフタイマー、
モーションシャッター、顔検出、測光方式、ISO感度、ISO感度上限、メイクアップ
- この機能での再生は、フレームレートは20フレーム/秒になります。また、動画画質は選んだシーンによって異なります。
シーン2~7:FHD
シーン8~12:HD
- この機能での撮影では、音声は録音されません。
- 以下のシーンでは、ズーム操作は2倍まで、フォーカス方式は無制限となります。
雲、夕暮れ
- タイムラプス動画をスライドショーで再生するときに、タイムラプス動画のみを再生するように設定することもできます(222ページ)。
- “ HDRアート”で動画を撮影する場合、アート効果の強さは動画用の設定に固定されます。

- タイムラプスで動画撮影中に、シャッターを押して静止画を撮影する(スチルインムービー)ことはできません。
- タイムラプスの“**TL** 夜景”のシーンでの撮影で、明るさを調整する場合は、操作パネルの“**S**”(シャッタースピード)(78ページ)で調整してください。

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る→ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する→【◀】【▶】
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る→【SET】



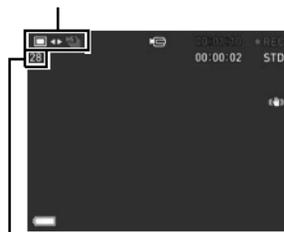
動画撮影中に静止画を撮影する(スチルインムービー)

動画撮影中でもシャッターを押すと、静止画を撮影できます。1枚撮影モードでは1枚ずつ撮影できます。また、連写撮影モードでは1回の撮影で約10fps(1秒間で約10枚)の速さで、最大7枚まで連写撮影可能です。1回の動画撮影中には合計で、最大28枚まで撮影可能です。

1. 動画撮影中に、シャッターを押す

- 動画画質はFHD動画またはSTD動画に設定してください(191ページ)。
- 連写撮影モードでは、シャッターを押し続けている間、連続撮影します。
- 【】(連続撮影切替)、【】、【】のいずれかを押すと、1枚撮影モードと連写撮影モードの切り替えができます。画面の“”が白くなると連写撮影モードになり、“”が白くなると1枚撮影モードになります。

静止画の撮影モード



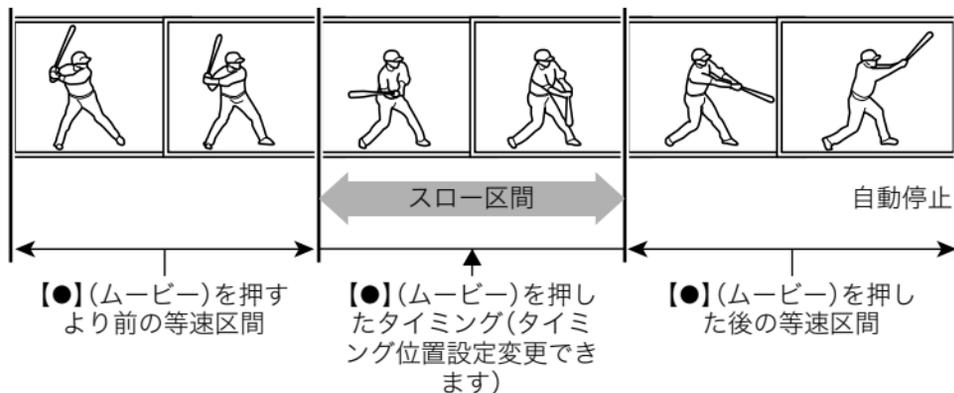
静止画撮影可能枚数

参考

- フラッシュ撮影はできません。
- FHD動画、STD動画撮影時以外はスチルインムービーでの静止画撮影はできません。
- シャッター半押しでピント合わせはできませんが、【SET】を押すとコンティニューAFを再度動作で
きます。
- FHD動画撮影中に撮影した静止画は、FHD動画より広い範囲で撮影されます。
- 画質は自動的に“標準-N”になります。
- スチルインムービーは“P”(プログラムオート)で撮影されます。
- 以下の撮影モードで動画を撮影中は、静止画を撮影できません。
モーションシャッター、タイムラプス、アートショット

撮りたい瞬間をスロー記録する動画撮影(ドラマチックスロー)

一部がスローモーションになったドラマチックな動画を撮影できます。スロー時間の長さ
とスロー撮影のタイミングはあらかじめ設定できます。



1. モードダイヤルを **[SLOW]** (ドラマチックスロー) に合わせる

2. カメラを被写体に向け、【●】(ムービー)を押して撮影する

- 【●】(ムービー)を押す数秒前から動画撮影が始まっています。
- 【●】(ムービー)を押したあと、一定時間後に自動で撮影を終了します。

参考

- スロー区間の“動画画質”の設定は“HS120”または“HS240”のみとなります(191ページ)。他のモードで“HS120”、“HS240”以外に設定されていた場合は、“HS120”で撮影されます。
- 等速で記録された区間のみ音声が録音されます。
- この機能での撮影では、下記の機能は使用できません。
セルフタイマー、ISO感度、メイクアップ
- 撮影中にカメラの操作(メニューの表示、ズームやフォーカスの操作など)をすると、【●】(ムービー)を押す前から記録していた動画のデータがなくなってしまいます。この状態で撮影をすると、【●】(ムービー)を押す前の映像が短くなることがあります。カメラの操作後は、数秒おいてから撮影することをおすすめします。

ドラマチックスローの設定を変更する

スローで記録される部分は、スロー時間の長さ、スロー撮影のタイミングを設定できません。

1. モードダイヤルを【**SL**】(ドラマチックスロー)に合わせる

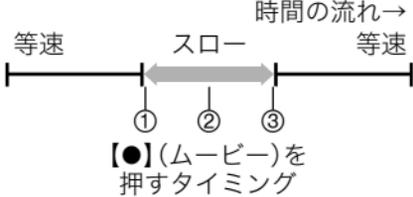
2. 【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で操作パネルの“**⊗**”(ドラマチックスロー設定)を選んで、【SET】を押す ドラマチックスロー設定画面が表示されます。

- ファンクションリングを回して、設定画面を表示することもできます。

4. 【▲】【▼】で変更したい設定項目を選んで【▶】を押したあと、【▲】【▼】で値を設定する

ドラマチックスローの設定を変更してください。

スロー時間	<p>【●】(ムービー)を押したタイミングの前後にスローで記録される時間の長さを設定します。 短い、標準、長い</p> <ul style="list-style-type: none">3段階のスロー時間の長さは、動画画質の設定によって異なります。
タイミング	<p>スロー撮影をするタイミングを設定します。被写体のアクション(動き)に合わせて設定を変えると便利です。</p> <p>①アクション前:動きがあらかじめわかっているものを撮影したいときに最適です。被写体の動き始めて</p> <p>②アクション中:アクションの一番の見せ場を撮影したいときに最適です。被写体が動いている最中に【●】(ムービー)を押すと、前後の動きがスローで撮影できます。</p> <p>③アクション後:ゴールシーンなど、決定的瞬間を撮影するときに最適です。被写体の動きが決まったあとに【●】(ムービー)を押すと、それまでの動きがスローで撮影できます。</p> 

5. 【SET】を押す

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

ベストショットにはさまざまな撮影シーンがカメラに収録されています。各シーンには被写体や撮影条件に合った最適なカメラの設定が記録されていますので、望みのシーン(ベストショット)を選ぶだけで最適なカメラの設定が完了します。

No.	シーン	内容
1	人物	肌の色が調整できます。望遠側にすると背景がきれいにぼけます。 → 155ページ
2	いち押しショット	1回のシャッターで連写を行い、ブレや被写体の笑顔を認識し、最良の1枚を自動選択します。
3	トリプルショット	シャッターを押した前後を含めて3枚連写します。撮りたい瞬間を逃しません。 → 156ページ
4	ルーペ	マクロで最も寄れるズーム位置から、超解像ズームでさらに拡大できます。
5	HS夜景	手持ちか三脚かを自動的に判定して、ブレの少ない綺麗な夜景撮影ができます。
6	HS夜景と人物	手持ちか三脚かを自動的に判定して、ブレの少ない綺麗な夜景と人物の撮影ができます。
7	HSナイトショット	フラッシュ無しでも、暗い場面を明るく撮影します。
8	HDR	1回のシャッターで露出の異なる連写撮影と合成を行い、明暗差の大きな被写体でも撮影できます。 → 157ページ

No.	シーン	内容
9	HS手ブレ補正	1回のシャッターで連写と合成を行い手ブレが補正された撮影ができます。
10	背景ぼかし	背景をぼかし被写体を際立たせます。できるだけ被写体に近寄って撮影しましょう。 → 158ページ
11	全焦点マクロ	遠くの景色までピントの合ったマクロ撮影です。
12	スライドパノラマ	カメラを撮りたい方向にスライドさせることで壮大なパノラマ写真が撮影できます。 → 160ページ
13	ワイドショット	画面に従ってカメラをスライドさせることで、広範囲の写真が撮影できます。 → 163ページ
14	風景	シャープネスがハード、彩度が高めに設定されます。
15	風景と人物	肌の色が調整できます。ワイド側にすると人物と風景にピントが合いやすくなります。
16	子供	シャッター速度が速めになります。
17	スポーツ	シャッター速度が速めになります。
18	キャンドルライト	シャープネスがソフト、ホワイトバランスが電球に設定されます。手ブレに注意して下さい。
19	パーティー	シャッター速度が速めになります。
20	ペット	シャッター速度が速めになります。ペットの目線で撮影しましょう。
21	花	マクロモードになり、彩度が高めに設定されます。
22	緑を鮮やかに	シャープネスがハード、彩度が高め、色強調が緑に設定されます。

No.	シーン	内容
23	紅葉	シャープネスがハード、彩度が高め、色強調が赤に設定されます。
24	水の流れを滑らかに	シャッター速度が遅めになります。
25	水しぶき	シャッター速度が速めになります。
26	夕日	フィルターが赤、ホワイトバランスが太陽光に設定されます。
27	花火	シャッター速度が遅めに設定されます。手ブレに注意して下さい。
28	食べ物	マクロモードになり、彩度が高めに設定されます。
29	文字	マクロモードになり、シャープネスがハード、コントラストが高めに設定されます。
30	RAW撮影	RAW撮影します。同時にJPEGデータも保存します。 → 167ページ
31	パストムービー	[MOVIE] ボタンを押した数秒前からムービーを撮影します。 → 134ページ
32	HDMIテレビ出力	テレビにHDMIケーブルを接続することにより、カメラの画面がテレビに表示されます。 → 168ページ
100	新規登録 (Custom Shot)	画像を選択して登録します。 [SET] で画像選択に移ります。 → 153ページ

ベストショットで撮影する

1. モードダイヤルを【BS】(ベストショット)に合わせる

2. 【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で操作パネルの“BS”を選び、【SET】を押す
ベストショットのシーン一覧が表示されます。

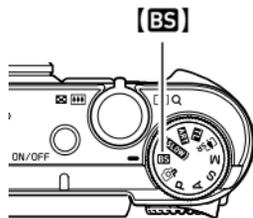
4. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ

- ・ 【▲】【▼】を押すか、ファンクションリングを回すと、別のシーン一覧が表示されます。

5. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

- ・ 別のシーンを選び直すには、手順2からの操作を繰り返します。



現在のシーン(枠部分)



シーン名
シーン番号

6. 静止画を撮影するときはシャッターを、動画を撮影するときは【●】(ムービー)を押す

- シーンによっては、シャッターを押したあと、“処理中です しばらくお待ちください”とメッセージが表示されます。メッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。メッセージが表示されてから処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る→ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する→【◀】【▶】
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る→【SET】



■ ベストショット撮影の注意

- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではなく、効果や効能を説明するためのイメージです。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容は変更できますが、シーンを選び直したり電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。
- 下記のベストショット撮影では、静止画撮影はできません。
パストムービー

- 下記のベストショット撮影では、動画撮影はできません。
ルーペ、背景ぼかし、全焦点マクロ、いち押しショット、HS手ブレ補正、ワイドショット、HSナイトショット、スライドパノラマ、HDMIテレビ出力、トリプルショット、HDR
- 各ベストショットのシーンが選ばれているときの動画撮影はFHD/STD動画撮影では各シーンに適した動画撮影となりますが、ハイスピード動画撮影では選択されているシーンに関わらずプログラムオートでの動画撮影となります。
- 高速連写を応用したベストショット撮影では、“超解像ズーム”の設定は無効になります。
- 下記のベストショット撮影では、撮影環境によって撮影範囲が狭くなることがあります。
HS夜景と人物、HSナイトショット
- いち押しショット撮影時、以下のようなときは目をつぶっているかどうかや、笑っているかどうかの認識がされないので、笑っていない被写体の画像や、目をつぶった被写体の画像が保存される場合があります。
 - 顔の一部または全面が、影などの影響で暗くなっている場合
 - 髪の毛が目被っているまたは接近している場合
 - 眼鏡をかけている場合
 - 顔が小さい場合
 - 顔が正面を向いていない場合
- いち押しショット撮影時、撮影される被写体の人数が多くなると、撮影後の処理に時間が多くかかります。
- 全焦点マクロ撮影時、ピントが合う距離(85ページ)は約12cmからとなります。
- 全焦点マクロ撮影時、カメラが処理できないと判断した場合は、“合成できませんでした通常記録します”と表示されます。処理できない場合でも画像は保存されます。

自分好みの設定を登録して撮影する(カスタムショット)

本機で撮影した静止画の撮影設定を、カスタムシーンとして本機に登録できます(最大999件)。登録したカスタムシーンを選ぶと、同じ設定で撮影できます。カスタムシーンとして登録できるのは、以下の静止画です。

- プログラムオート
- Aモード
- Sモード
- Mモード
- ベストショット(“パストムービー”、“HDMIテレビ出力”を除く)

■ カスタムシーンを登録する

1. ベストショットモードで“Custom Shot(新規登録)”を選ぶ(147ページ)

2. 【◀】【▶】で登録したい静止画を選ぶ

3. “登録”を選び、【SET】を押す

登録したシーンには、“カスタムシーン”という名前が付きます。

参考

- 動画はカスタムショットとして登録できません。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- 登録したシーン番号は、登録した順に、U1、U2・・・となります。
- 登録される設定内容
顔検出、フォーカス方式、露出補正、ホワイトバランス、フラッシュ、ISO感度、測光方式、ライティング、フラッシュ光量、シャープネス、彩度、コントラスト
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」(静止画用)フォルダーに保存されます(292ページ)。
- 内蔵メモリーをフォーマット(306ページ)すると、カスタム登録したシーンファイルは消去されてしまいます。
- 登録したシーンを削除する場合は下記の手順で削除してください。
 - ①シーンの説明画面(151ページ)から削除したいシーンを表示させる
 - ②【▼】()を押したあと“解除”を選び、【SET】を押す

■ 登録したシーンで撮影する

1. ベストショットモードで登録した“カスタムシーン”を選ぶ(150ページ)

2. シャッターを押して撮影する

人物の顔を美しく撮影する(人物)

人物の肌の色味や肌質を調整したり、日差しによる顔の影をやわらげたりして、人物の顔を美しく撮影することができます。

1. ベストショットモードで“人物”を選ぶ (147ページ)
2. 【SET】を押し、操作パネルの“” (メイクアップ設定) を選ぶ (79ページ)
3. 設定項目を選び、値を変更する

肌の色	肌の色味を褐色+6~0(切)~美白+6で調整できます。
肌のなめらかさ	肌質を0(切)~+12(強)で調整できます。

4. 【SET】を押し

撮りたい瞬間を逃さず撮影する(トリプルショット)

シャッターを押すと、連写によって3枚の画像が保存されます。子どものちょっとしたしぐさなどを逃さず撮影できます。

1. ベストショットモードで“トリプルショット”を選ぶ(147ページ)

2. 被写体にカメラを向けてシャッターを半押しする

カメラ内に静止画を一時的に記録します。

- シャッターを全押しする前にシャッターの半押しをやめると、それまでの半押し中に記録した画像は消去されます。

3. シャッターを全押しして撮影する

連写によって、全押ししたときの画像とその前後の画像の合計3枚が保存されます。

- シャッターを半押しせずに全押しすると、連写によって全押し時と、全押し後の合計2枚が保存されます。

参考

- この機能での撮影は、以下の設定に固定されます。
 - セルフタイマー:切
 - フラッシュ:発光禁止
 - 静止画画質:標準-N
 - 超解像ズーム:切
 - 顔検出:入
 - フォーカス方式:AF
 - AFエリア:インテリジェントまたはスポット※
- ※ほかのモードで“マルチ”または“追尾”を選んでいたら場合は、“スポット”で撮影されます。

デジタル処理で白とびや黒つぶれのない写真を撮影する(HDR)

露出の異なる複数の画像を連写して合成することで、明暗差の大きな被写体でも白とびや黒つぶれのない写真が撮影(HDR撮影:ハイダイナミックレンジ撮影)できます。

1. ベストショットモードで“HDR”を選ぶ(147ページ)

2. 【SET】を押し、操作パネルの“”(HDRレベル)を選ぶ(79ページ)

3. HDRレベルを設定し、【SET】を押し

- HDRレベルは3つのレベルから設定できます。

参考

- 三脚で固定して撮影すると、より大きな効果が得られます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“”(発光禁止)になります。
- この機能での撮影では、手ブレをしている場合は手ブレ補正処理をするため、通常より撮影範囲が狭くなる場合があります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られない場合があります。

背景をぼかした写真を撮影する(背景ぼかし)

連写で撮影した複数の画像を解析して、主な被写体の背景をぼかし、一眼レフカメラで撮影したように被写体が浮き上がって見える写真を撮影できます。また、ぼかし効果を三段階で調節できます。



“プログラムオート”で撮影



“背景ぼかし”で撮影

1. ベストショットモードで“背景ぼかし”を選ぶ(147ページ)

2. 【SET】を押し、操作パネルの“” (ぼかし効果)を選ぶ(79ページ)

3. ぼかし効果レベルを設定し、【SET】を押す

- ぼかし効果レベルは3つのレベルから設定できます。
- 被写体になるべく近寄って撮影してください。また、ぼかしたい背景と被写体との距離は、できるだけ離すようにしてください。この距離はズームの倍率によって異なります。

例：ズームがW端の場合 被写体までの距離：30cm

被写体から背景までの距離：1m以上

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“”（発光禁止）になります。
- この機能での撮影では、手ブレ関連機能（186ページ）が自動的に“標準”になりますが、手ブレや被写体ブレが大きい場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- カメラがぼかし処理できないと判断した場合、“ぼかし処理できませんでした 通常記録します”と表示されます。ぼかし処理できない場合でも画像は保存されます。

パノラマ画像を撮影する(スライドパノラマ)

カメラを動かしている間、複数の画像を撮影し、画面上で合成することで、レンズの広角度を超えた最大360度のパノラマ画像を撮影できます。



- 合成した画像は、下記のサイズで保存されます。
スライド方向が右/左方向の場合:最大11520×1080 pixels
スライド方向が上/下方向の場合:最大1920×7296 pixels
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- パノラマ画像は最大で、横方向で約360度、縦方向で約180度の角度で撮影できます。
- 横方向の撮影角度が360度に満たなかった場合は、撮影できた領域によって60度、120度、180度、240度、300度のいずれかのパノラマ画像になります。

1. ベストショットモードで“スライドパノラマ”を選ぶ(147ページ)

2. 【SET】を押し、操作パネルの“” (スライド方向) を選ぶ(79ページ)

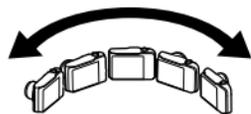
- ファンクションリングを回して、スライド方向を選ぶこともできます。

3. スライド方向(カメラを動かす方向)を選び、【SET】を押す
スライド方向は、右/左/上/下の4種類があります。

4. 被写体の端にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる

5. シャッターを全押しし、画面上に表示されるスライドカーソルが画面の端(スライド方向が右の場合は右端)に着くまで、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす

- スライドカーソルが画面の端に着くまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
- カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。



スライドカーソル

参考

- 以下の場合、スライドパノラマ撮影に適していません。
 - 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
 - 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
 - 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体
 - 主な被写体とカメラとの距離が近い
 - 動いている被写体
 - 周囲が暗い場合
- 以下の場合、スライドパノラマ撮影が中断されることがあります。
 - 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
 - カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした部分の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。
- ちらつきのある光源（蛍光灯など）がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。
- スライドパノラマ撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に「」（発光禁止）になります。

超広角画像を撮影する(ワイドショット)

複数の画像を連続して撮影し、つなぎ合わせることで、搭載されているレンズの制限(ワイド端)を上回る超広角画像を撮影できます。35mmフィルム換算で焦点距離が約15mm、または19mmの広角画像を撮影できます。



25mm(レンズのワイド端)



19mm

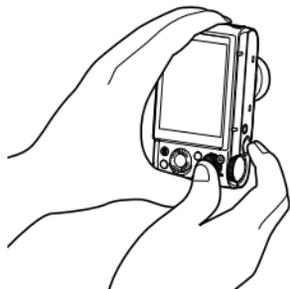


15mm

1. ベストショットモードで“ワイドショット”を選ぶ(147ページ)
2. 【SET】を押し、操作パネルの“”(ワイドレベル)を選ぶ(79ページ)
3. 撮影したいワイドレベル(広角サイズ)を選び、【SET】を押し
“19mm”と“15mm”の2種類があります。“19mm”より“15mm”のほうが広く撮影できます。

4. コントロールダイヤルとシャッターの位置が下側になるように、カメラを縦に構える

- このときにレンズを地面(真下)に向けないでください。カメラ内部の縦横位置を感知するセンサーが誤動作し、撮影が開始できないことがあります。



5. 画像の中央にしたい被写体にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる

- 画面上の外側の青い枠までが撮影できる範囲です。



撮影予定の画像



青い枠

撮影を始めるときの中央部分

6. シャッターを全押しし、画面上に表示されるガイドと矢印に従って、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす

- カメラを両手でしっかり持ち、ガイド表示に従って水平、垂直に体を中心に弧をえがくように、ゆっくり一定の速度でスライドさせて撮影してください。
 - 左右にスライドさせるときは、体を左右に平行移動するのではなく、体を軸にして左右に撮影してください。
 - 上下にスライドさせるときは、体を上下に平行移動するのではなく、肩を軸に上下に撮影してください。
 - 斜めにスライドさせたり、ゆれたりしないようにご注意ください。
- ガイド表示が終わるまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
- カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。



参考

- "15mm"や"19mm"という画角を表す数値は、あくまで参考値であり、画角自体を保証するものではありません。
- ワイドショット撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- この機能では、画角が最大15mmまたは19mmの広角画像が撮影できますが、撮影状況によってはこの画角より狭くなる場合があります。

- 以下の場合は、ワイドショット撮影に適していません。
 - 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
 - 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
 - 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体
 - 主な被写体とカメラとの距離が近い
 - 動いている被写体
 - 周囲が暗い場合
 - 高層ビルなど、高い建物を近くで見上げるような場合
- 以下の場合、ワイドショット撮影が中断されることがあります。
 - 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
 - カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
 - 撮影ルートから外れた場合
 - 指定された方向に撮影しなかった場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした部分の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。
- ちらつきのある光源(蛍光灯など)がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。
- ワイドショット撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“” (発光禁止)になります。

RAW画像を撮影する(RAW撮影)

静止画撮影時に、通常のJPEG画像と一緒にRAW画像※も保存できます。RAW画像のデータは、メモリー内の「RAW」という記録フォルダーに保存されます(293ページ)。

※RAW画像は、カメラ内で補正される前の未処理の状態のデータです(拡張子は.DNG)。画像の劣化がほとんどないため、撮影後に汎用のDNGフォーマット対応のソフトウェアなどを使って、自由に作品を仕上げることができます。

1. ベストショットモードで“RAW撮影”を選ぶ(147ページ)

参考

- この機能での撮影では、画像サイズが“12M”に固定されます。
- この機能での撮影では、超解像ズームおよびデジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。ただし、ワイド端は1.4倍(35mmフィルム換算で35mm)となります。
- この機能での撮影では、動画は撮影できません。

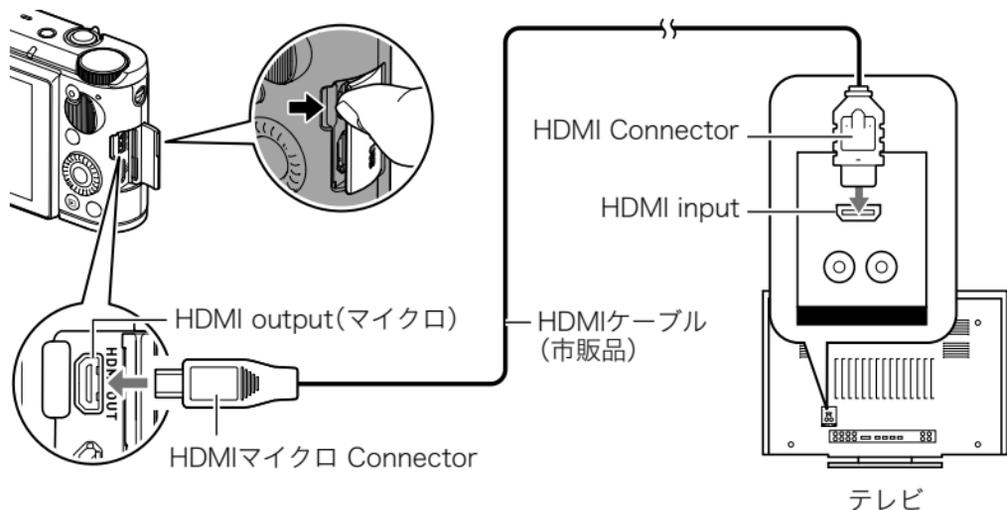
テレビに映しながら静止画を撮影する(HDMIテレビ出力)

液晶モニターに表示される内容をテレビに映しながら、アスペクト比が16:9の静止画を撮影できます。

1. カメラの電源を切り、市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぐ

- HDMIケーブル(市販品)は右記のロゴのあるものをお使いください。
- ケーブルの抜き差しは、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。テレビは、テレビの取扱説明書に従って設定をしてから、ケーブルの抜き差しを行ってください。





2. カメラの電源を入れる

3. ベストショットモードで“HDMIテレビ出力”を選ぶ(147ページ)

液晶モニターの表示が消え、テレビに被写体が表示されます。

4. テレビで確認しながら、シャッターを押して撮影する

参考

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、168ページをご覧ください。
- デジタルビデオ信号の形式を変更する場合は、HDMIケーブルをカメラから抜いてから行ってください(212ページ)。
- この機能では、プレミアムオート PROなど他の撮影モードで撮影できません。
- この機能での撮影は、以下の設定に固定されます。他の設定には変更できません。
 - 静止画サイズ:16:9
 - AFエリア:スポット
 - コンティニュアスAF:切
 - 顔検出:切
 - メイクアップ:0(切)
 - ホワイトバランス:オートWB
 - 測光方式:マルチ
- この機能では、無線モード(246ページ)は使用できません(【無線】(無線)を押しても動作しません)。無線モードを使用する場合は、“HDMIテレビ出力”以外のシーンを選ぶか、他の撮影モードに切り替える、またはHDMIケーブルを抜いてください。

よりよい撮影のための設定(REC MENU)

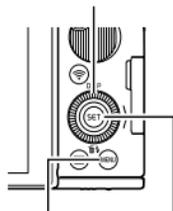
メニュー画面を使って撮影設定を変更する

ここでは撮影モードで設定できるメニュー項目について説明します。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

メニュー画面(📷 REC MENU)が表示されます。

【▲】【▼】【◀】【▶】



【MENU】 【SET】

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“📷 REC MENU”タブを選んで【▶】または【SET】を押す

3. 設定したい項目を選び、内容を決定する

- メニューの操作方法については、61ページを参照ください。

例：“📷 REC MENU”タブ、“セルフタイマー”選択時

“📷 REC MENU”タブ



設定項目

何枚も連続して撮影する(連写モード)

メニュー項目名:連写モード

詳しくは104ページをご覧ください。

被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす (モーションシャッター)

メニュー項目名:モーションシャッター

詳しくは110ページをご覧ください。

フロントシャッターを使用した撮影方法を設定する (フロントシャッター)

メニュー項目名:フロントシャッター

撮影モード時にフロントシャッターを押した場合の撮影方法を設定できます。

設定項目	撮影画面の アイコン表示	設定内容
標準		通常どおり、カメラの設定で撮影します。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
AFLess		フロントシャッターを半押しすると、フォーカス位置の調整をせずにすぐに撮影します。あらかじめ天面のシャッターボタンでピントを合わせておくと、フロントシャッターで撮影のタイムラグを少なくして撮影できます。1枚撮影時のみ、使用できます。
セルフタイマー		フロントシャッターを押し続けた長さに応じたタイマーが起動します(123ページ)。
×3セルフタイマー		
連写		撮影速度が10fpsで、最大10枚連写します。撮影モードがプログラムオートで、メニュー項目の“連写モード”(104ページ)を“切”にしたときのみ、使用できます。
切		フロントシャッターを押しても、撮影されません。

参考

- 一部のベストショット撮影では、フロントシャッターで撮影できません。
- 再生モード時のフロントシャッターについては、215ページをご覧ください。
- “切”以外に設定すると、動画撮影に静止画を撮影(スチルインムービー)できますが、一枚撮影モードになります。連写撮影モードでは撮影できません。

ファンクションリングやコントロールダイヤルに機能を割り当てる (キーカスタマイズ)

メニュー項目名:キーカスタマイズ

ファンクションリング、コントロールダイヤル、左右キーに、以下のうちのどれか1つの機能を割り当てることができます。

操作	設定項目	設定内容	参照ページ
ファンクションリング※1	ステップズーム	光学ズームの倍率を変える	98ページ
	露出補正	明るさを補正する	90ページ
	ISO感度	ISO感度を変える	88ページ
	ホワイトバランス	色合いを調整する	82ページ
	マニュアルフォーカス※2	フォーカスを調整する	86ページ
	肌のなめらかさ	肌のなめらかさを調整する	89ページ
	シャッタースピード	シャッター速度を変える	78ページ
	絞り	絞り値を調整する	78ページ
	パスト連写枚数	シャッター全押し前の連写枚数を変える	106ページ
アート効果	効果のかかり具合を調整する	115ページ	

操作	設定項目	設定内容	参照ページ
ダイヤル ※3	露出補正	明るさを補正する	90ページ
	ホワイトバランス	色合いを調整する	82ページ
	ISO感度	ISO感度を変える	88ページ
	ISO感度上限	ISO感度の上限を設定する	179ページ
	セルフタイマー	セルフタイマーの時間を設定する	80ページ
	フォーカス方式	ピントの合わせ方を変える	85ページ
	切	ダイヤルに機能を割り当てない	
左右 キー※4	連写モード	連写モードに切り替える	104ページ
	露出補正	明るさを補正する	90ページ
	ホワイトバランス	色合いを調整する	82ページ
	ISO感度	ISO感度を変える	88ページ
	測光方式	光の測りかたを変える	95ページ
	セルフタイマー	セルフタイマーの時間を設定する	80ページ
	モーションシャッター	モーションシャッターに入る動作を設定する	110ページ
切	【◀】【▶】に機能を割り当てない		

※1 割り当てることができる機能は、撮影モードによって異なります。

※2 ファンクションリングで直接フォーカスを調整する場合は、カメラを以下の設定にしてください。

フォーカス方式: "MF" (マニュアルフォーカス)

顔検出: 切

メイクアップ: 0(切)

※3 撮影モードがM(マニュアル露出)モードのときは、ダイヤル操作は以下のようになります。

- ファンクションリング(175ページ)に“絞り”以外の機能を割り当てた場合、ダイヤル操作で絞りを調整できます。
- ファンクションリングに“絞り”を割り当てた場合、ダイヤル操作でシャッター速度を調整できます。

※4 “左右キー”に機能を割り当てていても、以下の場合は割り当てとは別の機能になります。

- フォーカス方式を“MF”にした場合は、フォーカスを調整できます。
- AFエリアを“マルチ”にした場合は、測定範囲を変更できます。

参考

- 1つの機能を複数の操作に割り当てることはできません。
- 撮影モードによっては、コントロールダイヤルで割り当てた機能を設定できないことがあります。

セルフタイマーを使う(セルフタイマー)

メニュー項目名:セルフタイマー

詳しくは操作パネルからの操作方法(80ページ)をご覧ください。

明るさを補正する(露出補正)

メニュー項目名:露出補正

詳しくは操作パネルからの操作方法(90ページ)をご覧ください。

色合いを調整する(ホワイトバランス)

メニュー項目名:ホワイトバランス

詳しくは操作パネルからの操作方法(82ページ)をご覧ください。

ISO感度を変える(ISO感度)

メニュー項目名:ISO感度

詳しくは操作パネルからの操作方法(88ページ)をご覧ください。

ISO感度の上限を設定する (ISO感度上限)

メニュー項目名:ISO感度上限

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
オート	なし	“ISO感度”(88ページ)で設定したISO感度で撮影されます。
ISO 200	ISO 200	“ISO感度”(88ページ)の設定が“Auto(オート)”の場合、ここで選んだISO感度が上限となります。
ISO 400	ISO 400	
ISO 800	ISO 800	
ISO 1600	ISO 1600	
ISO 3200	ISO 3200	
ISO 6400	ISO 6400	

参考

- “ISO感度”(88ページ)の設定が“Auto(オート)”以外の場合は“ISO感度上限”の設定は無効となり、“ISO感度”で選択した設定で撮影されます。
- “HSナイトショット”(147ページ)では、自動的に下記の中からの設定になります。
オート、ISO1600、ISO3200、ISO6400、ISO12800、ISO25600
- 下記の撮影では、“ISO感度上限”は設定できません。
プレミアムオート PRO、Mモード、ベストショット撮影の一部

ピントの合わせ方を変える(フォーカス方式)

メニュー項目名:フォーカス方式

詳しくは操作パネルからの操作方法(85ページ)をご覧ください。

オートフォーカスの測定範囲を変更する(AFエリア)

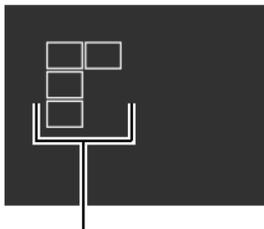
メニュー項目名:AFエリア

静止画撮影時のオートフォーカスの測定範囲を変更できます。

- 動画撮影時の設定は“ スポット”に固定になります。

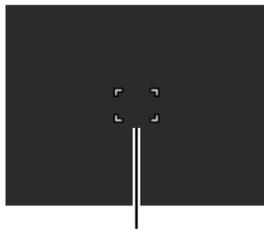
設定項目	設定内容
 インテリジェント	画面の中でピントを合わせるべき部分をカメラが自動的に判断し、その部分へピントを合わせます(自動認識AF)。 <ul style="list-style-type: none">• 顔検出(183ページ)も自動的に動作します。
 スポット	中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(87ページ)を活用した撮影に便利です。
 マルチ	シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合った部分のフォーカスフレームが緑色で表示されます。 さらに、この測定範囲を以下の手順で上下左右に移動できます。 ① 撮影待機中に【◀】または【▶】を押す ② 【◀】【▶】【▲】【▼】で距離点を移動する <ul style="list-style-type: none">• ズームレバーをスライドすると、現在選んでいる測定範囲の中央のみが選択されます。 ③ 測定範囲が決定したら【SET】を押す
 追尾	シャッターを半押しすると、ピントを被写体に合わせるとともに、被写体の動きに合わせてフォーカスフレームが追尾します。

“**[i]** インテリジェント”
の場合



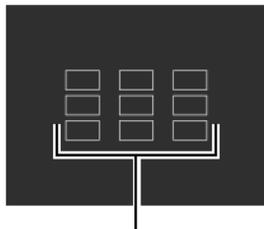
フォーカスフレーム

“**[s]** スポット”、
“**[t]** 追尾”の場合



フォーカスフレーム

“**[m]** マルチ”の場合



フォーカスフレーム

重要

- フォーカス方式(85ページ)で“MF”(マニュアルフォーカス)を選んでいると、どのAFエリアを選んででもオートフォーカスは動作しません。
- “**[t]** 追尾”で被写体を追尾しているときはレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- 一部のベストショット撮影では、選んだAFエリアが使用できなったり、選択できない等の制限があります。
- AFエリアを“**[m]** マルチ”にすると、**[◀] [▶]**で測定範囲が変更されます。“キーカスタマイズ”の“左右キー”(175ページ)に機能を割り当てていても、割り当てた機能は使用できません。

人物の顔にピントと明るさを合わせて撮影する(顔検出)

メニュー項目名:顔検出

人物を撮影するときに、一度に最大10人まで人物の顔を検出し、ピントと明るさを合わせて撮影します。

1. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

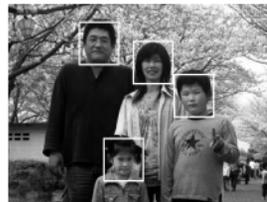
2. 人物にカメラを向ける

人物の顔を検出すると、顔にフレームが表示されます。

3. シャッターを半押しする

ピントと明るさが合った顔に、緑色のフレームが表示されます。

4. シャッターを全押しして撮影する



よりよい顔検出撮影のために

- 顔が検出できない場合は、設定されているAFエリア(181ページ)に従ってピントを合わせます。
- フォーカス方式は必ずオートフォーカス(AF)となります。
- 次のような場合、顔が検出できません。
 - 顔の一部が頭髮、サングラス、帽子などでさえぎられている人物、または顔に濃い影が落ちている人物
 - 顔が横を向いていたり斜めに傾いていたりする人物
 - 距離が遠すぎて顔が小さすぎる人物、または距離が近すぎて顔が大きすぎる人物
 - 極端に暗い場所での人物
 - ペットなど人物以外の被写体

重要

- 下記の撮影では、顔検出撮影はできません。
 - ベストショット撮影の一部
 - アートショットの一部
 - 動画撮影(ハイスピード動画撮影を行う一部のベストショットを含む)
 - 高速連写でパスト連写を行っているとき(高速連写撮影を行う一部のベストショットを含む)
- “顔検出”を使用すると“フォーカス方式”は必ず“AF”(オートフォーカス)に固定されます。“フォーカス方式”を切り替えたいときは“顔検出”を“切”にしてください。

人物の顔を美しく撮影する(メイクアップ)

メニュー項目名:メイクアップ

詳しくは操作パネルからの操作方法(89ページ)をご覧ください。

常にオートフォーカスを動作させる(コンティニュアスAF)

メニュー項目名:コンティニュアスAF

“入”にすると、静止画撮影時はシャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。

- コンティニュアスAFで撮影中はレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。

光の測りかたを変える(測光方式)

メニュー項目名:測光方式

詳しくは操作パネルからの操作方法(95ページ)をご覧ください。

手ブレや被写体ブレを軽減する(手ブレ関連機能)

メニュー項目名:手ブレ関連機能

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。手ブレ関連機能を使って、このようなブレを少なくできます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
強		手ブレ補正に加えて、“標準”よりもシャッター速度を速めることで、被写体ブレもさらに低減します。なお、“標準”よりもISO感度が上がる場合があります。 “強”は(高速連写を除く)プログラムオート、プレミアムオート PRO、ベストショット撮影の“HS手ブレ補正”で使用できます。
標準		手ブレを軽減します。
切	なし	ブレ軽減は行いません。

参考

- FHD動画／STD動画撮影時は手ブレ補正だけが動作します。
- ハイスピード動画、HDRアートムービー、タイムラプス撮影時は手ブレ関連機能は動作しません。
- “手ブレ関連機能”を“強”に設定して撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きいときは、ブレを軽減できない場合があります。
- 三脚使用時は、手ブレ補正が正常に動作しません。“手ブレ関連機能”の設定を“切”に設定してください。
- “手ブレ関連機能”を“強”に設定しても、撮影状況によっては効果がない場合があります。
- 一部の撮影モードでは、“手ブレ関連機能”を“強”に設定できません。その場合、設定項目がグレーで表示されます。

静止画の画像サイズを設定する(静止画サイズ)

メニュー項目名:静止画サイズ

画素数(pixels)	撮影画面のアイコン表示	プリント時の用紙サイズの目安や用途	特徴
12M (4000×3000)		ポスタープリント	精細な画像が得られ、トリミング(237ページ)しても画像が粗くならないです。
3:2 (4000×2656)		ポスタープリント	
16:9 (4000×2240)		HDTVサイズ	
8M (3264×2448)		A4プリント	精細な画像が得られます。
3M (2048×1536)		L判プリント	画質より、撮影枚数を優先したいときに有効です。

- お買い上げいただいたときは、“12M”で撮影するように設定されています。
- “3:2”を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率(3:2)に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。
- HDTVとはHigh Definition TeleVision(高精細テレビ)の略です。HDTVの画面の横縦比は16:9になります。本機はこのHDTVの画面の横縦比に合わせて撮影できます。

- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。
- 一部機能では画像サイズの制限があります。

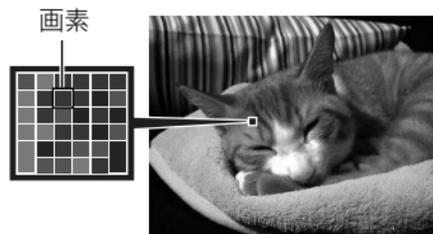
**3:2、
16:9**

“高速連写”と“HSナイトショット”では選択できません。他のモードで“3:2”または“16:9”を選んでいた場合は、“高速連写”または“HSナイトショット”に切り替えると“12M”になります。

■ 画素数と画像サイズについて

デジタルカメラの画像は、小さな点(画素・pixels)の集まりでできています。

画素数は、数が多いほど精細な写真が撮れますが、サービスサイズ(L版)へのプリント、Eメールに添付して送る、パソコンの画面で見る、などの用途では画素数が少なくても良い場合があります。その画像がいくつの画素でできているかを示すものが画像サイズで、横×縦の画素数で表します。



例:

画像サイズ	画素数
12M	4000×3000(約1200万画素)
3M	2048×1536(約300万画素)

- 画像サイズが大きいほど画素数が多くなり、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。
- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→357ページ
- 動画の画像サイズについて→191ページ
- 撮影済み静止画の画像サイズを小さくする(リサイズ)→237ページ

静止画の画質を設定する(静止画画質)

メニュー項目名:静止画画質

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
高精細-F		画質を優先
標準-N		標準

- 枝や木の葉が密集しているようなきめ細かい自然画や複雑な模様を撮影するときは、“高精細-F”にすることで、緻密な画質で撮影できます。
- 画質によって、撮影できる枚数が異なります(357ページ)。

動画の画質を設定する(動画画質)

メニュー項目名:動画画質

動画の画質と動画の撮影モードを設定できます。

設定項目 (画質(pixels))	撮影画面の アイコン表示	転送レート (フレームレート)	設定内容
FHD		14.2メガビット/秒 (30フレーム/秒)	高精細な動画(FHD動画)を撮影するときに選びます。アスペクト比が16:9の画像になります(125ページ)。
HD		10.9メガビット/秒 (12、15、20、 30フレーム/秒)	アートショット(114ページ)またはタイムラプス(137ページ)のアートショット系シーンでの撮影時に、高精細な動画(HD動画)を撮影するときに選びます。アスペクト比が16:9の画像になります。 <ul style="list-style-type: none">フレームレートは選択したシーンによって異なります。
STD		3.9メガビット/秒 (30フレーム/秒)	標準的な動画を撮影するときに選びます。アスペクト比が4:3で撮影されません(STD動画)。

設定項目 (画質(pixels))	撮影画面の アイコン表示	転送レート (フレームレート)	設定内容
HS1000		40.0メガビット/秒 (1000フレーム/秒)	ハイスピード動画を撮影するときに選 びます。動画の画像サイズはフレーム レート(動画の撮影速度)によって異な ります(131ページ)。
HS480		40.0メガビット/秒 (480フレーム/秒)	
HS240		40.0メガビット/秒 (240フレーム/秒)	
HS120		40.0メガビット/秒 (120フレーム/秒)	
HS30-240		5.4メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (240フレーム/秒)	
HS30-120		10.4メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (120フレーム/秒)	

画像の明るさを最適化する(ライティング)

メニュー項目名:ライティング

明るい所と暗い所の明るさのバランスを最適な状態に調整して撮影できます。

設定項目	設定内容
入	明るさが補正されます。
切	明るさの補正は行いません。

鮮鋭さを変える(シャープネス)

メニュー項目名:シャープネス

+2(もっとも鮮鋭度が高い)から-2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

メニュー項目名:彩度

+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から-2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える(コントラスト)

メニュー項目名:コントラスト

+2(明暗の差がもっとも大きい)から-2(明暗の差がもっとも小さい)までの5段階から選べます。

フラッシュの明るさを変える(フラッシュ光量)

メニュー項目名:フラッシュ光量

+2(フラッシュの明るさが最も強い)から-2(フラッシュの明るさが最も弱い)までの5段階から選べます。

- 被写体が遠すぎたり近すぎたりする場合、フラッシュ光量が変わらないことがあります。

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる(超解像ズーム)

メニュー項目名:超解像ズーム

詳しくは102ページをご覧ください。

デジタルズームを設定する(デジタルズーム)

メニュー項目名: デジタルズーム

デジタルズーム(96ページ)を使用したいときは“入”にしてください。

- 下記の撮影では、デジタルズームは使用できません。
 - ハイスピード動画撮影中、ベストショット撮影の一部、インターバル撮影

ピント合わせを補助するライト(AF補助光)

メニュー項目名: AF補助光

暗い場所での撮影のときなど、ピント合わせをしやすくするために、シャッター半押し時に必要に応じて前面ランプがAF補助光として発光します。

- 至近距離で人物撮影をするときなどは“切”に設定することをおすすめします。

重要

- 前面ランプをのぞいたり、光を人の目に当てないでください。
- 前面ランプに指がかからないようにしてください。



HDRアート撮影時、効果なし画像も保存する (ダブル保存(HDRアート))

メニュー項目名:ダブル保存(HDRアート)

詳しくは118ページをご覧ください。

動画撮影時の風の音を低減する(風音低減)

メニュー項目名:風音低減

動画撮影時に録音される風の音を低減したいときは“入”にしてください。ただし、音質が多少変化します。

撮影直後の画像を表示する(撮影レビュー)

メニュー項目名:撮影レビュー

撮影直後の画像が、約1秒間表示されます。

タイプ1	撮影した画像が、液晶モニターの全面に表示されます。
タイプ2/タイプ3	撮影した画像が、液晶モニターの一部に表示されます。タイプによって撮影レビューが出るときや消えるときの効果が異なります。
切	撮影した画像は表示されません。

- “タイプ1”にした場合、一部の機能での撮影では、シャッターを押したあとに“処理中ですしばらくお待ちください”とメッセージが表示され、メッセージ表示中は撮影できなくなります。処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。
- 撮影モードによって、撮影レビューが表示されない場合があります。
- 以下のモードやシーンで撮影中は、“タイプ1”を選んでも、“タイプ2”で撮影レビューが表示されます。
 - 高速連写、AF連写、トリプルショット(ベストショット)
 - アートショットブラケットング(アートショット)
- ダブル保存(HDRアート)を“入”にしてHDRアートを撮影した場合は、アート効果がかかった画像と通常の画像の両方が表示されます。

画面上のアイコンの意味を確認する(アイコンガイド)

メニュー項目名:アイコンガイド

“入”にすると、各種撮影機能を切り替えるときに、アイコンの意味が表示されます。

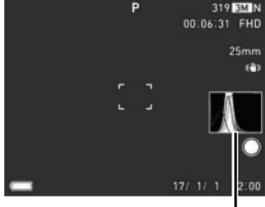
アイコンの意味を確認できる機能

- 撮影モード
- “ファンクションリング”、“ダイヤル”、および“左右キー”で設定できる項目
- シャッター半押し時の露出警告

撮影時の液晶モニター表示を変更する(アシスト表示)

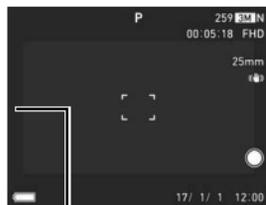
メニュー項目名:アシスト表示

撮影時に、液晶モニターにグリッドやヒストグラム、動画撮影範囲を表示します。

グリッド	<p>“入”にすると、基準線が表示されます。カメラを水平や垂直に保つ目安線になります。</p>	
ヒストグラム	<p>“入”にすると、ヒストグラムが表示されます。露出を確認しながら撮影できます。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none">フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムでチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。動画撮影時、ヒストグラムは表示されません。	 <p>ヒストグラム</p>

動画撮影範囲

“入”にすると、半透明のグレーの枠が表示されます。動画の場合は、枠の内側の範囲で撮影されます。



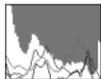
半透明のグレーの枠

■ ヒストグラムの見かた

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムが片寄っていた場合は、露出補正すると、ヒストグラムを左右に移動させることができます。グラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらに静止画ではR(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されるので、色ごとのオーバー・アンダー状況を把握できます。

典型的なヒストグラムの例

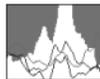
全体的に暗い画像は左寄りのヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。



全体的に明るい画像は右寄りのヒストグラムになります。右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。



全体的に適切な明るさの画像は中央寄りのヒストグラムになります。



参考

- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となるわけではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。

各種設定を記憶させる(モードメモリー)

メニュー項目名:モードメモリー

“入”にすると電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。“切”にすると電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	切(初期設定)	入
ファンクションリング	最初の設定項目(撮影モードごとに記憶します)	最後の状態
連写モード	切	
フラッシュ	オート	
フォーカス方式	AF	
ISO感度	Auto(オート)	
ホワイトバランス	オートWB	
露出補正	0.0	
AFエリア	スポット	
測光方式	マルチ	
セルフタイマー	切	
フラッシュ光量	0	
超解像ズーム	シングル	
デジタルズーム	入	
MF位置	MF(マニュアルフォーカス)に切り替える前の位置	
ズーム位置	ワイド端(光学ズームの位置のみ記憶します)	

静止画や動画を再生する

撮影した静止画を見る

操作方法については70ページをご覧ください。

撮影した動画を見る

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で再生したい動画(ムービー)を表示させる
2. 【●】(ムービー)を押して、再生を始める



動画の再生中にできること

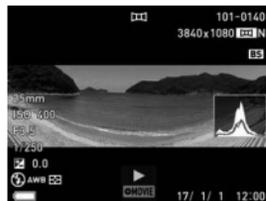
早送り/早戻しする	【◀】【▶】 <ul style="list-style-type: none">• 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。• ファンクションリングでも操作できます。• 通常の再生に戻るときは【▼】を押します。
再生と一時停止を切り替える	【SET】

一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】 <ul style="list-style-type: none"> 押し続けると、連続してコマ送りします。 ファンクションリングでも操作できます。
音量を調節する	【▼】 を押したのち 【▲】【▼】 を押す <ul style="list-style-type: none"> 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示のあり/なしを切り替える	【▲】 (DISP)
ハイスピード動画の再生中(スロー再生)に通常の動画の再生速度にする	【●】 (ムービー) <ul style="list-style-type: none"> 再度【●】(ムービー)を押すと、元のスロー再生に戻ります。ただし、“HS30-120”、“HS30-240”で撮影した画像は再生速度を切り替えることができません。
拡大する	ズームレバーを 【Q】 (Q)側にスライド <ul style="list-style-type: none"> 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。動画は4.5倍まで拡大できます。 ファンクションリングでも操作できます。
再生をやめる	【MENU】

- このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。
- “回転表示”(236ページ)や“縦画像回転再生”(299ページ)で回転させた状態の動画は、拡大できません。

撮影したパノラマ画像を見る

- 再生モードにして、【◀】【▶】で再生したいパノラマ画像を表示させる
- 【●】(ムービー)を押して、パノラマ画像を再生する
パノラマ画像が、左右または上下にスクロールして再生されます。



再生中にできること

再生と一時停止を切り替える	【SET】
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】(スライド方向が右方向、左方向の場合) 【▲】【▼】(スライド方向が上方向、下方向の場合) ・押し続けると、連続してコマ送りします。
情報表示のあり/なしを切り替える	【▲】(DISP)
再生をやめる	【MENU】

- パノラマ画像は下記の機能が使用できません。
モーションプリント、ムービーカット、トリミング、リサイズ、ライティング、ホワイトバランス、明るさ編集、回転表示

連写した静止画を見る

1回の連写やインターバル撮影で撮影した複数の静止画は、1つのグループにまとまった形で再生されます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で再生したいグループを表示させる



2. 【●】(ムービー)を押して、連写画像を再生する

表示中の画像番号/グループ内の画像総数



再生中にできること

【◀】【▶】	再生中は再生方向と再生スピードの調整 一時停止中はコマ送り、コマ戻し ・ ファンクションリングでも操作できます。 ・ 画像の拡大中は再生スピードの調整はできません。
【SET】	一時停止、再生の切り替え
ズームレバー	拡大、縮小 ・ 拡大中は、 【▲】【▼】【◀】【▶】 で拡大部分を移動できます。 ・ 拡大していないときにズームレバーを 【田】 (■) 側にスライドさせると、この連写グループ内の画像を一覧表示します。
【MENU】	グループの再生終了
【▲】(DISP)	情報表示の切り替え
【▼】	“グループ編集”メニューの表示

連写画像を消去する

再生中または一時停止中に、連写画像を消去できます。

1. 連写またはインターバルグループを再生しているとき、または一時停止中に**【▼】**を押す
 - ・ “グループ編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で消去方法を選び、【SET】を押す

消去	<p>1ファイルずつ消去します。</p> <p>①【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる</p> <p>②【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す</p> <ul style="list-style-type: none">• 続けて別のファイルを消去する場合は手順①～②を繰り返します。 <p>③【MENU】を押して、操作を終了する</p>
選択フレーム 消去	<p>選択したファイルを消去します。</p> <p>①【▲】【▼】【◀】【▶】で消去したいファイルに青枠を移動し、【SET】を押す</p> <ul style="list-style-type: none">• 選択したファイル左下の□にチェックが入ります。• ズームレバーを【Q】(Q)側にスライドさせると画像を拡大して表示します。 <p>②手順①を繰り返して、消去したいファイルをすべて選択する</p> <p>③消去したいファイルの選択が終了したら、【MENU】を押す</p> <p>④【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す</p> <ul style="list-style-type: none">• 選択したファイルが消去されます。• 消去をやめるには、“いいえ”を選んで【SET】を押してください。
グループ内 全消去	<p>グループ内のすべてのファイルを消去します。</p> <p>①【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す</p>

画像のグループ化を解除する

グループ内の画像を通常の静止画のように1枚ずつの画像にできます。

重要

- 一度グループを解除すると、再グループ化はできません。

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“▶ PLAY MENU”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“グループ解除”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】でグループ解除方法を選び、【SET】を押す

選択ファイル	1グループずつグループを解除します。 ①【◀】【▶】でグループを解除したい連写グループを表示する ②【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押す ・続けて別のファイルを解除する場合は手順①～②を繰り返します。
全ファイル	すべてのグループを解除します。 ①【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

グループ内の画像をコピーする(コピー)

連写画像内の画像を1枚ずつ選んでグループ外にコピーできます。

1. 連写またはインターバルグループを再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“グループ編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押す

3. 【◀】【▶】でグループ外にコピーしたいファイルを表示させる

4. 【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押す

参考

- グループ内の静止画は下記の機能が使用できません。“コピー”で1枚の静止画として保存してから下記の機能をご使用ください。
ホワイトバランス、明るさ編集、トリミング、回転表示、リサイズ

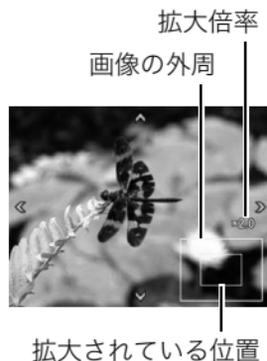
画像を拡大して表示する

1. 再生モードにして【◀】【▶】で再生したい画像を表示させる

2. ズームレバーを【◻】(Q)側にスライドさせて、画像を拡大表示させる

【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。また、コントロールダイヤルで上下、ファンクションリングで左右に移動することもできます。ズームレバーを【◻】側にスライドさせると、縮小表示されます。

- 液晶モニターに情報を表示しているときは、画像の右下に拡大されている位置が表示されます。
- 元の表示に戻るには【MENU】を押します。
- 最大8倍まで拡大できますが、画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。
- 拡大中に【SET】を押すと、静止画拡大倍率を保ったまま、【◀】【▶】で次の画像を見ることができます。もう一度【SET】を押すと、画像の拡大表示される位置を移動できる状態へ戻ります。ただし、この機能は連写した画像や動画では使用できません。また、拡大した状態での【◀】【▶】では連写した画像、動画が表示されません。



画像を一覧表示する

1. 再生モードにしてズームレバーを【】()側にスライドさせる

【▲】【▼】【◀】【▶】を押していくと、前後の画像を表示します。通常表示(1枚表示)で見たいときは【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

- 動画や連写した画像は先頭の画像が表示されます。
- ファンクションリングを回すと、前後のページが表示されます。
- 再生できない画像には“?”が表示されることがあります。



テレビで静止画や動画を見る

1. 市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぐ(168ページ)。

重要

- 撮影モード(“HDMIテレビ出力”(168ページ)を除く)ではテレビ出力できません。

2. テレビの映像入力を“HDMI入力”に切り替える

テレビに映像入力がある場合は、カメラをつないだ映像入力を選んでください。

3. 電源を入れ、【▶】(再生)を押す

テレビの画面に画像が表示されます(液晶モニターには何も表示されません)。

4. 以後、カメラで静止画や動画を再生する

重要

- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

参考

- カメラ本体側はHDMIマイクロConnector、テレビ側はテレビのHDMI Connectorに合ったHDMIケーブルをご使用ください。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- カメラ本体と接続機器のHDMI output(出力端子)同士での接続は故障の原因となりますので行わないようにしてください。
- HDMI出力を行わない場合は、接続したHDMIケーブルを抜いてください。カメラ本体の表示が正常に動作しない場合があります。
- 音声はステレオになります。

■ HDMI出力の出力方法を変える(HDMI出力)

HDMIケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号の形式が変更できます。

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ SETTING”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“HDMI出力”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で出力方法を選び、【SET】を押す

オート	接続したテレビに合った形式に自動的に切り替わります。 通常はこの設定でご使用ください。
1080i	1080i形式で出力します。※
480p	480p形式で出力します。
576p	576p形式で出力します。

※ 1080iは、1080 60iに対応していますが、1080 50iには対応していません。そのため、1080iの60iに対応していないPAL受信地域でのデジタルTVをご使用の際には、576p出力となる場合があります。PAL受信地域で、オートで表示されない場合は、576pに設定を変更してください。

- “オート”でテレビに表示されない場合には、テレビに合わせて他の設定に変更してください。

 **重要**

- テレビとカメラがHDMIケーブルで接続された状態では“HDMI出力”の設定は変更できません。いったんカメラからHDMIケーブルを抜いて“HDMI出力”の設定を変更してください。

再生時のその他の機能 (PLAY MENU)

メニュー画面を使って再生操作や設定を変更する

ここでは再生モードで操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

1. 再生モードにして【MENU】を押す

メニュー画面(▶ PLAY MENU)が表示されます。

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“▶ PLAY MENU”タブを選んで【▶】または【SET】を押す

3. 操作や設定をしたい項目を選び、内容を決定する

- メニューの操作方法については、61ページを参照ください。

“▶ PLAY MENU”タブ



フロントシャッターに機能を割り当てる(フロントシャッター)

メニュー項目名:フロントシャッター

再生モード時にフロントシャッターを押した場合の動作を設定できます。

設定項目	再生画面のアイコン表示	設定内容
標準		撮影モードに切り替わります。
スライドショー		スライドショーを開始します(222ページ)。
グループ外コピー		表示しているグループ内の画像1枚をグループ外にコピーします(209ページ)。
切		フロントシャッターに機能を割り当てません。

画像を早送りしたり撮影日付ごとに表示する(ファンクションリング)

メニュー項目名:ファンクションリング

ファンクションリングを回して、早送りしたり撮影日付ごとに表示できます。

設定値	設定内容
10枚	指定した枚数分、画像を早送り、早戻しして表示します。
25枚	
50枚	
100枚	
日付	撮影日ごとに画像を表示します。

おすすめの画像を1つの静止画や動画にする(ハイライト機能)

■ 1日のできごとを動画にする(ハイライトムービー)

メニュー項目名:ハイライト機能 → ハイライトムービー

おすすめの静止画や動画が自動で複数選択され、1つのムービー(動画)に編集できます。画像は、“ハイライトスコア”機能で付けた点数や撮影時の情報などをもとに自動的に選ばれます。

- ・ ハイライトスコアの点数は、“ハイライトスコア”機能(220ページ)で変更できます。
- ・ 撮影時の情報やハイライトスコアの点数によって、画像の再生時間や効果が決まります。

1. **【▲】【▼】**でハイライトムービーに変換したい画像の撮影日を選び、**【SET】**を押す

2. **【▲】【▼】**でムービーの長さを選び、**【SET】**を押す

3. **【▲】【▼】**でBGMを選び、**【SET】**を押す

- ・ **【▶】**を押すと、現在選んでいるBGMを再生できます。
-

4. **【▲】【▼】**で“作成”を選び、**【SET】**を押す

動画が作成・表示されます。

- ・ ハイライトムービーを作成中に**【MENU】**を押すと、ハイライトムービーの作成を中止します。作成を中止した場合は、動画は保存されません。

参考

- “ハイライトスコア”機能(220ページ)で“0”に設定した画像は使用されません。
- 作成される動画の画質はFHD、アスペクト比は16:9になります。加工前の画像のアスペクト比が16:9以外の場合は、画像の上下が自動でカットされます。
- 縦向きの画像の場合は、画像の左右に黒い帯が付きます。
- 同じ撮影日の静止画と動画の合計が10000ファイル以上ある場合、ハイライトムービーに使用される静止画と動画は、1～9999番目のファイルから選ばれます。
- 作成時の条件によって、ハイライトムービーの作成に時間がかかる場合があります。
- ハイライトムービーに使用される動画は、画質がFHDで、本機で撮影された動画のみです。ただし本機で撮影した場合でも、下記の動画はハイライトムービーには使用されません。
 - 2秒未満の動画
 - タイムラプスで撮影した動画

■ 1日のできごとを1枚の画像にする(ハイライトフォト)

メニュー項目名:ハイライト機能 → ハイライトフォト

おすすめの静止画が自動で複数選択され、1枚の静止画に合成できます。静止画は、“ハイライトスコア”機能で付けた点数や撮影時の情報などをもとに自動的に選ばれます。

- ・ハイライトスコアの点数は、“ハイライトスコア”機能(220ページ)で変更できます。

1. **【▲】【▼】**でハイライトフォトに変換したい画像の撮影日を選び、**【SET】**を押す

2. **【◀】【▶】**で使用したいレイアウトを選び、**【SET】**を押す
画像が作成・保存されます。

3. **【▲】【▼】**で“完了”を選び、**【SET】**を押す

- ・違う静止画でハイライトフォトを作成したい場合は、**【▲】【▼】**で“シャッフル”を選んで**【SET】**を押してください。このとき、先に作成したハイライトフォトは消去されます。

参考

- ・“ハイライトスコア”機能(220ページ)で“0”に設定した画像は使用されません。
- ・メモリーカードに、同じ撮影日の静止画が10000枚以上保存されている場合、ハイライトフォトに使用される静止画は、1~9999番目から選ばれます。
- ・電池残量が少ない場合は、ハイライトフォトを作成できない場合があります。



- ハイライトフォト作成時に、組み合わせる静止画は自由に選択できません。
- 以下の画像はハイライトフォトに加工できません。
パノラマ画像、動画
- 本機で再生できない画像があるときは、ハイライトフォトを作成できない場合があります。その場合は“画像が足りないため作成できませんでした。”というメッセージが表示されます。

■ 画像を評価する(ハイライトスコア)

メニュー項目名:ハイライト機能 → ハイライトスコア

以下の手順で画像のハイライトスコアの点数を変更できます。

ハイライトスコア	内容
 (+1)	初期値です。 この点数の画像は、ハイライトフォトやハイライトムービーに使用される可能性があります。
 (+2)	この点数の画像は優先的にハイライトフォトやハイライトムービーに使用されます。
 (0)	この点数の画像は、ハイライトフォトやハイライトムービーに使用されません。

1. 【▲】【▼】【◀】【▶】で評価する画像を選ぶ

- ・ズームレバーをスライドすると、1枚表示に切り替わります。

2. 【SET】を押してハイライトスコアを変更する

- ・【SET】を押すごとにハイライトスコアが“★”(＋1)、“★★”(＋2)、“★★★”(0)の順に切り替わります。
- ・1枚表示時は、【SET】または【▲】【▼】を押すごとにハイライトスコアが“★”(＋1)、“★★”(＋2)、“★★★”(0)に切り替わります。



3. ハイライトスコアの変更が終了したら、【MENU】を押す

参考

- ・ハイライトスコア機能は、本機で撮影した静止画と動画にのみ使用できます。
- ・以下の画像はハイライトスコアを変更できません。
 - － プロテクトがかかっている画像
 - － STD、HS120、HS240、HS480、HS1000、HS30-120、HS30-240で撮影した動画
 - － アートショットで撮影した動画
 - － タイムラプスで撮影した動画

自動的にページ送りして楽しむ(スライドショー)

メニュー項目名:スライドショー

開始	スライドショーを開始します。
表示画像	スライドショーで再生させるものを選びます。 全画像:静止画、動画、連写画像  除く全画像:連写画像以外の画像  のみ:静止画のみ  のみ:動画のみ  のみ:タイムラプスのみ
時間	スライドショー開始から終了までの時間を設定します。 3分、5分、10分、15分、30分、60分
間隔	切り替わりの間隔を設定します。 1秒、3秒、5秒、10秒、15秒、20秒、30秒、または“最速”を【▲】【▼】で選びます。 “最速”以外を選ぶと、動画と連写画像は最初から最後まで再生されます。 “最速”を選ぶと、動画と連写画像は最初の1コマだけ表示されます。

エフェクト

希望のエフェクト(特殊効果)を選びます。

パターン1~5:特殊効果をまじえながら画像を切り替えて表示します。

BGMも再生します。

- “パターン2~4”の特殊効果は同じですが、BGMがそれぞれ異なります。
- “パターン5”は静止画(連写画像、動画を除く)のみの再生となります。また“間隔”の設定も無効になります。
- グループ内の静止画は、グループごとではなく、1枚撮影モードで撮影された静止画と同じように表示されます。
- 下記の場合は、特殊効果が無効になります。
 - 表示画像を“のみ”または“のみ”にした場合
 - 間隔を“最速”、“1秒”にした場合
 - 動画の再生の前後

切:特殊効果とBGMの再生をしません。

- 【SET】を押すとスライドショーを中断します。また、【MENU】を押すとスライドショーを中断してメニューに戻ります。
- 音量を調節するには、再生中に【▼】を押したのち【▲】【▼】を押します。
- 画面の切り替わり中はボタン操作ができません。
- 本機以外で撮影した画像では、切り替わる間隔が長くなる場合があります。

■ 好みのBGMをパソコンからメモリーへコピーする

スライドショーの“エフェクト”を実行したときの内蔵BGMを、好みのBGMに切り替えることができます。

使用可能なファイル

- PCM形式(16ビット、モノラル/ステレオ)のWAVファイル
- サンプル周波数: 11.025kHz/22.05kHz/44.1kHz

使用可能なファイル数:9ファイル

ファイル名:SSBGM001.WAV~SSBGM009.WAV

- パソコンには、上記の名称で保存してください。
- どのエフェクトパターンを選んでも、切り替えたBGMをファイル名の順で繰り返し連続再生します。

1. カメラとパソコンを接続する(280、288ページ)

メモリーカードにBGMファイルを入れたいときは、あらかじめカメラにメモリーカードを入れておいてください。

2. 次のように操作して、メモリーカードまたは内蔵メモリーを開く

「リムーバブルディスク(ドライブ)」として認識します。

- Windows

① Windows 10: “スタート” → “エクスプローラー” の順でクリックし、サイドバーにある “PC” をクリックする

Windows 8.1: “デスクトップ” → “エクスプローラー” の順でクリック

Windows 7/Windows Vista: “スタート” → “コンピューター” の順でクリック

② “リムーバブルディスク” をダブルクリック

- Macintosh

① 表示されたドライブをダブルクリックする

3. “SSBGM”フォルダーを作成する

4. 作成した“SSBGM”フォルダーをダブルクリックし、好みのBGMファイルをコピーする

- ファイルのコピーのしかたは、パソコンに付属の取扱説明書を参照ください。
 - メモリーカードと内蔵メモリーの両方にBGMファイルを入れた場合は、メモリーカードが優先されます。
 - フォルダーについては293ページを参照ください。
-

5. カメラをパソコンから取り外す(283、288ページ)

静止画から動画を作成する(ムービー作成)

メニュー項目名: ムービー作成

本機で撮影した静止画を、動画に変換できます。連写やインターバルグループは一括して動画変換されます。最大で1000枚の静止画を1つの動画にできます。

1. **【▲】【▼】【◀】【▶】**で動画にしたい静止画に青枠を移動し、**【SET】**を押す
選択した静止画左下の□にチェックが入り、青枠が次の静止画に移動します。
 - □のチェックを外すときは、チェックを外したい静止画に青枠を移動し、**【SET】**を押してください。
 - グループを選択した場合は、グループ内のすべての画像が選択されます。
 - ズームレバーをスライドすると、1枚表示に切り替わります。
2. 手順1を繰り返して、動画にしたい静止画をすべて選択したら、**【MENU】**を押す
3. **【▲】【▼】**で再生速度を選び、**【SET】**を押す
選んだ静止画で動画が作成されます。

参考

- RAW画像を動画にすることはできません。
- 静止画のサイズによって動画の画質が変わります。
3M以上:FHD
2M、1M:HD
0.8M、VGA:STD

動画の一部をカットする(ムービーカット)

メニュー項目名:ムービーカット

以下の3通りの方法で動画の一部をカット(削除)できます。

前をカット	選択した場面から前をカットします。
中間をカット	選択した場面と場面の間をカットします。
後をカット	選択した場面から後をカットします。

- カットしたい動画を表示してから操作してください。

1. 【▲】【▼】でカット方法を選び、【SET】を押す

2. 以下の操作で、カットしたい位置(境界のコマ)を探す

【◀】【▶】	再生中は、再生方向と再生スピードの調整 一時停止中はコマ送り、コマ戻し • ファンクションリングでも操作できます。
【SET】	一時停止、再生切り替え



カットされる範囲
(青い部分)

3. カットしたい位置が決まったら、【▼】を押す

前をカット	カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
中間をカット	① カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す ② カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
後をカット	カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す

4. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

カットには、しばらく時間がかかります。“処理中です しばらくお待ちください”の表示が消えるまで待ってください。カットする動画が長いときは時間がかかることがあります。

重要

- カット編集すると、元の動画は残りません。また、一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。

参考

- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- カット編集後の動画が1秒未満の場合、ムービーカットできません。
- カットしようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けることはできません。
- 動画再生中に【SET】を押して一時停止し、【▼】を押してカットすることもできます。

2つの動画をつなぎ合わせて1つの動画にする(ムービー結合)

メニュー項目名:ムービー結合

再生時間が10分未満で、動画画質とフレームレートが同じ2つの動画をつなぎ合わせて、1つの動画に加工できます。ただし、ハイスピード動画は結合できません。

- 結合させたい動画を表示してから操作してください。

1. 【◀】【▶】で結合したい動画を選ぶ

【MENU】を押す前に表示していた動画に結合できる動画だけが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“作成”を選び、【SET】を押す

手順1で選んだ動画が、【MENU】を押す前に表示していた動画の後に結合されます。

- 結合する前の2つの動画は、元のまま残ります。

参考

- 動画画質がFHDまたはHDの場合、撮影モードやシーンによってフレームレートが異なるため(191ページ)、選んだ動画によっては結合できないことがあります。
- 本機以外のカメラで撮影した動画は、結合できません。
- 結合前の動画も残るので、空き容量が十分にあるメモリーカードを使用してください。
- 動画によっては、結合に時間がかかることがあります。

動画から静止画を作成する(モーションプリント)

メニュー項目名:モーションプリント

・素材にしたい動画を表示してから操作してください。

1. 【◀】【▶】で静止画にしたい場面を探す

【◀】【▶】を押し続けると、早戻し/早送りができます。

・ファンクションリングでも操作できます。

2. 【▲】【▼】で“作成”を選び、【SET】を押す

・このカメラで撮影した動画以外は、モーションプリントできません。

画像の明るさを最適化する(ライティング)

メニュー項目名:ライティング

撮影した画像の明るい所と暗い所の明るさのバランスを+2(明るい)から0(補正なし)で調整できます。

・静止画を表示してから操作してください。

参考

- ・撮影時にライティング補正をした方が、より良好な結果が得られます(193ページ)。
- ・補正した画像は、補正する前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- ・補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の色味を変える(ホワイトバランス)

メニュー項目名:ホワイトバランス

撮影した静止画像の色味を、さまざまな光源下で撮影したような色味に変えることができます。

- ・ 静止画を表示してから操作してください。

 太陽光	晴天時の野外で撮影したような色味
 曇天	薄雲～雨天の野外や木陰などで撮影したような色味
 日陰	ビルや木の陰など極端に色温度が高いところで撮影したような色味
 昼白色	白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
 昼光色	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
 電球	電球の雰囲気を通して撮影したような色味
キャンセル	色味の変更を中止

参考

- ・ 撮影時にホワイトバランスを補正することもできます(82ページ)。
- ・ 補正前の画像はそのまま残ります。
- ・ 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の明るさを変える(明るさ編集)

メニュー項目名:明るさ編集

+2(画像がもっとも明るい)から-2(画像がもっとも暗い)までの5段階から選べます。

- 静止画を表示してから操作してください。

参考

- 補正前の画像はそのまま残ります。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

印刷する画像を選ぶ(プリント設定)

メニュー項目名:プリント設定(DPOF)

詳しくは272ページをご覧ください。

- 静止画を表示してから操作してください。

ファイルを消去できないようにする(プロテクト)

メニュー項目名:プロテクト

選択ファイル	<p>ファイルごとにプロテクトをかけます。</p> <p>①【◀】【▶】でプロテクトをかけたいファイルを選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none">・ズームレバーをスライドすると、1枚表示に切り替わります。 <p>②【SET】を押す</p> <p>プロテクトがかかり、「」が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">・プロテクトを解除するにはプロテクトがかかっているファイルを選び、【SET】を押します。 <p>③続けて別のファイルにプロテクトをかける場合は手順①～②を繰り返す</p> <p>プロテクトの設定をやめるには、【MENU】を押します。</p>
全ファイル	<p>すべてのファイルにプロテクトをかけます。</p> <p>①【▲】【▼】で“全ファイル オン”を選び、【SET】を押す</p> <p>②【MENU】を押す</p> <p>すべてのファイルのプロテクトを解除するには、手順①で“全ファイル オフ”を選んで【SET】を押します。</p>



重要

- ・プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(306ページ)を行うと、消去されてしまいます。

グループ内の画像を消去できないようにする(プロテクト)

1. 連写またはインターバルグループを再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す
 - “グループ編集”のメニューが表示されます。
2. 【▲】【▼】で“プロテクト”を選び、【SET】を押す
3. 【▲】【▼】でプロテクト方法を選び、【SET】を押す

選択フレーム	<p>グループ内の画像ごとにプロテクトをかけます。</p> <p>①【▲】【▼】【◀】【▶】でプロテクトしたい画像に青枠を移動する</p> <ul style="list-style-type: none">• ズームレバーをスライドすると、1枚表示に切り替わります。 <p>②【SET】を押す</p> <p>プロテクトがかかり、“On”が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• プロテクトを解除するにはプロテクトがかかっているファイルを選び、【SET】を押します。 <p>③【MENU】を押して、操作を終了する</p>
グループ内全フレーム	<p>グループ内のすべての画像にプロテクトをかけます。</p> <p>①【▲】【▼】で“全フレームオン”を選び、【SET】を押す</p> <p>すべてのファイルのプロテクトを解除するには、手順①で“全フレームオフ”を選んで【SET】を押します。</p>

重要

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(306ページ)を行うと、消去されてしまいます。

撮影画像の日時を修正する(日時編集)

メニュー項目名:日時編集

- 静止画を表示してから操作してください。

【▲】【▼】	カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル(選択枠)を移動します。

日時を変更したあとは“決定”にカーソルを合わせ、**【SET】**を押して修正結果を確定させます。

- 12時間表示と24時間表示を切り替えるには、“am(pm)”/“24h”にカーソルを合わせ、**【▲】【▼】**を押します。

参考

- タイムスタンプ機能(299ページ)で写し込んだ日付と時刻は修正できません。
- プロテクトのかかったファイルは、日時を修正できません。
- 入力できる日付は、1980年～2049年です。

画像を回転させる(回転表示)

メニュー項目名:回転表示

- 静止画または動画を表示してから操作してください。

1. 【▲】【▼】で“回転”を選び、【SET】を押す

【SET】を押すごとに、90° 左回りに回転します。

2. 希望の表示状態になったら【MENU】を押す

参考

- 連写画像はグループ単位で一括して回転されます。連写グループ内の画像を個別に回転することはできません。
- パノラマ画像は回転できません。
- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。
- プロテクトをかけた画像、拡大表示された画像を回転させることはできません。
- 画像一覧表示では、回転前の画像が表示されます。

画像サイズを小さくする(リサイズ)

メニュー項目名:リサイズ

撮影した静止画のサイズを小さくして、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。リサイズ後の画像は8M/3M/VGAの3種類が選択できます。

- 静止画を表示してから操作してください。
- “3:2”、“16:9”の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズ後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。
- モーションプリントで作成した静止画はリサイズできません。

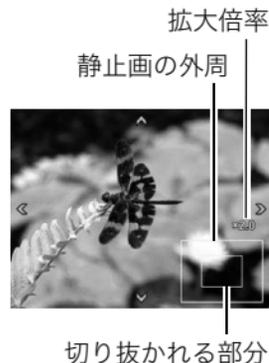
静止画の一部を切り抜く(トリミング)

メニュー項目名:トリミング

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。

ズームレバーで静止画を拡大/縮小、【▲】【▼】【◀】【▶】で表示位置を変えるなどして、切り抜く部分を決めて【SET】を押します。

- 静止画を表示してから操作してください。
- ファンクションリングで表示位置を変えることもできます。
- “3:2”、“16:9”の画像をトリミングすると、画像の横縦比が4:3になります。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。



ファイルをコピーする(コピー)

メニュー項目名:コピー

内蔵メモリーからメモリーカードへ、またはメモリーカードから内蔵メモリーへ、ファイルをコピーできます。

- 静止画または動画を表示してから操作してください。

内蔵→カード	内蔵メモリーからメモリーカードにコピーします。 この操作では、すべてのファイルがコピーされます。1ファイルずつ指定してコピーすることはできません。
カード→内蔵	カード内のファイルをひとつずつ内蔵メモリーにコピーできます。ファイルは、内蔵メモリーの一番大きい番号のフォルダーにコピーされます。 • 連写グループ画像はコピーできません(209ページ)。 ①【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選ぶ ②【▲】【▼】で“コピー”を選び【SET】を押す

参考

- コピーできるのは、このカメラで撮影した静止画、動画ファイルだけです。

連写画像を1枚の静止画にまとめる(連写マルチプリント)

メニュー項目名:連写マルチプリント

- ・ 素材にしたい連写グループ動画を表示してから操作してください。

1. 【▲】【▼】で“作成”を選ぶ

- ・ 【◀】【▶】で他の連写グループを選ぶことができます。

2. 【SET】を押す

縦5コマ、横6コマの最大30コマの画像(12M(4000×3000))に変換します。

- ・ このカメラで撮影した連写グループ以外は、連写マルチプリントできないか、正しく変換されないことがあります。
- ・ 変換後の静止画の日付は、元の画像を撮影した日付になります。
- ・ 縦方向に再生される連写グループと横方向に再生される連写グループとでは、変換後の画像の配置順と向きが異なります。

画像のグループ化を解除する(グループ解除)

メニュー項目名:グループ解除

詳しくは208ページをご覧ください。

グループ化された画像を編集する(グループ編集)

メニュー項目名:グループ編集

詳しくは下記をご覧ください。

プリント設定(DPOF):272ページ

プロテクト:234ページ

コピー:209ページ

消去:206ページ

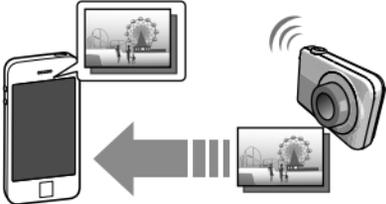
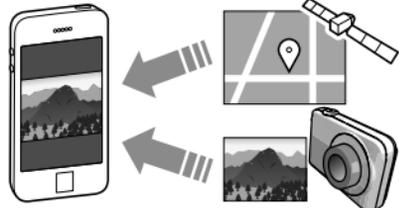
カメラとスマートフォンを接続する(無線接続)

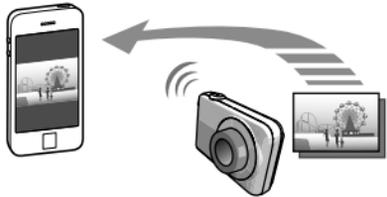
スマートフォンでできること

本機はBluetooth® 無線技術での接続機能と無線LAN接続機能の2つを搭載しています。本機とスマートフォンを無線で接続すると、次のことができます。操作には、スマートフォンに専用アプリEXILIM Connectをインストールする必要があります。

- 本機とBluetooth low energy 技術対応のスマートフォンをBluetooth無線技術で接続することができます。
- Bluetooth low energy 技術非対応のスマートフォンでも無線LAN機能のみで、スマートフォンへの画像送信やスマートフォンでのリモート撮影ができます。詳しくは、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください(245ページ)。



できること	内容
<p>自動送信</p> 	<p>Bluetooth無線技術でペアリング済みのスマートフォンに、撮影ごとに自動で画像を送信できます(264ページ)。</p>
<p>ワンタイムシェア</p> 	<p>カメラで選んだ静止画を、ペアリングしていない知人のスマートフォンで見ることができます(257ページ)。 ワンタイムシェアを使用するには、スマートフォンに“Scene”アプリのインストールが必要です。</p>
<p>位置情報を付け加える</p> 	<p>スマートフォンに送信した静止画に、撮影した場所の位置情報(緯度・経度)を付け加えることができます(267ページ)。</p>

できること	内容
<p data-bbox="151 114 409 142">スマートフォンで撮影</p> 	<p data-bbox="584 211 1133 273">スマートフォンを使用して、離れたところからカメラを操作して撮影できます(255ページ)。</p>
<p data-bbox="151 384 409 412">スマートフォンへ送る</p> 	<p data-bbox="584 443 1133 578">カメラで撮影した静止画や動画を選んで、スマートフォンに送信できます。また、画像送信後にスマートフォンからSNSに送ることもできます(260ページ)。</p>
<p data-bbox="151 653 435 681">スマートフォンから見る</p> 	<p data-bbox="584 695 1146 864">カメラに保存されている静止画をスマートフォンで見たり、静止画や動画をスマートフォンにコピーして見ることができます。また、パソコンでもカメラに保存されている静止画や動画を見たり、コピーすることができます(261ページ)。</p>

本製品には電波法に基づく工事設計認証(認証番号:007-AC0201)を受けた特定無線設備を内蔵しています。

重要

- 航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では、本機を機内モードに設定してください。
- スマートフォンの機種によっては、受け取った動画をスマートフォンで再生できないことがあります。
- スマートフォン、OSのバージョン、ストレージの空き状況によって、動画や静止画がスマートフォンに保存されないことがあります。スマートフォンで画像を受信したあとは、スマートフォンで保存されていることを確認してください。
- カメラ内に保存された静止画に、位置情報は付け加えられません。
- Android™端末で受け取った動画について
 - “ギャラリー”アプリには動画は表示されません。動画はEXILIM Connectフォルダーに保存されます。
 - 再生には、動画(拡張子がMOVの動画ファイル)が再生できる動画プレーヤーが別途必要です。
 - お使いの動画プレーヤーによっては、動画が再生できなかつたり、音声がでないことがあります。
- 他社のカメラで撮影した画像は、送信できません。
- 本機で無線機能付きメモリーカードを使用すると、不具合が生じる可能性があります。

参考

- 無線機能を使用すると、通常よりも消費電力が大きくなります。電池が十分に残っている状態で使用してください。
- 操作可能範囲は、通信環境や接続するスマートフォンの機種によって変わります。

■ EXILIM Connectについて

専用アプリEXILIM Connectの詳しい情報については、EXILIM Connectの取扱説明書(下記のWebサイトからダウンロードすることができます)を参照ください。

<http://www.exilim.com/manual/>

- EXILIM Connectの取扱説明書をダウンロードする場合は、最初に言語(Japanese/日本語)を選択してください。
- EXILIM Connectの取扱説明書を見るためにはAdobe Reader をインストールする必要があります。取扱説明書を見ることができない場合は、「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

無線モードについて

本機にはさまざまな無線モードがあります。必要に応じて選んでください。

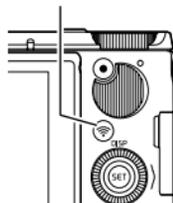
1. 【】(無線)を押す

無線モード画面が表示されます。

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で使いたい無線モードを選び、【SET】を押す

- 無線モードを閉じるときは【】(無線)を押してください。

【】(無線)



スマートフォンへ送る

カメラで撮影した画像をスマートフォンで見るときに選びます(261ページ)。

ペアリング

本機とスマートフォンをBluetooth無線技術で接続するときを選びます(250ページ)。

スマートフォンで撮影

スマートフォンでリモート撮影するときを選びます(255ページ)。

無線設定

無線接続の設定をするときを選びます(263ページ)。

■ 無線接続時に画面に表示されるアイコンについて

カメラとスマートフォンの無線接続設定を行うと、カメラの画面に通信状態を示すアイコンが表示されます。

	半透明	ペアリングは完了していますが、Bluetooth無線技術による接続はされていません。
	不透明	ペアリングが完了し、Bluetooth無線技術で接続中です。
	半透明	無線LANはオンになっていますが、接続されていません。
	不透明	無線LANで接続中です。
	不透明	無線LANで接続中で、画像データを送信中です。
	不透明	カメラが機内モードになっています。
	不透明	位置情報がオンになっています。

スマートフォンをカメラに接続するための準備

スマートフォンに専用アプリEXILIM Connectをインストールすると、スマートフォンをカメラのリモコンとして使ったり、撮影した画像をスマートフォンに転送できます。専用アプリEXILIM Connectは、Google Play™またはApp StoreでEXILIM Connectを検索して、スマートフォンにインストールしてください。

専用アプリEXILIM Connectが対応しているOS(AndroidまたはiOS)のバージョンは、Google PlayおよびApp Storeのダウンロードサイト、またはカシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト (<http://casio.jp/dc/>) で確認してください。

■ アプリの動作保証について

EXILIM Connect(アプリ)は、すべてのスマートフォンまたはタブレットで動作を保証するものではありません。

重要

- アプリの機能および動作環境は、予告なしで変更される場合があります。

スマートフォンにEXILIM Connectをインストールする

■ Android端末の場合

1. “Playストア”(Google Play)を開く

2. 検索フィールドに“EXILIM Connect”と入力する

3. “EXILIM Connect”をインストールする

■ iPhone(iOS)の場合

1. “App Store”を開く

2. 検索フィールドに“EXILIM Connect”と入力する

3. “EXILIM Connect”をインストールする

最初に無線接続設定をする

初めてスマートフォンをカメラに無線で接続するときは、無線接続設定が必要になります。この操作は初回のみ必要になります。

■ Bluetooth low energy 技術対応のスマートフォンの場合

本機とスマートフォンをBluetooth無線技術で接続すること(ペアリング)により、簡単に無線接続設定を行うことができます。

重要

- この操作を行うと、スマートフォンの無線LANの接続設定(253ページ)は自動的に行われます。
- ペアリングは、1台のスマートフォンとしかできません。
- スマートフォンの機種によっては、動作しない場合があります。
- すでにペアリングしている状態で再度ペアリングをすると、一度ペアリングを解除してから、ペアリングし直します。このとき未送信の画像は送信されなくなります。

カメラの操作

1. 【】(無線)を押す

無線モード画面が表示されます。

2. 【】【】【】【】で“ペアリング”を選び、【SET】を押す

3. “開始”を選び、【SET】を押す

スマートフォンの操作

4. “EXILIM Connect”を起動する

5. “カメラとペアリングする”をタップする

6. スマートフォンでペアリングしたいカメラの名前をタップする

カメラとスマートフォンのペアリングが完了し、Bluetooth無線技術で接続されます。

- Android端末の場合は、無線LANの接続設定も自動で行われます。手順10に進んでください。手順10の状態にならないときは、スマートフォンのWi-Fi設定でカメラのSSIDを選び、カメラとスマートフォンを無線LANで接続してください。
 - iPhone(iOS)の場合は、引き続き無線LANの接続設定(プロファイルのインストール)を行います。手順7に進んでください。
-

7. スマートフォンで“インストール”をタップする

スマートフォンの指示に従って無線LAN接続に必要なプロファイルをインストールしてください。

- スマートフォンのパスコードを入力する画面が表示されることがあります。その場合は、スマートフォンのパスコードを入力してください。

8. プロファイルのインストールが完了したら、スマートフォンで“完了”をタップする

9. スマートフォンの画面に表示された“アプリに戻る”をタップする

カメラとスマートフォンが無線LANで接続されます。

- iPhone(iOS)を使用している場合で、カメラとスマートフォンが無線LANで接続されないときは、スマートフォンのWi-Fi設定でカメラのSSIDを選び、カメラとスマートフォンを無線LANで接続してください。
-

10. スマートフォンで“OK”をタップする

11. スマートフォンの指示に従って、ペアリング操作を完了する

カメラの操作

12. 【SET】を押す

13. 【▲】【▼】で自動送信機能の設定を選び、【SET】を押す

全送信	撮影後、画像が自動でスマートフォンに送信されます。
確認しながら送信	撮影した画像を選んでスマートフォンに送信します。
切	画像が自動でスマートフォンに送信されません。

参考

- ペアリングした後は、カメラ本体の電源を切っても、Bluetooth無線技術が作動しているため、電池が消耗します。カメラを使用する前に、いったん電池を充電することをおすすめします。
- 電池を取り出すとBluetooth無線技術の接続は解除されますが、電池を入れてカメラの電源を入れ直すと、自動で再接続します。

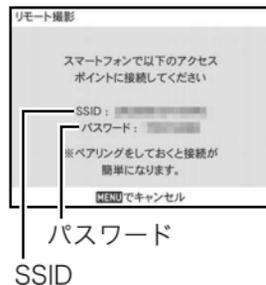
■ Bluetooth low energy 技術非対応のスマートフォンの場合

スマートフォンの無線LANの接続設定(カメラのSSIDとパスワードの入力)を行います。

1. 【】(無線)を押す

2. 【】【】【】【】で“スマートフォンで撮影”を選び、【SET】を押す

3. 【】【】で“リモート撮影開始”を選び、【SET】を押す
スマートフォンから接続できる状態になり、SSIDとパスワードが表示されます。



4. スマートフォンのWi-Fi設定でカメラのSSIDとパスワードを入力して、カメラとスマートフォンを無線LANで接続する

スマートフォンがカメラに無線LANで接続された状態になると、カメラの液晶モニターに“スマートフォンのアプリを起動してください”というメッセージが表示されます。

- 無線LANで接続するための設定方法は、スマートフォンによって異なります。無線LAN(Wi-Fi)の接続方法については、スマートフォンの取扱説明書でご確認ください。
- カメラのSSID(変更不可)は以下のとおりです。
SSID:ZR3200-XXXXXX(6桁の英数字)
- カメラのパスワード(初期値)は、カメラの無線モード画面から“無線設定”→“無線LANパスワード”を選んで、確認できます(269ページ)。

5. スマートフォンで“EXILIM Connect”を起動する

■ スマートフォンとカメラが無線LANで接続できないときは

すでに下記の無線LANと接続している可能性があります。スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラのSSIDを選んでください。

- 家庭内の無線LAN
- 公衆無線LAN
- 携帯型無線LAN機器

スマートフォンをカメラのリモコンとして使う (スマートフォンで撮影)

スマートフォンを使用して、離れたところからカメラを操作して撮影(リモート撮影)できます。スマートフォンからは、静止画や動画の撮影だけでなく、ズームやセルフタイマーなどの操作もできます。

参考

- スマートフォンを使用してカメラで撮影(リモート撮影)すると、静止画にスマートフォンにより取得した位置情報を付け加えることができます。詳しい使用方法については、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください(245ページ)。

■ Bluetooth無線技術で接続中の場合

1. 以下のどちらかの状態にする
 - カメラの電源を切る
 - 無線モード画面を表示する
2. スマートフォンで“EXILIM Connect”を起動する
3. スマートフォンで“リモートで撮影する”をタップする
4. スマートフォンで撮影範囲を確認しながら撮影する

“スマートフォンで撮影”の詳しい使用方法については、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください(245ページ)。

■ Bluetooth無線技術で接続できない場合

1. 【】(無線)を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“スマートフォンで撮影”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“リモート撮影開始”を選び、【SET】を押す

- ・ スマートフォンとカメラが無線LANで接続中の場合は、手順5へ進んでください。
-

4. スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラに表示されているSSIDを選び、カメラとスマートフォンを無線LANで接続する

5. スマートフォンで“EXILIM Connect”を起動する

6. スマートフォンで撮影範囲を確認しながら撮影する

“スマートフォンで撮影”の詳しい使用方法については、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください(245ページ)。

知人と静止画を共有する(ワンタイムシェア)

カメラで選んだ静止画を、ペアリングしていない知人のスマートフォンで見ることができます。共有する静止画は、カメラとペアリング済みのスマートフォンに送信後、Sceneサーバーにアップロードされます。そのため、カメラとペアリングしているスマートフォンに、Sceneアプリがインストールされている必要があります。

- この機能を使うには、スマートフォンがインターネットに接続している必要があります。また、iPhone(iOS)をカメラとペアリングして使用する場合は、EXILIM Connectの設定画面からSceneアプリと連携するようにあらかじめ設定しておく必要があります。詳しい設定方法については、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください(245ページ)。

1. 【】(無線)を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“スマートフォンへ送る”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“ワンタイムシェア”を選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】【◀】【▶】で共有したい静止画に赤枠を移動して、【SET】を押す

選んだ画像にチェックマークが付きます。

- ズームレバーを【】(Q)側にスライドさせると画像を拡大して表示できます。
- 画像の共有をやめるには、【】(再生)を押してください。

5. 共有したい静止画をすべて選んだら、【MENU】を押す

選んだ静止画がスマートフォンに送信されたあと、Sceneサーバーにアップロードされます。

- スマートフォンへの画像送信を開始すると、QRコードが表示されます。
- 送信に時間がかかる場合は、QRコードの画像がカメラに表示されたあとに画像送信中の画面が表示されます。このとき【MENU】を押すと、送信が中止されます。
- 静止画を送信できなかったときは、カメラにエラーメッセージが表示されます。
- QRコードの画面表示中にカメラの電源を切ろうとすると、メッセージが表示されます。送信が完了するまで電源を切らないでください。



6. 画像を表示したいスマートフォンで、表示したQRコードを読み取る

- スマートフォンでQRコードを読み取るには、QRコードリーダーが必要です。

7. スマートフォンで、QRコードから表示されたURLにアクセスする

選んだ静止画が表示されます。

参考

- 一度に共有できるファイルは合計で最大100枚、または合計容量が500MBまでです。
- 大量の画像を選択すると、スマートフォンへの送信やSceneサーバーへのアップロードが完了するのに時間がかかります。
- 画像の共有をやめる場合は、Sceneアプリを操作して、共有をやめる設定を行ってください。
- メモリーカードに十分な空き容量がないと、ワンタイムシェアを実行できません。

カメラで撮影した画像を選んでスマートフォンに送る (選択して送る)

カメラで撮影した静止画や動画を選んでスマートフォンに送信できます。一度に送信できる静止画と動画は合計で最大100ファイル、または合計容量が500MBまでです。また、画像送信後にSNSに送ることもできます。

1. **【Wi-Fi】**(無線)を押す

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】**で“スマートフォンへ送る”を選び、**【SET】**を押す

3. **【▲】【▼】**で“選択して送る”を選び、**【SET】**を押す

4. **【▲】【▼】【◀】【▶】**でスマートフォンに送りたい画像に赤枠を移動して、**【SET】**を押す
選んだ画像にチェックマークが付きます。

- ズームレバーを**【Q】**(Q)側にスライドさせると画像を拡大して表示できます。
 - スマートフォンに画像を送るのをやめるには、**【▶】**(再生)を押してください。
-

5. スマートフォンに送りたい画像をすべて選んだら、**【MENU】**を押す

以降、“選択して送る”の使用方法については、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください(245ページ)。

- 送信した画像には“”(送信済みアイコン)が表示されます(34ページ)。ただし、プロテクトされた画像を送信した場合は、送信済みアイコンは表示されません。また、他のカメラで撮影した画像を送信した場合は、送信済みアイコンが表示されないことがあります。

カメラで撮影した画像をスマートフォンで見る (スマートフォンから見る)

スマートフォンをカメラと無線LAN接続することで、最大8台のスマートフォンのブラウザからカメラに保存されている静止画を見たり、静止画や動画をコピーして見ることができます。また、パソコンをカメラと無線LAN接続することで、パソコンでカメラに保存されている静止画や動画を見たり、コピーすることができます。この機能は、専用アプリ EXILIM Connectがスマートフォンにインストールされていない状態でも使用できます。

1. **【】(無線)**を押す

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】**で“スマートフォンへ送る”を選び、**【SET】**を押す

3. **【▲】【▼】**で“スマートフォンから見る”を選び、**【SET】**を押す

スマートフォンがカメラに接続され、URLが表示されます。

- “スマートフォンで以下のアクセスポイントに接続してください”というメッセージが消えない場合は、スマートフォンのWi-Fi設定で本機を選んでください(250ページ)。
- 約60秒後にカメラの液晶モニターの表示が消えます。カメラの**【SET】**を押すと、表示が戻ります。

4. スマートフォンのブラウザーアプリを起動する

- カメラに表示されたURLにアクセスすると、カメラに保存されている画像が表示されます。
- 無線LAN機能を終了するには、カメラの【MENU】を押してください。

重要

- スマートフォンの機種によっては、動画が再生できないことがあります。

参考

- パソコンの無線LANを設定してカメラと接続すると、パソコンのブラウザーでカメラに保存されている画像を見ることもできます。
- EXILIM Connectを起動して画像を見る方法については、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください(245ページ)。
なお、Bluetooth無線技術で接続中の場合とBluetooth無線技術で接続できない場合とでは操作が異なります。ご注意ください。



URL

無線接続の設定をする

ここでは、無線モードでの操作や設定できる項目について説明します。

1. 【】(無線)を押す

無線モード画面が表示されます。

- もう一度【】(無線)を押すと、無線モード画面を表示する前の状態に戻ります。

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“無線設定”を選び、【SET】を押す

無線設定画面が表示されます。



3. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【SET】を押す

4. 選んだ項目の設定を変更する

5. 設定の変更が完了したら、【SET】を押す

- 【MENU】を押すと、選んだ内容がキャンセルされ、無線モード画面に戻ります。

本機を機内モードにする(機内モード)

項目名: 機内モード

“入”にすると、スマートフォンと無線で接続できなくなります。病院内や飛行機内など、電波を発信しないようにしたい場合は、本機を機内モードにしてください。

撮影ごとに画像をスマートフォンに送信する(自動送信)

項目名: 自動送信

撮影した後にファイル転送が可能なタイミング(状態)で、画像ファイルをスマートフォンへ無線送信できます。

設定項目	設定内容
全送信	撮影後、自動でスマートフォンへ画像ファイルを送信します。
確認しながら送信	画像ファイルをスマートフォンに送信するとき、送信するファイルを選択して送信できます。 • “確認しながら送信”で撮影した画像を液晶パネルで表示したときに  が表示されます。  が表示された状態で、【SET】を押すと表示された画像ファイルがスマートフォンに送信されます。
切	自動でスマートフォンへ画像ファイルを送信しません。

1. “無線設定”を表示する

2. 【▲】【▼】で“自動送信”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で自動送信のタイプを選択し、【SET】を押す

- 送信した画像には“”(送信済みアイコン)が表示されます(34ページ)。

重要

- 自動送信を“切”以外の設定に変更する場合は、カメラとスマートフォンをペアリング(250ページ)してください。

参考

- 自動送信できるのは、Bluetooth low energy 技術対応のスマートフォンだけです。また、カメラの画像が自動送信されるには、Bluetoothと無線LANの両方が接続されている必要があります。
- カメラとスマートフォンが接続中は、カメラの画面に以下のアイコンが表示されます。
 - 無線LANで接続中: 
 - Bluetooth無線技術で接続中: 
- 送信する静止画の画像サイズは、“送信時リサイズ”(267ページ)で設定できます。
- 下記の画像データは、スマートフォンに自動送信されません。
 - 連写画像
 - インターバル撮影画像
- スマートフォンで受け取った画像は以下で確認できます。
 - iPhone: “写真”アプリの“カメラロール”
 - Android端末: “ギャラリー”、“フォト”などの写真閲覧アプリ
- 機内モード(263ページ)を“入”にすると、自動送信は停止します。“切”にすると送信が再開します。
- 自動送信を“全送信”にして撮影した画像、または“確認しながら送信”で送信中の画像は、自動送信を“切”に設定してもスマートフォンに送信されます。
- 自動送信を“全送信”にすると、ファイルを消去するときと電源を切るときにメッセージが表示される場合があります。
- 未送信の画像が残った状態でカメラの電源を切ろうとすると、メッセージが表示されます。画像を送信する場合は、送信が完了するまで電源を切らずにそのままお待ちください。再度【ON/OFF】(電源)を押すと電源を切ることができます。

- 未送信の画像が残った状態でカメラとスマートフォンの接続が切れた場合、メッセージが表示されてから1分後に自動的にカメラの電源が切れます。この場合は、再度カメラの電源を入れたときに送信が再開します。

自動送信で送信する画像を選ぶ(自動送信ファイル設定)

項目名: 自動送信ファイル設定

自動送信が“全送信”のときに、送信されるファイルの種類を選択できます。自動送信ファイルには5種類の設定があります。

設定項目	設定内容
<input checked="" type="checkbox"/> 	静止画と動画が送られます。
<input type="checkbox"/> のみ	静止画のみが送られます。
<input checked="" type="checkbox"/> 自分撮り	液晶を回転し、顔を検出して撮影した静止画が送られます。※
<input checked="" type="checkbox"/> 人物	顔を検出して撮影した静止画が送られます。※
<input checked="" type="checkbox"/> 人物以外	顔を検出しないで撮影した静止画が送られます。※

※ この設定項目を使用するときは、必ず顔検出(183ページ)が“入”になっていることを確認してください。顔検出が“切”になっていると動作しません。また、撮影モードによっては顔検出が“切”に固定されている場合があります。

重要

- 自動送信機能で送信できる動画の1ファイルサイズは100MBまでです。

静止画をリサイズしてスマートフォンに送信する(送信時リサイズ)

項目名: 送信時リサイズ

“自動送信”または“スマートフォンで撮影”で直前に撮影した画像をスマートフォンに送信する、または“スマートフォンへ送る”や“自動送信”機能を使用して画像を送信するときにリサイズできます。

3M	3Mにリサイズされて送信されます。 • 3M以下の画像の場合は、撮影時のサイズで送信されます。
切	撮影時の画像サイズで送信されます。

静止画に位置情報を付け加える(位置情報)

項目名: 位置情報

カメラで撮影時にスマートフォンにより位置情報(緯度・経度)を取得し、スマートフォンに送信した静止画に撮影した場所の位置情報を付け加えることができます。なお、動画およびインターバル撮影で撮影した静止画には位置情報は付け加えられません。

設定項目	設定内容
入	スマートフォンに送信された静止画に位置情報を付け加えます。
切	位置情報を付け加えません。

重要

- カメラとスマートフォンをBluetooth無線技術で接続したときのみ使用できます。
- 位置情報を“入”に設定する場合は、カメラとスマートフォンをペアリング(250ページ)してください。
- 位置情報を“入”に設定すると、カメラで静止画を撮影するごとに、撮影した時点での位置情報をスマートフォンが取得します。
- カメラ内に保存された静止画に、位置情報は付け加えられません。位置情報はスマートフォンに送信されたのちに静止画に付け加えられます。
- この機能を使用するときは、必ずスマートフォンが位置情報を取得できる状態にしてください。スマートフォンが位置情報を取得できない状態になっていると、位置情報は付け加えられません。
- 位置情報付加の成功/失敗は、スマートフォンの画像受信画面で確認できます。
- スマートフォンが取得した位置情報は、スマートフォン内に10,000件まで保存できます。10,000件を超えた場合は、古い位置情報から削除されます。
- 位置情報サービスを使用すると、位置情報が静止画に含まれるため個人を特定されることがあります。ウェブサービスなどで画像を公開する場合はご注意ください。
- 本機を航法装置や測量等に使用できません。

無線LAN接続時のカメラのパスワードを変更する (無線LANパスワード)

項目名: 無線LANパスワード

カメラにスマートフォンを無線LANで接続するときに使用するパスワードを変更できます。

重要

- 無線LANパスワードの変更は、ペアリングを解除してから行ってください(270ページ)。

1. 【◀】【▶】で変更したい値にカーソルを合わせる

2. 【▲】【▼】で値を変更する

3. 設定が完了したら、カーソルを“決定”に合わせて【SET】を押す

参考

- 無線LANパスワードを変更すると、スマートフォンとの接続が解除されますので、再度無線接続設定を行ってください(250ページ)。なお、Bluetooth low energy 技術非対応のスマートフォンの場合は、下記のように操作して、スマートフォンのWi-Fi設定も変更してください。
 - iPhone:
Wi-Fiの設定のカメラのSSIDを表示している欄の右矢印をタップし、ネットワークの設定を削除してください。削除後、再びカメラのSSIDを選択して、新しいパスワードを入力してください。
 - Android端末:
Wi-Fiの設定のカメラのSSIDを表示している欄をタップし、いったん切断を選択してください。再びカメラのSSIDを選択して、新しいパスワードを入力してください。

ペアリングを解除する(ペアリング解除)

項目名: ペアリング解除

ペアリングを解除します。

本機を他のスマートフォンに接続する場合は、ペアリングを解除してください。

参考

- ペアリングを解除するときは、スマートフォンでもペアリングを解除する操作を行ってください。詳しくは、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください(245ページ)。
- ペアリングを解除すると、未送信の画像は送信されなくなります。

プリント(印刷)する

静止画のプリント方法

お店で プリントする※

画像が入ったメモリーカードを、プリントサービスのお店に持参してプリントします。



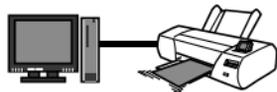
プリンターで プリントする※

プリンターのスロットにメモリーカードを直接セットしてプリントできます。詳しくは、プリンターに付属の説明書に従って操作してください。



パソコンを使って プリントする

画像をパソコンに取り込んだあと、市販のプリントソフトを使ってプリントします。



※ プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。→272ページ

プリントする画像や枚数を指定しておく(プリント設定(DPOF))

■ DPOF(Digital Print Order Format)とは

プリントしたい「画像の種類」「枚数」「日付印刷の有無」を設定し、メモリーカードなどの記録媒体に記録するための規格です。DPOF対応の家庭用プリンターやプリントサービス店でプリントできます。

- プリンターによっては、DPOFに対応していない場合があります。
- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合があります。



■ 画像ごとにプリント枚数を指定する

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ PLAY MENU”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“プリント設定(DPOF)”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“選択画像”を選び、【SET】を押す

5. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる

6. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にします。
- 他の画像をプリントする場合は、手順1～2を繰り返してください。

7. 【SET】を押す

■ すべての画像に同じプリント指定をする

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ PLAY MENU”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“プリント設定(DPOF)”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“全画像”を選び、【SET】を押す

5. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 連写およびインターバルグループ内のすべての画像も指定した枚数で印刷されます。
- 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にします。

6. 【SET】を押す

■ グループ内の画像にプリント指定する

連写およびインターバルグループ内の画像について、プリント枚数を指定できます。

1. 連写またはインターバルグループを再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す
 - “グループ編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“プリント設定(DPOF)”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】でプリント指定方法を選び、【SET】を押す

選択 フレーム	<p>グループ内の画を1枚ずつ選んで、プリントする枚数を指定します。</p> <p>①【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる</p> <p>②【▲】【▼】でプリントする枚数を決める 99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none">• 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にしてください。• 他の画像をプリントする場合は、手順①～②を繰り返してください。 <p>③【SET】を押す</p>
グループ内 全フレーム	<p>グループ内のすべての画像に同じプリント指定をします</p> <p>①【▲】【▼】でプリントする枚数を決める 99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none">• 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にしてください。 <p>②【SET】を押す</p>

プリントが完了してもDPOFの設定は解除されません

次回プリント時に前回設定した画像がある場合は、前回設定のままプリントされます。設定を解除する場合は、全画像プリントの枚数設定を“00”にしてください。

お店でプリントするときに気をつけていただきたいこと

お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容(画像、枚数、日付)が反映されず、すべての画像がプリントされたり、日付がプリントされないことがあります。

■ 日付プリントについて

以下の方法で、画像に撮影時の日付を入れてプリントできます。

カメラで 設定する	DPOF機能で設定する(272ページ) 印刷することに、日付印刷の有無を指定できます。 日付を入れて印刷する画像と日付を入れない画像に分けることができます。
	タイムスタンプ機能で設定する(299ページ) <ul style="list-style-type: none">撮影時点ですべての画像に日付が写し込まれますので、印刷時には必ず日付が印刷されます(写し込まれた日付は消去できません)。タイムスタンプ機能で日付を写し込んだ画像には、DPOF機能で日付印刷を設定しないでください。日付が二重に印刷されてしまいます。
パソコンで 設定する	市販の画像編集ソフトで日付を入れてプリントする
お店に 依頼する	プリントを注文するとき、お店に日付をプリントするよう依頼する

パソコンを利用する

パソコンを使ってできること

カメラをパソコンに接続して、次のことができます。

パソコンに画像
を保存して見る



- 手でパソコンに保存して見る(USB接続)
(279、287ページ)。

動画を再生・
編集する



- 動画を再生できます(285、290ページ)。
再生ソフトは、使用するパソコンの動作環境に合
わせてください。
- 動画を編集する場合は、必要に応じて、市販のソ
フトをご利用ください。

操作のしかたは、Windowsパソコンの場合とMacintoshの場合で異なります。

- Windowsパソコンの場合→「Windowsパソコンを利用する」(278ページ)
- Macintoshの場合→「Macintoshを利用する」(286ページ)

Windowsパソコンを利用する

使用目的	OSのバージョン	必要なソフト
パソコンに 手動で画像を 保存して表示	Windows 10/ Windows 8.1/ Windows 7/ Windows Vista	インストールする必要はありません。
動画の再生	Windows 10/ Windows 8.1/ Windows 7	Windows Media Player 12
	Windows Vista	拡張子がMOVの動画ファイルを再生できるソフトウェアが必要です。 必要に応じて、ダウンロードしてご利用ください。

- 上記の環境は、動作を保証するものではありません。
- お使いのパソコンの性能、設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

カメラをパソコンに接続して、画像(静止画や動画などのファイル)をパソコンに保存したり、パソコンで見ることができます。

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。

画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

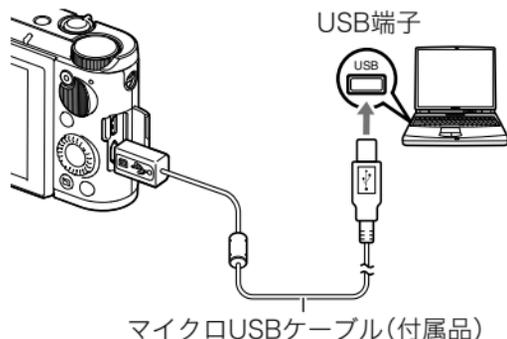
参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を切り、付属のマイクロUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、48ページをご覧ください。

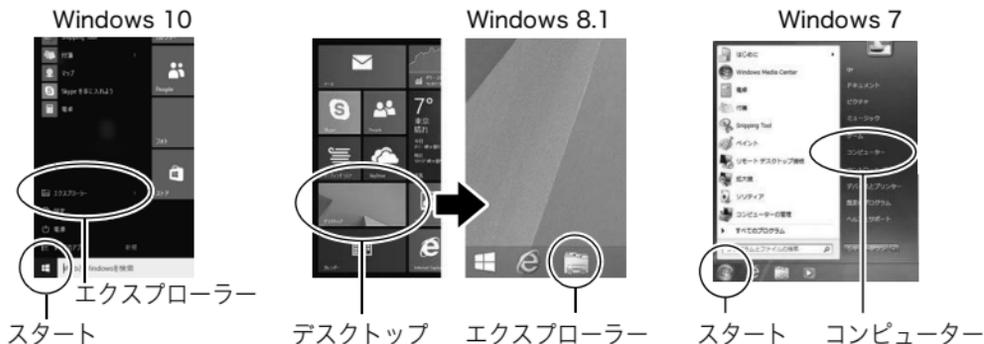


2. 【ON/OFF】(電源)を押して、カメラの電源を入れる

カメラの電源が入ると、カメラの後面ランプが赤点灯から緑点灯またはオレンジ点灯に切り替わりますので、確認してください(49ページ)。なお、このときレンズは出てきません。また、液晶モニターは点灯しません。

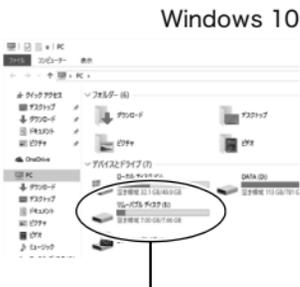
- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

- 3.** Windows 10:“スタート”→“エクスプローラー”の順でクリックし、サイドバーにある“PC”をクリックする
Windows 8.1:“デスクトップ”→“エクスプローラー”の順でクリックする
Windows 7/Windows Vista:“スタート”→“コンピューター”の順でクリックする

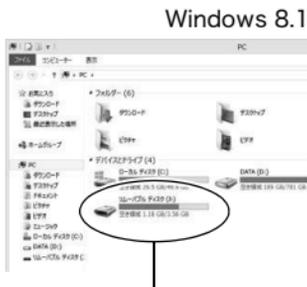


4. “リムーバブルディスク”をダブルクリックする

- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。



リムーバブルディスク

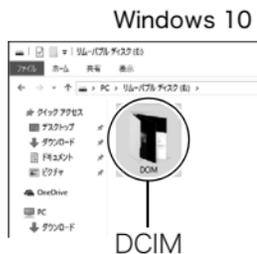


リムーバブルディスク



リムーバブルディスク

5. “DCIM”フォルダーを右ボタンでクリックする



DCIM



DCIM



DCIM

6. メニューの“コピー”をクリックする

7. Windows 10/Windows 8.1:“ドキュメント”をクリックする

Windows 7/Windows Vista:“スタート”→“ドキュメント”の順でクリックする

- すでに“DCIM”フォルダーが保存されている場合は、上書きされてしまいます。すでに保存されている“DCIM”フォルダーの名前を変えるなどしてからコピーしてください。
-

8. Windows 10/Windows 8.1:“ドキュメント”メニューで、“ホーム”→“貼り付け”の順でクリックする

Windows 7/Windows Vista:“ドキュメント”メニューで、“整理”または“編集”→“貼り付け”の順でクリックする

“DCIM”フォルダー(画像ファイルが保存されているフォルダー)が“ドキュメント”フォルダーにコピーされ、画像も一緒にパソコンに保存されます。

- コピーが完了したら、“DCIM”フォルダーを右ボタンでクリックし、フォルダーの名前を変更することをおすすめします。
-

9. コピーが終了したらカメラをパソコンから外す

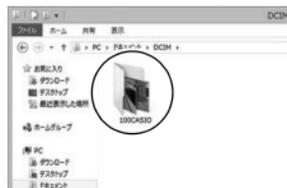
後面ランプが赤く点滅していないのを確認してから、USBケーブルを外してください。

■ パソコンに保存した画像を見る

1. コピーした“DCIM”フォルダーをダブルクリックして、フォルダーを開く

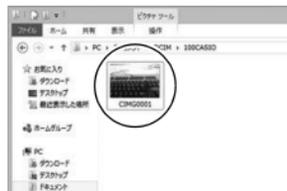


2. 見たい画像が入ったフォルダーをダブルクリックして開く



3. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダー構造」(293ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。
- 連写およびインターバルグループをパソコンで見た場合、個別の画像で表示されます。グループ単位では表示されません。



■ 動画再生時のご注意

- パソコンに動画データを保存してから、その画像ファイルをダブルクリックして再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。
- お使いのパソコンの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は以下をお試してください。
 - 動画の画質を“STD”に設定して撮影する。
 - 開いている他のソフトウェアを閉じたり、常駐ソフトを止める。

なお、パソコンで正しく動作しない場合でも、市販のHDMIケーブルを使ってHDMI端子を持ったテレビで再生できます。

Macintoshを利用する

使用目的	OSのバージョン	必要なソフト
パソコンに手動で画像を保存して表示	OS X	インストールする必要はありません。
動画の再生	OS X 10.5以降	QuickTime Player (パソコンにインストール済み)

- 上記の環境は、動作を保証するものではありません。
- お使いのパソコンの性能によっては、正しく動作しない場合があります。

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。

画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。
- Mac OS Xの10.0～10.4ではご使用できません。10.5以降のみで使用できます(OS標準のUSBドライバーを使用)。

参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を切り、付属のマイクロUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する(280ページ)
-

2. 【ON/OFF】(電源)を押して、カメラの電源を入れる

カメラの電源が入ると、カメラの後面ランプが赤点灯から緑点灯またはオレンジ点灯に切り替わりますので、確認してください(49ページ)。なお、このときレンズは出てきません。また、液晶モニターは点灯しません。

パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。

- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。
-

3. 表示されたドライブをダブルクリックする

4. “DCIM”フォルダーをデスクトップにドラッグアンドドロップして、画像をパソコンにコピーする
-



5. コピーが終了したらドライブを“取り出し”または“ゴミ箱”へドラッグアンドドロップする
-

6. カメラをパソコンから外す

後面ランプが赤く点滅していないのを確認してから、USBケーブルを外してください。

■ パソコンに保存した画像を見る

1. 表示されたドライブをダブルクリックする

2. “DCIM”フォルダーをダブルクリックして、フォルダーを開く

3. 見たい画像が入ったフォルダーをダブルクリックして開く

4. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダー構造」(293ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。
- 連写およびインターバルグループをパソコンで見た場合、個別の画像で表示されません。グループ単位では表示されません。

■ 動画再生時のご注意

- パソコンに動画データを保存してから、その画像ファイルをダブルクリックして再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。
- お使いのMacintoshの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は、以下をお試しください。
 - STD動画で撮影する
 - 実行中の他のソフトウェアを終了する

なお、Macintoshで正しく動作しない場合でも、市販のHDMIケーブルを使ってHDMI端子を持ったテレビで再生できます。

ファイルとフォルダーについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。各ファイルは、「フォルダー」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。ファイル、フォルダーには、区別のための名前が自動的に付きます。

- フォルダー構造の詳細は、「メモリー内のフォルダー構造」(293ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	“CIMG0001”から“CIMG9999”までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダーに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。	26番目に記録した ファイル名: CIMG0026.JPG └─┬─┘└─┬─┘ 連番(4桁) 拡張子
フォルダー	“100CASIO”から“999CASIO”までで、最大900のフォルダーが作成されます。	連番100のフォルダー名: 100CASIO └─┘ 連番(3桁)

- 静止画／動画再生時に、画面の右上に表示されるフォルダー名－ファイル名は下記ののような意味となります。
例) 100-0023: “100CASIO”というフォルダーの23番目のファイル
- フォルダー名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、34ページをご覧ください。

- 保存できるフォルダー数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。

メモリー内のデータについて

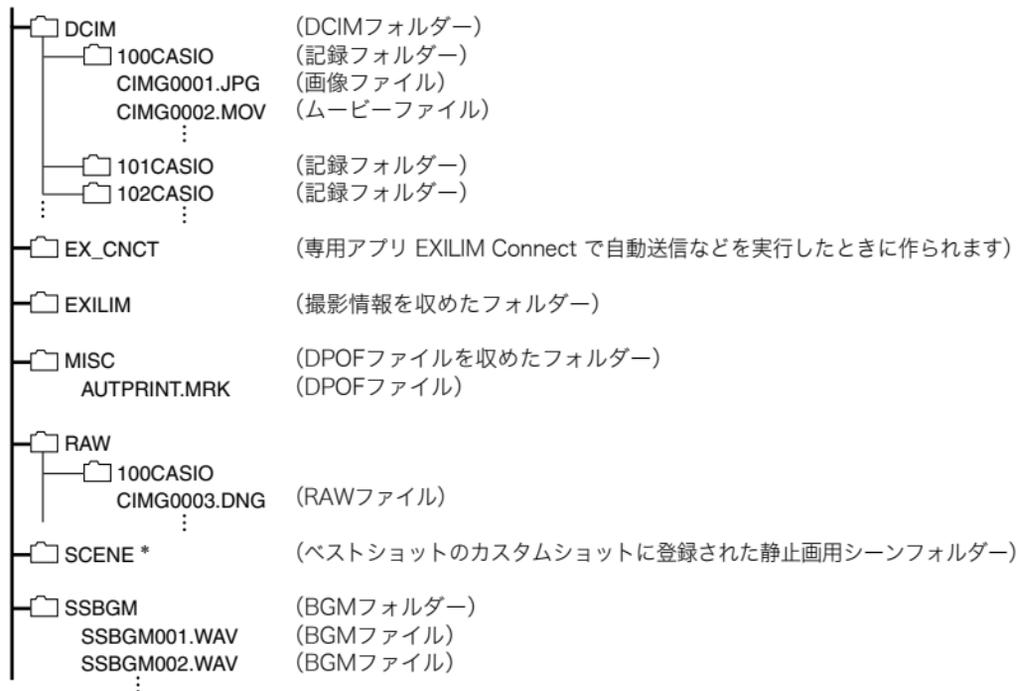
本機で撮影された画像は、DCF (Design rule for Camera File system) 規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。

■ DCF規格について

- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見ることができます。
 - 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のプリンターで印刷できます。
 - DCF規格対応の他社のカメラの画像を本機で見ることができます。
- ただし、上記項目の動作はすべて保証するものではありません。

■ メモリー内のフォルダー構造

メモリー



* 内蔵メモリー内にものみ作成されるフォルダー、ファイルです。

■ このカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

- メモリーの内容をパソコンに保存する際は“DCIM”フォルダーごと保存してください。その際“DCIM”フォルダーの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンに保存したファイルをカメラに戻す場合は、フォルダー名をパソコン上で“DCIM”に戻しておいてください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダーは認識されません。“DCIM”フォルダー内の他のフォルダー名を変えた場合も同様です。
- フォルダーやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダー構造が293ページのフォルダー構造のとおりである必要があります。

その他の設定について (SETTING)

メニュー画面を使って、その他の設定を変更する

ここでは撮影モードと再生モードのどちらでも設定ができるメニュー項目について説明します。

1. 【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ SETTING”タブを選んで【▶】または【SET】を押す

3. 設定したい項目を選び、設定内容を決定する

- メニューの操作方法については、171ページを参照ください。

“ SETTING”タブ



省電力状態にして、撮影可能枚数を増やす(エコモード)

メニュー項目名:エコモード

液晶モニターが少し暗くなるなど、一部の機能を低い電力で動作するように切り替えることにより、電池の消費を抑えることができます。

“入”を選ぶとエコモードに入り、プログラムオートを選択しているときは、画面上に“ECO”が表示されます。エコモードは撮影モードが“プログラムオート”のときに省電力の効果が高くなります。撮影モードは“プログラムオート”に設定することをおすすめします。

参考

- オートパワーオフ機能(301ページ)やスリープ機能(301ページ)と組み合わせることで、さらに電力の消費を抑えることができます。

液晶モニターの明るさを変える(液晶設定)

メニュー項目名:液晶設定

オート	周囲の環境を判断して、明るい環境下では自動的に液晶が明るくなります。
+2	“+1”に比べてさらに液晶が明るくなり、見やすくなります。反面、消費電力が大きくなります。
+1	屋外などの明るい場所で使用する場合の設定です。“0”に比べて液晶が明るくなり、見やすくなります。
0	屋内などの明るすぎない場所で使用する場合の設定です。
-1	夜間や屋内などの暗い場所で使用する場合の設定です。

- “+2”または“+1”に設定した状態で“エコモード”(296ページ)を“入”にすると、液晶設定は“0”に固定されます。

カメラの音を設定する(操作音)

メニュー項目名:操作音

起動音	音色を設定します。 サウンド1~5:内蔵されたサンプル音が鳴ります。 切:音は鳴りません。
ハーフシャッター	
シャッター	
操作音	
操作音量	操作音の音量を設定します。テレビ出力時(211ページ)の音量にも反映されます。
再生音量	動画の音量を設定します。テレビ出力時(211ページ)の音量には反映されません。

- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

画像保存用のフォルダーを作成する(フォルダー作成)

メニュー項目名:フォルダー作成

フォルダー作成	新しい番号のフォルダーを作ります(291ページ)。次回撮影時から、このフォルダーにファイルが保存されます。
キャンセル	フォルダーを作成しません。

- フォルダー内のファイルをすべて消去すると、作成したフォルダーも削除されます。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

メニュー項目名:タイムスタンプ

撮影時に静止画の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

例)2017年7月10日 午後1時25分

日付	2017/7/10
日付+時刻	2017/7/10 1:25pm
切	日付/時刻は写し込まれません。

- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消すことはできません。
- タイムスタンプ機能を使用しなくてもDPOF機能や印刷用ソフトで、日付や時刻を入れてプリントできます(276ページ)。

- 写し込む内容は、日時設定(304ページ)と表示スタイルの設定(305ページ)に従って写し込みます。
- ベストショット撮影の一部のシーンでは、タイムスタンプは無効となります。

撮影時のカメラの向きに合わせて画像を表示する(縦画像回転再生)

メニュー項目名:縦画像回転再生

画像を再生時に、撮影時のカメラの向きを判断して正しい向きで表示できます。

入	撮影時のカメラの向きに合わせて画像が回転します。
切	縦画像回転再生が作動しません。

画像の連番のカウント方法を切り替える(ファイルNo.)

メニュー項目名:ファイルNo.

撮影時に画像に付く連番(291ページ)のカウント方法を切り替えます。

メモリー する	今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合で、残っているファイルのファイル名がカメラの記憶した連番より大きい場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名が付きます。
メモリー しない	ファイルをすべて消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換すると、ファイルの連番を継続せずに、0001番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名を付けます。

電池の消費を抑える(スリープ)

メニュー項目名:スリープ

一定時間操作しないと液晶モニターの表示が消え、後面ランプが緑色に点灯します。何かボタンを押すと、表示が戻ります。

設定できる値:30秒/1分/2分/切(切を選ぶと、スリープ機能が作動しません)

- 以下の状態のときは、スリープ機能は働きません。
 - 再生モード
 - カメラをパソコンやテレビなどの機器に接続しているとき
 - 動画撮影・再生中
 - スマートフォンでのリモート撮影中
- スリープ機能とオートパワーオフ機能の設定が同じ時間の場合、オートパワーオフ機能が優先されます。

電池の消費を抑える(オートパワーオフ)

メニュー項目名:オートパワーオフ

電池消費を抑えるため、一定時間操作しないと電源が切れます。

設定できる値:2分/5分/10分(再生モードでは5分に固定されます)

- 以下の状態のときは、オートパワーオフ機能は働きません。
 - カメラをパソコンなどの機器に接続しているとき
 - スライドショー中
 - 連写またはインターバルグループ画像再生中

- インターバル撮影中
- タイムラプス撮影中
- 動画撮影・再生中
- スマートフォンでのリモート撮影中

液晶モニター開閉時の動作を設定する(液晶開閉)

メニュー項目名:液晶開閉

パワーオン	液晶モニターを開くと、電源が入ります。
切	液晶モニターを開閉しても、電源は入りません。

【▶】の動作を設定する(PLAY)

メニュー項目名:PLAY

パワーオン	【▶】(再生)を押すと、電源が入ります。
パワーオン/オフ	【▶】(再生)を押して、電源を入れたり切ったりできます。
切	【▶】(再生)を押しても、電源は入りません。

- “パワーオン/オフ”に設定しているときは、再生モードで【▶】(再生)を押した場合に電源が切れます。

画像の消去操作ができないようにする(消去キー)

メニュー項目名:消去キー

【▼】() を押しても、画面の消去操作に入らないようにすることができます。誤操作などにより、誤って画像を消去したくないときは、“無効”にしてください。

- ・フォーマット(306ページ)すると、“消去キー”を“無効”に設定していても、画像は消去されます。

海外旅行先での時刻を設定する(ワールドタイム)

メニュー項目名:ワールドタイム

自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示できます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

1. 【▲】【▼】で“訪問先”を選び、【▶】を押す

- ・通常の時刻表示の地域・都市を変更するときは“自宅”を選びます。

2. 【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押す

- ・“訪問先”の設定でサマータイムを設定するときは、【▲】【▼】で“サマータイム”を選び、“入”に設定します(サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです)。

3. 【▲】【▼】で地域を選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で都市を選び、【SET】を押す

5. 【MENU】を2回押す



- ワールドタイムを設定する前に、自宅の都市が自分の住んでいる地域になっているかどうかを確認してください。自分の住んでいる地域になっていない場合は、手順1で“自宅”を選んで自宅の都市を変更し、続けて日時を設定し直してください(304ページ)。

カメラの日時を設定し直す(日時設定)

メニュー項目名:日時設定

日時を変更したあとは、“決定”を選び【SET】を押して修正結果を確定させます。

【▲】【▼】	カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル(選択枠)を移動します。

- 12時間表示と24時間表示を切り替えるには、“am(pm)”/“24h”にカーソルを合わせ、【▲】【▼】を押します。
- 入力できる日付は、2001年～2049年です。
- 日時を設定する前にワールドタイムの自宅の設定(303ページ)を自分の住んでいる地域にししないと、ワールドタイムの日時が正しく表示されません。

日付の表示の並びを変える(表示スタイル)

メニュー項目名:表示スタイル

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

例)2017年7月10日

年/月/日	17/7/10
日/月/年	10/7/17
月/日/年	7/10/17

表示言語を切り替える(Language)

メニュー項目名:Language

画面のメッセージの言語を設定します。

■ 画面が外国語表示になってしまったとき

① 下のタブ“”を選ぶ



- ② 「Language」の項目を選ぶ
③ 「日本語」を選ぶ

HDMI端子の出力方法を変える(HDMI出力)

メニュー項目名:HDMI出力

詳しくは211ページをご覧ください。

メモリーをフォーマットする(フォーマット)

メニュー項目名:フォーマット

カメラにメモリーカードが入っている場合はメモリーカードを、メモリーカードが入っていない場合は内蔵メモリーをフォーマットできます。

- フォーマットすると、メモリーの内容がすべて消去され、元に戻すことはできません。本来にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 内蔵メモリーをフォーマットした場合、次の画像も同時に消去されます。
 - プロテクトされた画像
 - カスタムショットに登録した内容
- メモリーカードをフォーマットした場合、次の画像も同時に消去されます。
 - プロテクトされた画像
- フォーマットすると、“消去キー”(303ページ)を“無効”に設定していても、画像は消去されます。
- フォーマットするときは、電池残量が十分な電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中は、絶対に電池カバーを開けないでください。カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

各種設定を購入直後の設定に戻す(リセット)

メニュー項目名:リセット

購入直後の設定(初期値)については、340ページを参照ください。

下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません。

ワールドタイムの詳細設定、日時設定、表示スタイル、Language、無線LANパスワード

参考

- リセットしても、ペアリングは解除されません(250ページ)。
- リセットすると、機内モード(263ページ)は“切”になります。

カメラのファームウェアのバージョンを確認する(バージョン情報)

メニュー項目名:バージョン情報

カメラの機種名、カメラに搭載されているファームウェアのバージョン、およびMACアドレスを表示します。

- MACアドレスとは、ネットワーク機器を識別するために設定されている固有の番号のことです。
- カメラのファームウェアをバージョンアップしたあとは、この画面をご確認ください。

付録

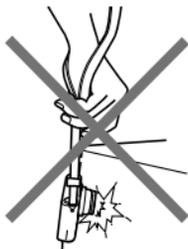
使用上のご注意

■ 取扱上のご注意

本機は精密機器です。特にレンズ部に無理な力が加わると故障や破損の原因となりますので、下記の点に特にご注意ください。



撮影するときに、レンズ部をぶついたり、落下させるなどの強い衝撃を与えないようにご注意ください。



カメラ本体をレンズで支えるような撮影方法など、レンズに強い力がかかるようなことはしないでください。



レンズ部をぶついたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。

外圧や衝撃、落下など取り扱い上の過失による、レンズや液晶モニター、内部基板などの破損が原因の故障修理は保証期間内でも有償となります。



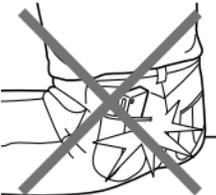
カバンなどの中に入れる場合はカメラに無理な力が加わらないようにご注意ください。



落下防止のため、ストラップを首や肩に付けるか、または腕に通して撮影してください。



ズボンやスカートのポケットに入れたまま座らないでください。



落下させるなど強い衝撃をカメラに与えないでください。
また、カメラが落下しやすいようなポケットに、カメラを入れないでください。胸ポケットに入れると、かがんだときなどにカメラが落下することがあります。



- 絵と製品本体が異なる場合があります。

■ データエラーのご注意

本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると画像データが壊れたり、カメラ本体が動作不能になったりする恐れがあります。

- カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いた
- 電源を切ったときに後面ランプが緑色に点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いた
- 通信中にUSBケーブルが外れた
- 充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けた
 - 充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けると、カメラが故障する場合があります。すみやかに新しい電池に交換してください。
- その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります(353ページ)。メッセージに対応した処置をしてください。

■ 使用環境について

- 使用可能温度範囲:0~40°C
- 使用可能湿度範囲:10~85%(結露しないこと)
- 次のような場所には置かないでください。
 - 直射日光の当たる場所、湿気やホコリ、砂の多い場所
 - 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
 - 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付き（結露）、故障の原因となります。結露を防ぐには、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に十分慣らしてから取り出して、電池カバーを開けたまま数時間放置してください。

■ レンズについて

- レンズ面に傷がついたり、レンズ部の故障の原因になるので、下記のことはしないでください。
 - レンズ面を強くこする
 - レンズが収納されている状態でレンズバリアの上から強く押す
 - 閉まっているレンズバリアを開ける
- レンズの特長（歪曲収差）により、撮影した画像の直線が歪む（曲がる）場合がありますが、故障ではありません。

■ カメラのお手入れについて

- レンズ面やフラッシュ面には触れないでください。レンズ面やフラッシュ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、プロア一等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

■ 充電式電池の取り扱いについて(リサイクルのお願い)



Li-ion 00

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

<最寄りのリサイクル協力店へ>

詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

- ホームページ <http://www.jbrc.com/>

■ 使用済み電池の取り扱い注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

■ 無線機能(無線LAN、Bluetooth無線技術)の使用上のご注意

- この製品は、無線を利用しているため、周りの機器に影響を与えたり、影響を及ぼされる可能性があります。
- 本機は米国再輸出規制(EAR)の対象となり、米国禁輸国への輸出や持ち出しはできません。

使用周波数について

本機は2.4GHz帯周波数を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。

他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に留意してご使用ください。

本機は小電力データ通信システムの無線装置を内蔵しております。
使用している周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

- 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の使用を停止してください。
- その他、電波干渉が発生した場合などお困りのことが起きたときは、「お客様相談窓口」に記載されている連絡先までお問い合わせください。

周波数の見方について

無線LAN

2.4DS/OF2

この無線機は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SSおよびOFDM方式を採用し、与干渉距離は20mです。

Bluetooth
無線技術

2.4XX1

この無線機は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてその他の方式を採用し、与干渉距離は10mです。

電波転送の傍受について

電波によるデータの送受信は第三者に傍受される可能性があります。あらかじめご了承ください。

不正アクセスについて

紛失や盗難などによって本機に搭載されている接続先への不正アクセスや利用などが行われ、被害や損害が発生しても、当社では一切の責任を負いかねます。

無線機器としての利用について

本製品の無線機能は、この取扱説明書に記載している範囲内でお使いください。それ以外の用途で使用して損害が生じた場合、当社では一切の責任を負いかねます。

磁場・静電気・電波障害について

電子レンジ付近など磁場、静電気、電波障害が発生するところでは本製品を使用しないでください。環境により電波が届かないことがあります。

また、2.4GHz帯の電波を使用しているものの近くで使用すると双方の処理速度が落ちる場合があります。

公衆LANへの接続に関して

本機は公衆無線LAN環境を経由して無線LAN接続することはできません。

仕向地について

本機の無線LAN機能は、日本での利用を前提としています。日本国外での使用は、その国の電波関連規格等に違反するおそれがあり、当社では一切の責任を負いかねます。

■ その他の注意

使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

■ 著作権について

カメラで記録した静止画や動画は、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。ただし、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず、権利者の許可なく、ネット上のホームページや共有サイトなどに掲載したり、第三者に配布したりすることも著作権法や国際条約で固く禁じられています。たとえば、録画したTV番組やライブコンサートの映像、音楽ビデオなど自分で撮影や録画したものであっても、動画共有サイトなどに掲載したり配付したりすると、他者の権利を侵害する恐れがあります。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。なお、本文中には、™マーク、®マークを明記していません。

- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Windows、Internet Explorer、Windows Media、Windows Vista、Windows 7、Windows 8.1およびWindows 10は、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime、およびiPhoneは、Apple Inc.の商標です。
- Adobe、Reader はAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における登録商標または商標です。
- iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。
- AndroidおよびGoogle PlayはGoogle Inc.の登録商標または商標です。
- App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
- iOSは米国シスコの商標もしくは登録商標です。
- Wi-FiはWi-Fi Allianceの登録商標です。

- The Bluetooth® word mark and logos are registered trademarks owned by Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by CASIO COMPUTER CO., LTD. is under license. Other trademarks and trade names are those of their respective owners.

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、カシオ計算機(株)はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

- 「宙玉」「そらたま」は実験写真家 上原ゼンジ氏の登録商標です。
- QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- EXILIMおよびEXILIM Connectは、カシオ計算機(株)の登録商標または商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

本製品に弊社が提供しているソフトウェアを、無断で営業目的で複製(コピー)したり、頒布したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。

■ オープンソースソフトウェア (Open Source Software) について

本製品には、以下のライセンス条件に基づいてライセンスされているソフトウェアが含まれています。

OpenVG 1.1 Reference Implementation

Copyright (c) 2007 The Khronos Group Inc.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and /or associated documentation files (the "Materials "), to deal in the Materials without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Materials, and to permit persons to whom the Materials are furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Materials.

THE MATERIALS ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE MATERIALS OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE MATERIALS.

bluedroid 5.0.0_r2

Copyright (c) 2014 The Android Open Source Project
Copyright (C) 1998-2014 Broadcom Corporation

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
you may not use this file except in compliance with the License.

You may obtain a copy of the License at

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software
distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,
WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
See the License for the specific language governing permissions and
limitations under the License.

Apache License
Version 2.0, January 2004
<http://www.apache.org/licenses/>

TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

1. Definitions.

"License" shall mean the terms and conditions for use, reproduction,
and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.

"Licensor" shall mean the copyright owner or entity authorized by
the copyright owner that is granting the License.

"Legal Entity" shall mean the union of the acting entity and all other entities that control, are controlled by, or are under common control with that entity. For the purposes of this definition, "control" means (i) the power, direct or indirect, to cause the direction or management of such entity, whether by contract or otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

"You" (or "Your") shall mean an individual or Legal Entity exercising permissions granted by this License.

"Source" form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

"Object" form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the copyright owner as "Not a Contribution."

"Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.

3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made, use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.

4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:
- (a) You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and
 - (b) You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and
 - (c) You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works; and
 - (d) If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its distribution, then any Derivative Works that You distribute must include a readable copy of the attribution notices contained within such NOTICE file, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works, in at least one of the following places: within a NOTICE text file distributed as part of the Derivative Works; within the Source form or documentation, if provided along with the Derivative Works; or, within a display generated by the Derivative Works, if and

wherever such third-party notices normally appear. The contents of the NOTICE file are for informational purposes only and do not modify the License. You may add Your own attribution notices within Derivative Works that You distribute, alongside or as an addendum to the NOTICE text from the Work, provided that such additional attribution notices cannot be construed as modifying the License.

You may add Your own copyright statement to Your modifications and may provide additional or different license terms and conditions for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or for any such Derivative Works as a whole, provided Your use, reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with the conditions stated in this License.

5. Submission of Contributions. Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions.

Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.

6. Trademarks. This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.

7. Disclaimer of Warranty. Unless required by applicable law or agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied, including, without limitation, any warranties or conditions of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the appropriateness of using or redistributing the Work and assume any risks associated with Your exercise of permissions under this License.
8. Limitation of Liability. In no event and under no legal theory, whether in tort (including negligence), contract, or otherwise, unless required by applicable law (such as deliberate and grossly negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be liable to You for damages, including any direct, indirect, special, incidental, or consequential damages of any character arising as a result of this License or out of the use or inability to use the Work (including but not limited to damages for loss of goodwill, work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all other commercial damages or losses), even if such Contributor has been advised of the possibility of such damages.

9. Accepting Warranty or Additional Liability. While redistributing the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer, and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity, or other liability obligations and/or rights consistent with this License. However, in accepting such obligations, You may act only on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf of any other Contributor, and only if You agree to indemnify, defend, and hold each Contributor harmless for any liability incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS

bluedroid 5.0.0_r2

Copyright (c) 1998-2008, Brian Gladman, Worcester, UK. All rights reserved.

LICENSE TERMS

The redistribution and use of this software (with or without changes) is allowed without the payment of fees or royalties provided that:

1. source code distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer;

2. binary distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in their documentation;
3. the name of the copyright holder is not used to endorse products built using this software without specific written permission.

DISCLAIMER

This software is provided 'as is' with no explicit or implied warranties in respect of its properties, including, but not limited to, correctness and/or fitness for purpose.

libhardware 5.0.0_r2

Copyright (c) 2005-2014, The Android Open Source Project

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.

See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

Apache License
Version 2.0, January 2004
<http://www.apache.org/licenses/>

TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

1. Definitions.

"License" shall mean the terms and conditions for use, reproduction, and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.

"Licensor" shall mean the copyright owner or entity authorized by the copyright owner that is granting the License.

"Legal Entity" shall mean the union of the acting entity and all other entities that control, are controlled by, or are under common control with that entity. For the purposes of this definition, "control" means (i) the power, direct or indirect, to cause the direction or management of such entity, whether by contract or otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

"You" (or "Your") shall mean an individual or Legal Entity exercising permissions granted by this License.

"Source" form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

"Object" form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally

submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the copyright owner as "Not a Contribution."

"Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.
3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made,

use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.

4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:
 - (a) You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and
 - (b) You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and
 - (c) You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work,

excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works; and

- (d) If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its distribution, then any Derivative Works that You distribute must include a readable copy of the attribution notices contained within such NOTICE file, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works, in at least one of the following places: within a NOTICE text file distributed as part of the Derivative Works; within the Source form or documentation, if provided along with the Derivative Works; or, within a display generated by the Derivative Works, if and wherever such third-party notices normally appear. The contents of the NOTICE file are for informational purposes only and do not modify the License. You may add Your own attribution notices within Derivative Works that You distribute, alongside or as an addendum to the NOTICE text from the Work, provided that such additional attribution notices cannot be construed as modifying the License.

You may add Your own copyright statement to Your modifications and may provide additional or different license terms and conditions for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or for any such Derivative Works as a whole, provided Your use, reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with the conditions stated in this License.

5. **Submission of Contributions.** Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions. Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.
6. **Trademarks.** This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.
7. **Disclaimer of Warranty.** Unless required by applicable law or agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied, including, without limitation, any warranties or conditions of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the appropriateness of using or redistributing the Work and assume any risks associated with Your exercise of permissions under this License.

8. **Limitation of Liability.** In no event and under no legal theory, whether in tort (including negligence), contract, or otherwise, unless required by applicable law (such as deliberate and grossly negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be liable to You for damages, including any direct, indirect, special, incidental, or consequential damages of any character arising as a result of this License or out of the use or inability to use the Work (including but not limited to damages for loss of goodwill, work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all other commercial damages or losses), even if such Contributor has been advised of the possibility of such damages.

9. **Accepting Warranty or Additional Liability.** While redistributing the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer, and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity, or other liability obligations and/or rights consistent with this License. However, in accepting such obligations, You may act only on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf of any other Contributor, and only if You agree to indemnify, defend, and hold each Contributor harmless for any liability incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS

電源について

充電について

■ 充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは

充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは、以下のいずれかの場合により充電できないことを示しています。説明に従って処置したあとに、再度充電してください。

周辺温度または電池の温度が、高温または低温状態である場合

USBケーブルを抜いて常温でしばらく放置したあと、周囲の温度が15°C～35°Cの温度範囲で充電を再開してください。

タイマーが働いた場合

電池の未使用期間が長期化した場合や、パソコンの種類や接続環境によっては充電時間が延びる場合があります。充電時間が最大5時間を越えると、タイマーが働き、フル充電でない場合でも充電を停止します。

また、電池の未使用期間が更に長期化した場合は約60分で充電を停止することもあります。

1) 長期間充電しなかった場合

USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開してください。

2) パソコンで充電する際、接続環境によって十分な電力を供給できない場合

USB2.0準拠のUSB端子からのみ充電できます。500mA程度の電流供給ができるUSBポートに直接差し込んでください。

パソコンの給電能力については、ご使用のパソコンのメーカーにお問い合わせください。USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開することもできますが、給電能力が低いパソコンの場合は、この動作を繰り返さないとフル充電にならない場合があります。

上記の処置をしてもエラーが起こる、または5時間を超えても充電が終了しない場合は、電池の不良が考えられます。「修理に関するお問い合わせ窓口」(373ページ)にお問い合わせください。

電池に関するご注意

■ 使用上のご注意

- 寒い場所では、電池の特性上、十分に充電されていても、使用時間が短くなります。
- 15°C～35°Cの温度範囲で充電してください。範囲外の温度では、充電時間が長くなったり、十分な充電ができないことがあります。
- 電池の外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の性能寿命と思われるので、新しいものをお買い求めください。なお、古い電池は使用せずに充電式電池リサイクル協力店へお持ちください(312ページ)。

■ 保管上のご注意

- 充電された状態で長期間保管すると電池の特性が劣化することがあります。しばらく使わない場合は、使い切った状態で保管してください。
- 使用しないときは必ず電池をカメラから取り外してください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、カメラが壊れたりします。
- 乾燥した涼しい場所(20°C以下)で保管してください。
- 過放電を防止するために、電池は半年に1回くらいの割合で一度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。

海外で使うときは

■ 使用上のご注意

- 付属のUSB-ACアダプター(AD-C54UJ)はAC100V～240V、50/60Hzの電源に対応していますが、使用する国・地域によってUSB-ACアダプターのプラグ形状等が異なるため、あらかじめ旅行代理店などにお問い合わせください。
- USB-ACアダプターの電源に、電圧変換器等はご使用にならないでください。故障の原因となります。

■ 予備の電池について

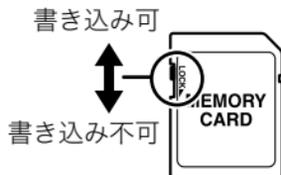
- 旅先で電池が切れて撮影ができなくなってしまうことを防ぐため、フルに充電した予備の電池(NP-130A)をお持ちになることをおすすめします。
- 電池はお買い求めの販売店またはe-casio カシオオンラインショッピングでご購入ください(URL: <http://www.e-casio.co.jp/>)。

メモリーカードについて

使用できるメモリーカード、メモリーカードの入れ方については56ページをご覧ください。

■ メモリーカードについて

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。
- 画像を再生したときに異常が発生した場合などは、フォーマット操作(306ページ)で復帰できますが、外出先などでこの操作ができない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちになることをおすすめします。
- メモリーカードは撮影/消去を繰り返すとデータ処理能力が落ちてくるので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
- 静電気、電氣的ノイズ等により、記録したデータが消失または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア(光ディスク(Blu-ray、DVDなど)、ハードディスクなど)に控え(バックアップ)をとることをおすすめします。



■ メモリーカードのご使用上の注意

- メモリーカードの種類によっては処理速度が遅くなる場合がありますので、できるだけ超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。ただし、超高速タイプのメモリーカードであっても、すべての動作を保証することはできません。動画の画質設定によっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、「REC」が黄色になります。
- 当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。詳しくは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」(<http://casio.jp/support/dc/>)をご覧ください。また、「お客様相談窓口」(373ページ)にお問い合わせください。

■ メモリーカードやカメラ本体を廃棄／譲渡するときのご注意

本機の「フォーマット」や「消去」機能では、メモリーカード内のファイル管理情報だけが変更され、データそのものが変更されないことがあります。メモリーカード内のデータは、お客様の責任において管理してください。たとえば以下のような手法をおすすめします。

- 廃棄の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。
- 譲渡の際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。

また、内蔵メモリーのデータは「フォーマット」機能(306ページ)で完全に消去してからカメラ本体を廃棄・譲渡することをおすすめします。

リセット操作でリセットされる内容

【MENU】を押したときに表示されるメニューで、リセット操作(307ページ)でリセットされる(初期値になる)内容の一覧表です。

ー:この記号の設定項目はリセット操作には影響がありません。

重要

- 撮影モードによっては、使用できないメニューがあります。

■ REC MENU

連写モード	切
モーションシャッター	モーション設定: 180度のみ タイマー設定:2秒 モーション位置: ⏪:右上 ⏩:左上
フロントシャッター	標準
キーカスタマイズ	ファンクション リング: ステップズーム ダイヤル:切 左右キー:切

セルフタイマー	切
露出補正	0.0
ホワイトバランス	オートWB
ISO感度	オート
ISO感度上限	オート
フォーカス方式	AF
AFエリア	 スポット
顔検出	切
メイクアップ	肌の色:0(切) 肌のなめらかさ: 0(切)
コンティニュアスAF	切

測光方式	マルチ
手ブレ関連機能	標準
静止画サイズ	12M
静止画画質	標準-N
動画画質	FHD
ライティング	入
シャープネス	0
彩度	0
コントラスト	0
フラッシュ光量	0
超解像ズーム	シングル
デジタルズーム	入
AF補助光	入
ダブル保存 (HDRアート)	入
風音低減	切
撮影レビュー	タイプ2
アイコンガイド	入
アシスト表示	グリッド:切 ヒストグラム:切 動画撮影範囲:切

モードメモリー

ファンクション
 リング:入
 連写モード:切
 フラッシュ:入
 フォーカス方式:切
 ISO感度:切
 ホワイトバランス:切
 露出補正:切
 AFエリア:入
 測光方式:切
 セルフタイマー:切
 フラッシュ光量:切
 超解像ズーム:入
 デジタルズーム:入
 MF位置:切
 ズーム位置:切

■ ▶ PLAY MENU

フロントシャッター	標準
ファンクション リング	10枚
ハイライト機能	—
スライドショー	表示画像:全画像 時間:30分 間隔:3秒 エフェクト:パターン1
ムービー作成	—
ムービーカット	—
ムービー結合	—
モーションプリント	—
ライティング	—
ホワイトバランス	—
明るさ編集	0
プリント設定 (DPOF)	—
プロテクト	—
日時編集	—
回転表示	—
リサイズ	8M

トリミング	—
コピー	—
連写マルチプリント	—
グループ解除	—
グループ編集	—

■ SETTING

エコモード	切
液晶設定	オート
操作音	起動音:サウンド1 ハーフシャッター: サウンド1 シャッター:サウンド1 操作音:サウンド1 操作音量:3 再生音量:3
フォルダー作成	—
タイムスタンプ	切
縦画像回転再生	入
ファイルNo.	メモリーする
スリープ	1分
オートパワーオフ	5分
液晶開閉	パワーオン
PLAY	パワーオン
消去キー	有効
ワールドタイム	—
日時設定	—
表示スタイル	—

Language	—
HDMI出力	オート
フォーマット	—
リセット	—
バージョン情報	—

■ 無線設定

機内モード	切
自動送信	切
自動送信 ファイル設定	 のみ
送信時リサイズ	3M
位置情報	切
無線LAN パスワード	—
ペアリング解除	—

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

現象	考えられる原因と対処
電源について	
電源が入らない。	1) 電池が正しい向きに入っていない(43ページ)。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(45ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の性能寿命です。別売の当社のリチウムイオン充電電池(NP-130A)をお買い求めください。
電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた可能性があります(301ページ)。電源を入れ直してください。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(45ページ)。 3) カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
電源が切れない。 ボタンを押しても、カメラが動作しない。	カメラから電池をいったん取り出し、入れ直してください。
充電について	
後面ランプが赤く点灯せず、充電できない。	1) カメラに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてください。 2) カメラから電池をいったん取り出し、入れ直してください(45ページ)。

現象	考えられる原因と対処
撮影について	
シャッターを押しても撮影できない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 再生モードになっている場合は、シャッターを押して撮影モードにしてください。 2) フラッシュの充電中は、フラッシュの充電が終わるまで待ってください。 3) “メモリー残量が足りません”と表示されている場合は、パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。
オートフォーカスなのにピントが合わない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) レンズが汚れている場合は、レンズの汚れを取ってください。 2) 被写体がフォーカスフレームの中央にありません。 3) ピントの合いにくい被写体の可能性があります(75ページ)。マニュアルフォーカスに切り替えて手動でピントを合わせてください(86ページ)。 4) 手ブレしている可能性がありますので、手ブレ補正の撮影状態に設定してください(186ページ)。または、三脚を使用してください。
撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない可能性があります。ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを合わせて撮影してください。
フラッシュが発光しない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) フラッシュの発光方法が“” (発光禁止) になっている場合は、発光方法を他の方法に切り替えてください(92ページ)。 2) 電池が消耗している場合は、電池を充電してください(45ページ)。 3) ベストショットでフラッシュが“” (発光禁止) のシーンを選んでいる場合は、必要に応じてフラッシュの発光方法を切り替えるか(92ページ)、撮影したいシーンを選び直して(147ページ)ください。

現象	考えられる原因と対処
液晶モニター上に"  "(発光禁止)が赤く点灯し、フラッシュが発光しない。	フラッシュが故障している恐れがありますので、「修理に関するお問い合わせ窓口」(373ページ)またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。なお、この状態でフラッシュは発光できませんが、撮影することはできます。
セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している可能性があります。
液晶モニターに表示される画像のピントがあまい。	<ol style="list-style-type: none"> 1) マニュアルフォーカスでピント合わせがずれています。ピントを正しく合わせてください(86ページ)。 2) 被写体が風景や人物なのに""(マクロ)になっています。風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスにしてください(85ページ)。 3) 接写しているのに、オートフォーカスになっています。接写撮影をする場合は""(マクロ)にしてください(85ページ)。
画像にノイズが入る。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 被写体が暗いとカメラの感度が自動的に上がるため、ノイズが発生する場合があります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 2) 暗い場所でフラッシュを""(発光禁止)にして撮影すると、ノイズが発生し、多少ざらついた感じになることがあります。その場合は、フラッシュの発光方法を切り替えるか(92ページ)、ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 3) 静止画撮影でライティング機能(193ページ)を使うと、ノイズが増えることがあります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 4) 高い気温など高温の環境で動画を長時間撮影した場合、撮影画像にノイズ(輝点)が入ることがあります。その場合はずしい環境で撮影していただくか、カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからご使用ください。

現象	考えられる原因と対処
撮影したのに画像が保存されていない。	1) 記録が終了する前に電池切れになった場合、画像は保存されません。電池残量表示が“  ”になったら、速やかに電池を充電してください(51ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた場合、画像は保存されません。記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。
風景が明るいのに人物の顔が暗くなってしまった。	人物が光量不足です。フラッシュを“  ” (強制発光) にしてください(日中シンクロ撮影)(92ページ)。または、露出補正を+側に調整してください(90ページ)。
夜景がきれいに撮影できない。	ベストショット(147ページ)のシーンを下記のように設定して撮影してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 夜景だけ撮影したいとき→“HS夜景” • 夜景と人物を撮影したとき→“HS夜景と人物”
海岸やスキー場で撮影すると被写体が暗くなる。	海岸や雪面からの強い光の反射に露出が合っているため、露出不足になっています。フラッシュを“  ” (強制発光) にしてください(日中シンクロ撮影)(92ページ)。または、露出補正を+側に調整してください(90ページ)。
デジタルズームの倍率が最大値まで上がらない。	1) デジタルズームの設定が“切”になっている可能性があります。設定を“入”にしてください(195ページ)。 2) “超解像ズーム”が“シングル”になっている場合は最大値まで上がりません。“切”にしてください(102ページ)。 3) 静止画の画像サイズが“3M”以外になっている場合は最大値まで上がりません。他の設定に変更してください(188ページ)。

現象	考えられる原因と対処
動画撮影中に画像がぼける。	1) 撮影範囲外のためピントが合っていません。撮影範囲内で撮影してください。 2) レンズが汚れている可能性があります。清掃してください(311ページ)。 3) ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめの前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
動画撮影が勝手に終了した。	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの温度を下げてからご使用ください。
撮影中に液晶モニターの表示が消え、カメラの操作ができない。	撮影モードがS、Mモードの場合、“シャッタースピード”の設定を遅くしていると、シャッターを押してから撮影が完了するまで液晶モニターの表示が消え、カメラの操作ができなくなります。後面ランプの点灯が終わり、液晶モニターに映像が表示されるまでお待ちください。
メニュー内の機能の設定が変更できない。設定項目が表示されない。	撮影モードによっては、使用できないメニューがあります。プレミアムオート PROでは、設定できる機能のみがメニュー画面に表示されます。

現象	考えられる原因と対処
再生について	
再生した画像の色が撮影時に液晶モニターで見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている可能性があります。直接光がレンズに当たらないようにしてください。
画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用した場合は、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
画像編集(ホワイトバランス、明るさ編集、リサイズ、トリミング、回転)ができない。	<p>次の画像は編集できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • モーションプリント機能で作成した画像 • 連写およびインターバルグループ内の画像 • 動画 • パノラマ画像 • 他のカメラで撮影した画像
消去について	
ファイルを消去できない。	<p>1) ファイルにプロテクトがかかっている可能性があります。プロテクトを解除してください(233ページ)。</p> <p>2) “消去キー”の設定が“無効”になっている可能性があります。設定を“有効”にしてください(303ページ)。</p>

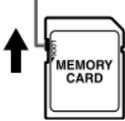
現象	考えられる原因と対処
無線機能について	
無線LANに接続できない。 接続が途切れる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) カメラとスマートフォンが離れていると、カメラに接続できません。 2) スマートフォンが他の無線機器と接続している可能性があります。スマートフォンのWi-Fi設定で、本機が選ばれているか確認してください(250ページ)。 3) 電子レンジやコードレス電話機、他の無線機器を近くで使用している場合は、接続が途切れることがあります。機器から十分に離してお使いください。
位置情報について	
位置情報が付け加えられない	<ol style="list-style-type: none"> 1) カメラとスマートフォンがペアリングされ、Bluetooth無線技術で接続中かどうかを確認してください。 2) 静止画を撮影するとき、カメラの位置情報を“入”に設定してください(267ページ)。 3) スマートフォンが位置情報を取得できる状態にしてください。
その他	
画面に表示される日時が正しくない。または、記録したデータの日付が正しくない。	日時の設定が間違っているので、日時を設定し直してください(304ページ)。
画面に表示される言葉が外国語になっている。	表示言語の設定が間違っているので、表示言語を設定し直してください(305ページ)。

現象	考えられる原因と対処
パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	<p>1) USBケーブルが確実に接続されていない可能性があります。コネクタ端子部を確認して、確実に接続してください。</p> <p>2) カメラの電源が入っていない場合は、電源を入れてください。</p> <p>3) USBケーブルをUSBハブ等を経由してパソコンと接続をしていると、正常に認識しない場合があります。パソコンのUSB端子に直接接続してください。</p> <p>4) 電池消耗マークが「」のときは、USB通信できない場合があります。電池を充電してから接続してください。</p>
カメラの電源を入れると、時計設定画面が表示される。	<p>1) ご購入直後の初期設定をしていないか、電池が消耗した状態でカメラを放置しています。各設定を確実に行ってください(52、304ページ)。</p> <p>2) カメラ内部のメモリー管理エリアが壊れている恐れがあります。この場合は、リセット操作によりカメラの設定内容を初期値に戻してください(307ページ)。その後、各設定を確実に行ってください。再度カメラの電源を入れたときに時計設定画面が表示されなければ、カメラ内部のメモリー管理エリアが修復されました。再度電源を入れても時計設定画面が表示される場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口」(373ページ)またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。</p>
画面に色々なマークや数字などが表示される	<p>画面には撮影に必要な表示や撮影した画像の情報などが表示されます。【▲】(DISP)を押すごとに、画面に表示される情報表示の有無が選べます(31ページ)。</p>
購入後、時計を設定したあと、すぐに電池を抜いたら、設定した時刻がリセットされた。	<p>電池を入れ、時計を設定し直してください(52ページ)。その後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 24時間以上、電池を入れているのに、電池の抜き差しで時刻がリセットされる場合は、カメラの設定保持機能が壊れている恐れがあります。この場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口」(373ページ)またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

現象	考えられる原因と対処
電源を入れた直後、ボタン操作ができない。	メモリーカードの容量が大きい場合、電源を入れてからボタン操作ができるまでの時間が長くなります。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のときに表示されます。ズーム操作などで構図を変えて撮影しなおしてください。
温度が上昇したため電源をオフします	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
カードが異常です	<p>メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、フォーマットしてください(306ページ)。</p> <p> 重要</p> <ul style="list-style-type: none">• フォーマットするとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットする前にパソコン等を利用して、メモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(306ページ)。

<p>カードがロックされています</p>	<p>SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイル进行操作できません。</p> <p>LOCKスイッチ</p> 
<p>画像が足りないため作成できませんでした</p>	<p>ハイライトフォト、ハイライトムービーの作成に必要なファイル数が足りず、作成が完了できなかったときに表示されます。</p>
<p>この機能は使用できません</p>	<p>機能の組み合わせなどにより使用できない機能を使用した場合、操作の途中で表示されます。</p>
<p>このファイルは再生できません</p>	<p>ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。</p>
<p>設定したファイルが見つかりません</p>	<p>スライドショーの“表示画像”で設定した画像が見つからないときに表示されます。スライドショーの設定をし直してください(222ページ)。</p>
<p>送信に失敗しました</p>	<p>画像の送信が最後まで完了できなかったときに表示されます。</p>
<p>通信が切断されました</p>	<p>カメラとスマートフォンが通信中に、無線LAN接続が切断されると表示されます。</p>
<p>電池容量がなくなりました</p>	<p>電池がなくなったときに表示されます。</p>

<p>電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした</p>	<p>電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。</p>
<p>登録可能な画像がありません</p>	<p>ベストショットのカスタムショットに登録できる画像がないときに表示されます。</p>
<p>ファイルがありません</p>	<p>まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。</p>
<p>フォルダーが作成できません</p>	<p>999番のフォルダーの中に9999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を続けるには、不要なファイルを消去する必要があります(71ページ)。</p>
<p>メモリー残量が足りません</p>	<p>撮影可能枚数を使い切った場合、または編集後のファイルを保存できるメモリーの空きがない場合に表示されます。パスト連写撮影時は、過去の画像をすべて記録できる容量がメモリーカードにない場合表示されます。不要なファイルを消去してください(71ページ)。</p>
<p>もう一度、電源を入れ直してください</p>	<p>レンズに障害物が当たると、このメッセージが表示され、電源が切れます。障害物がないことを確認して、再度電源を入れてください。</p>
<p>レンズエラー</p>	<p>レンズが予期せぬ動作をしたとき、このメッセージが表示され、電源が切れます。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口」(373ページ)またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。</p>

レンズエラー2

手ブレ補正ユニットが故障している可能性があります。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口」(373ページ)またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

撮影可能枚数／撮影可能時間

静止画

画像サイズ (pixels)	撮影画質	ファイル サイズ	内蔵メモリー※1 での撮影枚数	SDメモリーカード※2 での撮影枚数
12M (4000×3000)	高精細-F	7.87MB	2	1453
	標準-N	4.13MB	4	2221
3:2 (4000×2656)	高精細-F	6.87MB	3	1672
	標準-N	3.62MB	4	2549
16:9 (4000×2240)	高精細-F	5.66MB	3	2019
	標準-N	3.0MB	5	3048
8M (3264×2448)	高精細-F	5.66MB	3	2019
	標準-N	3.0MB	5	3048
3M (2048×1536)	高精細-F	2.0MB	8	4669
	標準-N	1.25MB	11	6533

動画

設定内容 (pixels)/ (音声)	転送レート (フレームレート)	1ファイル 最大 サイズ	内蔵メモリー での 記録時間※1	SDメモリー カードでの 最大記録 可能時間※2	1分録画時 のファイル サイズ	一回当たりの 連続撮影可能 時間※3
FHD (1920×1080) (ステレオ)	14.2メガビット/秒 (30フレーム/秒)	4GBまで	13秒※4	2時間13分	106.5MB	35分59秒
HD (1280×720) (ステレオ)	10.9メガビット/秒 (12、15、20、 30フレーム/秒)		18秒※5	2時間53分 ※5	81.8MB※5	46分54秒※5
STD (640×480) (ステレオ)	3.9メガビット/秒 (30フレーム/秒)		53秒	8時間12分	29.3MB	2時間12分 54秒
HS1000 (224×64) (無し)	40.0メガビット/秒 (1000フレーム/秒)		5秒※4	48分	300.0MB	13分10秒
HS480 (224×160) (無し)	40.0メガビット/秒 (480フレーム/秒)		5秒※4	48分	300.0MB	13分2秒
HS240 (512×384) (無し)	40.0メガビット/秒 (240フレーム/秒)		5秒※4	48分	300.0MB	12分58秒
HS120 (640×480) (無し)	40.0メガビット/秒 (120フレーム/秒)		5秒※4	47分	300.0MB	12分55秒

設定内容 (pixels)/ (音声)	転送レート (フレームレート)	1ファイル 最大 サイズ	内蔵メモリー での 記録時間※1	SDメモリー カードでの 最大記録 可能時間※2	1分録画時 のファイル サイズ	一回当たりの 連続撮影可能 時間※3
HS30-240 (512×384) (30fps時のみ 有り)	5.4メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (240フレーム/秒)	4GBまで	38秒※6	5時間59分 ※6	40.5MB※6	1時間36分 54秒※6
HS30-120 (640×480) (30fps時のみ 有り)	10.4メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (120フレーム/秒)		20秒※6	3時間5分※6	78.0MB※6	49分57秒※6

※1 内蔵メモリーをフォーマット後の容量(27.6MB)の場合です。

※2 16GB SDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製)の場合です。使用するメモリーカードによって撮影枚数・記録時間は異なる場合があります。

※3 1ファイル最大サイズよりも容量の小さいSDメモリーカードを使用する場合は、記載の時間より短くなります。

※4 内蔵メモリーでは、FHD動画およびHS動画の転送レートを十分に満足できません。超高速タイプのメモリーカードをご使用ください(57、130ページ)。

※5 アートショット撮影時の数値です。

※6 30fpsで撮影した場合の撮影可能時間になります。撮影中、30fpsを120fpsまたは240fpsに切り替えると撮影可能時間は短くなります。

- 撮影枚数/撮影時間は目安(おおよその数値)であり、画像の内容によって少なくなることがあります。
- ファイルサイズ/転送レートは目安(おおよその数値)であり、撮影対象によって変化することがあります。
- 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおよそその容量に比例した枚数が撮影できます。
- ハイスピード動画撮影時は、撮影時間と再生時間が異なります。例えば240fpsのハイスピード動画撮影を10秒間行うと再生時間は80秒になります。

主な仕様／別売品

画像ファイル形式 静止画:RAW(DNG)※、JPEG (Exif Ver.2.3/DCF2.0準拠/DPOF対応)
動画:MOV形式、H.264/AVC準拠、IMA-ADPCM音声(ステレオ)
※ DNGファイル形式はRAW画像ファイル形式の一つで、アドビシステムズ社が提唱する標準ファイル形式です。

記録媒体 内蔵フラッシュメモリー (画像記録エリア:27.6MB※)
SD/SDHC/SDXC
※ 内蔵メモリーをフォーマット後の容量

記録画素数 静止画:12M(4000×3000)／3:2(4000×2656)／16:9(4000×2240)／8M(3264×2448)／3M(2048×1536)

動画:FHD(1920×1080 30fps)／HD(1280×720 12fps／15fps／20fps／30fps)※／STD(640×480 30fps)／HS1000(224×64 1000fps)／HS480(224×160 480fps)／HS240(512×384 240fps)／HS120(640×480 120fps)／HS30-240(512×384 30fps・240fps切替式)／HS30-120(640×480 30fps・120fps切替式)
※ HD動画は、アートショット撮影時、またはタイムラプスの一部のシーンでの撮影時のみ使用できます。

有効画素数 1210万画素

撮像素子 サイズ:1/1.7型CMOS(裏面照射型)
総画素数:1276万画素

レンズ／焦点距離 F2.8(W)－6.3(T)/f=5.4～64.8mm(35mmフィルム換算25～300mm相当)

ズーム 光学ズーム12.0倍、プレミアムズーム併用時24.0倍
デジタルズーム4倍
HDズーム／デジタルズーム併用時最大93.6倍(3Mサイズ)

フォーカス	コントラスト検出方式オートフォーカス、AF補助光付き <ul style="list-style-type: none"> フォーカス方式: オートフォーカス/マクロ/マニュアルフォーカス選択可能 AFエリア:インテリジェント/スポット/マルチ(25エリアから選択)/追尾選択可能
--------------	--

撮影距離範囲 (レンズ先端から)	オートフォーカス: 約6cm~∞(W端) マクロ:約6cm~約50cm(W端) マニュアルフォーカス: 約6cm~∞(W端) <ul style="list-style-type: none"> 光学ズームにより、撮影距離は変化します。
-----------------------------	---

測光方式	撮像素子によるマルチパターン測光/中央重点測光/スポット測光
-------------	--------------------------------

露出制御	プログラムAE/絞り優先AE/シャッター速度優先AE/マニュアル露出
-------------	------------------------------------

露出補正	-2.0EV~+2.0EV (1/3EVステップ)
-------------	------------------------------

シャッター方式	CMOS電子シャッター/ メカシャッター併用
----------------	---------------------------

シャッター速度	静止画(プログラムオート): 1/4~1/1600秒 静止画(プレミアムオート PRO): 4~1/4000秒 静止画(絞り優先AE): 1~1/1600秒 静止画(シャッター速度優先AE): 15~1/1600秒 静止画(マニュアル露出): 30~1/1600秒 <ul style="list-style-type: none"> 高速連写モードのシャッター速度優先AE/マニュアル露出時のみ1/20000秒まで可能。 カメラの設定により異なる場合があります。
----------------	---

絞り	F2.8(W)~F7.9(W) (NDフィルター) <ul style="list-style-type: none"> 光学ズームにより、絞り値は変化します。
-----------	--

ホワイトバランス	オート/太陽光/曇天/日陰/ 昼白色蛍光灯/昼光色蛍光灯/ 電球/マニュアルホワイトバランス
-----------------	--

ISO感度 (標準出力 感度)	静止画:オート/ISO80/ ISO100/ISO200/ISO400/ ISO800/ISO1600/ ISO3200/ISO6400相当 静止画(HS ナイトショット): 最大ISO25600相当 動画:オート
フラッシュ モード	フラッシュオート/発光禁止/ 強制発光/赤目軽減機能
フラッシュ 撮影範囲 (ISO感度 オート時)	約0.4~約4.1m(W端) 約1.4~約1.8m(T端) ・ 光学ズームにより範囲は変化 します。
フラッシュ 光量調整	-2、-1、0、+1、+2
フラッシュ 充電時間	約5秒
通信機能	Bluetooth: ・ 通信規格: Bluetooth® Ver.4.0 Wi-Fi: ・ 準拠規格: IEEE 802.11b/g/n ・ 使用周波数範囲: 1~11ch ・ 暗号化方式: WPA2
画像 モニター	3.0型TFTカラー液晶 921,600ドット チルト機構(180度)

外部 接続端子	マイクロUSB端子(Hi-Speed USB準拠/USB充電対応) HDMI output(マイクロ/タイプ D)
マイク	ステレオ
スピーカー	モノラル
電源	リチウムイオン充電電池 (NP-130A) × 1個

電池寿命

下記の電池寿命は温度23°Cで使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

静止画撮影枚数※1	約425枚
静止画撮影枚数 (ECO)※1	約495枚
動画実撮影時間 (FHD動画)※1	約1時間30分
動画連続撮影時間 (FHD動画)※2	約2時間30分

動画連続撮影時間 (ハイスピード動画 (HS240))※2	約2時間45分
タイムラプス 撮影時間※2 (FHD動画※3)	約4時間
連続再生時間 (静止画)※4	約6時間40分

- 温度:23°C
 - 使用電池:NP-130A(定格容量:
1800mAh)
 - 記録メディア:16GB SDHCメモリー
カード(SanDisk Corporation製)
- ※1 CIPA(カメラ映像機器工業会)規格に
準ずる
- ※2 カシオ基準による
- ※3 その他設定
タイムラプスシーン: スタンダー
ド、撮影間隔:1/2秒、トータル時間:
OFF、スリープ:1分のとき
- ※4 約10秒に1枚ページ送り

- 前記は、新品の電池のフル充電状態での
数値です。繰り返し使用すると、電池寿
命は徐々に短くなります。
- この数値は実際の使用での電池寿命を
保証するものではありません。
- フラッシュ、ズーム、オートフォーカス、
高速連写の使用頻度や電源が入った状
態の時間、その他設定、使用時の温度に
より、撮影時間または枚数は大幅に異な
る場合があります。

消費電力 DC3.7V 約4.8W

外形寸法 幅108.3mm×高さ61.5mm×
奥行き36.7mm
(突起部除く奥行き28.0mm)

質量 約249g
(電池およびメモリーカード含む)
約209g
(電池およびメモリーカード除く)

■ リチウムイオン充電電池 (NP-130A)

定格電圧	3.7V
定格容量	1800mAh
使用周囲温度	0～40℃
外形寸法	幅37.8mm×高さ44.8mm× 奥行き11.2mm(突起部除く)
質量	約38g

■ USB-ACアダプター (AD-C54UJ)

入力	AC100-240V 50/60Hz 90mA
出力	DC5.0V 650mA
使用周囲温度	5～35℃
外形寸法	幅64.6mm×高さ38.4mm× 奥行き24mm(突起部除く)
質量	約40g

■ 別売品 (2017年1月現在)

- 充電器 BC-130L
- リチウムイオン充電電池 NP-130A
- USB-ACアダプター AD-C54UJ
- 本革ジャケットケース/
ネックストラップセット EJC-300
- ソフトケース ESC-330
- ネックストラップ ENS-2

上記をはじめとする別売品の最新情報については、携帯電話やスマートフォンで下のQRコードを読み取るか、下記アドレスに接続して、Webサイトでご確認ください。
また、カタログでもご確認いただけます。



<http://casio.jp/dc/option/>

別売品は、お買い求めの販売店、または
e-casio カシオオンラインショッピング
にご用命ください。

URL: <http://www.e-casio.co.jp/>

索引

英数字

A (絞り優先) モード	78
AF エリア	181
AF 補助光	195
AF 連写	108
Bluetooth	241
DCF 規格	292
DPOF	272
EXILIM Connect	249
HDMI	168
HDMI 出力	212
HDMI テレビ出力	168
HDR	157
HS (ハイスピード) 動画	131
HS シーン撮影	66
ISO 感度	88
ISO 感度上限	179
Language	305
M (マニュアル露出) モード	77
PLAY	302
PLAY MENU	214
RAW 撮影	167

REC MENU	171
S (シャッター速度優先) モード	78
SD メモリーカード	56
SDHC メモリーカード	56
SDXC メモリーカード	56
SETTING	295
STD 動画	125
USB ドライバー	287

あ

アートショット	114
アイコンガイド	197
赤目軽減	92
明るさ編集	232
アシスト表示	198
位置情報	267
印刷	271
インターバル撮影	120
インテリジェント	181
液晶開閉	302
液晶設定	297
液晶モニター	31
エコモード	296
オートパワーオフ	301

オートフォーカス	75, 85
オートマクロ	86
音声	129
音量	298

か

回転表示	236
顔検出	183
拡大	210
確認しながら送信	264
カスタムショット	153
画素	189
キーカスタマイズ	175
機内モード	263
強制発光	92
グリッド	198
グループ	205
グループ解除	208
グループ編集	240
コピー	209, 238
コンティニユアス AF	185
コントラスト	194

さ

再生 (再生モード)	70, 202
------------	---------

彩度	193
撮影 (撮影モード)	64, 76, 125
撮影レビュー	196
時刻	53, 299
自動送信	264
自動送信ファイル設定	266
シャープネス	193
シャッター	65
充電	43, 335
消去	71
消去キー	303
シングル超解像ズーム	96, 102
人物	155
ズーム	96
スチルインムービー	142
ステップズーム	98
スマートフォンから見る	261
スマートフォンで撮影	255
スマートフォンへ送る	260
スライドショー	222
スライドパノラマ	160
スリープ	301
静止画	64, 70
静止画画質	190

静止画サイズ	188, 237
セルフイーアート	119
セルフイータイマー	124
セルフタイマー	80
操作音	298
操作パネル	79
送信時リサイズ	267
測光方式	95

た

タイムスタンプ	299
タイムラプス	137
縦画像回転再生	299
ダブル保存 (HDR アート)	118, 196
超解像ズーム	96, 102
追尾	181
デジタルズーム	96, 195
手ブレ	128, 186
手ブレ関連機能	186
テレビ	211
電源	54, 335
電池	43
電池残量	51
動画	125, 202

動画画質	191
動画撮影範囲	199
ドラマチックスロー	144
トリプルショット	156
トリミング	237

な

内蔵メモリー	56, 238
日時	52, 235, 303, 304
日時設定	304
日時編集	235

は

背景ぼかし	158
ハイスピード動画	131
ハイライトスコア	220
ハイライトフォト	219
ハイライトムービー	217
パストムービー	134
パソコン	277
発光禁止	92
被写体ブレ	186
ヒストグラム	198
日付	299, 305
日付プリント	276

表示言語	305
表示スタイル	305
ピント	67, 75
ファイル	291
ファイル No.	300
ファンクションリング	175, 216
風音低減	196
フォーカスフレーム	67, 182
フォーカス方式	85
フォーカスロック	87
フォーマット	60, 306
フォルダー	291, 293
フォルダー作成	298
フラッシュ	92
フラッシュ光量	194
プリンター	271
プリント	271
プリント設定	272
プレミアムオート PRO	64
プレミアムズーム	96, 103
プログラムオート	76
プロテクト	233
フロントシャッター	173, 215
ペアリング解除	270

ベストショット	147
ホワイトバランス	82, 231

ま

マクロ	85
マニュアルフォーカス	85
マルチ超解像ズーム	96, 103
ムービー	125, 202
ムービーカット	227
ムービー結合	229
ムービー作成	226
無線 LAN	241
無線 LAN パスワード	269
無線設定	263
メイクアップ	89
メッセージ	353
メッセージの言語	305
メニュー	61, 171
メモリーカード	56, 306, 338
モーションシャッター	110, 113
モーションプリント	230
モードダイヤル	65, 76
モードメモリー	201

や

夜景撮影 347

ら

ライティング 193, 230

リサイズ 237

リセット 307

連写 104

連写マルチプリント 239

連写モード 104

録音 129

露出補正 90, 200

わ

ワールドタイム 303

ワイドショット 163

ワンタイムシェア 257